

0441

0440

號

閱

呈

世兵課補佐課銃砲課連帶

房官臣大課局務主				裁決		大臣		件番	受領
了結領受出提領受號番								名	號
明治	明治	明治	明治					官物不正賣却ニ関スル件 審受第一二三ノニ 第五師志	
年	年	年	年						
月	月	月	月						
日	日	日	日						
長局帶聯						次官			
						高級副官			
長課帶聯								廳名	
 								第五師志	
						主務副官			
者記筆案審									
									

事件主件此ニシテラレタ
リテ
有
シ
タ
リ

世平課補任課鋭記課連帶

至急

関

受領番
件名
審受第一二三ノ二
官物不正賣却ニ関スル件

廳名

第五師團

大臣



次官



高級副官



主務副官

主計

參事官

主務局長



主務課長



主務課員



務局課大臣官房

受領出提受領了

明治	明治	明治	明治
年	年	年	年
月	月	月	月
日	日	日	日

聯帶局長

聯帶課長



審案筆記者

0441

號

一

如左
一、明治
二、明治
三、明治
四、明治
五、明治
六、明治
七、明治
八、明治
九、明治
十、明治
十一、明治
十二、明治
十三、明治
十四、明治
十五、明治
十六、明治
十七、明治
十八、明治
十九、明治
二十、明治
二十一、明治
二十二、明治
二十三、明治
二十四、明治
二十五、明治
二十六、明治
二十七、明治
二十八、明治
二十九、明治
三十、明治
三十一、明治
三十二、明治
三十三、明治
三十四、明治
三十五、明治
三十六、明治
三十七、明治
三十八、明治
三十九、明治
四十、明治
四十一、明治
四十二、明治
四十三、明治
四十四、明治
四十五、明治
四十六、明治
四十七、明治
四十八、明治
四十九、明治
五十、明治
五十一、明治
五十二、明治
五十三、明治
五十四、明治
五十五、明治
五十六、明治
五十七、明治
五十八、明治
五十九、明治
六十、明治
六十一、明治
六十二、明治
六十三、明治
六十四、明治
六十五、明治
六十六、明治
六十七、明治
六十八、明治
六十九、明治
七十、明治
七十一、明治
七十二、明治
七十三、明治
七十四、明治
七十五、明治
七十六、明治
七十七、明治
七十八、明治
七十九、明治
八十、明治
八十一、明治
八十二、明治
八十三、明治
八十四、明治
八十五、明治
八十六、明治
八十七、明治
八十八、明治
八十九、明治
九十、明治
九十一、明治
九十二、明治
九十三、明治
九十四、明治
九十五、明治
九十六、明治
九十七、明治
九十八、明治
九十九、明治
一百、明治

次官ヨリ第五師團參謀長へ照會案

陸 軍

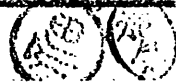
十月三日附進第五七號報告了承事件取調ニ関シ當時ノ
 関係者申立中符合セサル事項ニ對シ之レヨリ更ニ調査ヲ進
 ルモ到底真相ヲ解明シ難キヤノ意見ニ候處甲号取調
 書類中聯隊長有吉雅一、始末書ニハ堀上彈賣却代
 金ヲ聯隊長ニ於テ保管サレタキ旨申出シニ由リ其ノ出
 處如何ヲ問訊シテ初ノテ事實ヲ承知シタル様陳述シ
 アルモ當時、兵器委員主座柴豊彦、始末書ニ依レハ
 豫メ堀上彈及ニツケル被筒等、拂下見積書ヲ徴シ
 之ヲ聯隊長ニ報告シ然ル後拂下ヲ決行シタル如ク申
 立居候然ルニ此等、點ハ今回、事件ヲ判断スルニ重

要ナル關係ヲ有スルモノト被存候條至急事實再
調ノ上報告相成度候也

陸軍省
陸軍第一二二

十月十四日

陸軍



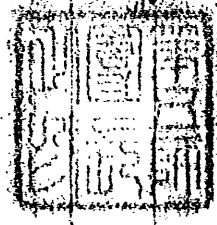
領省 審受第一
八月十日
九月
西郷
從德
九月十五日

進部 八
八月十日
八月十日
八月十日
八月十日

金屑類賣却ノ関スル件報告

大正元年八月十日 第五師團長大谷喜久藏

陸軍大臣 甕上原勇作殿



本月上旬廣島憲兵隊長ヨリ歩兵第十一聯隊及全留
守隊ニ於テ廢彈及金屑等賣却ノ件ニ関シ内牒ニ接
シ候ニ付直ニ該事實ヲ調査候處留守隊ニ関スルモノ
概要左ノ通り有之候條目下尚ホ調査進行中
ニ有之候得共此段不取敢及報告候也
尚ホ全聯隊、属スルモノニ関シテモ全標目下調査中、
有之候條目下報告可致申添候

左記

明治四十四年四月庚午六月、兩回ニ於テ步兵第十一聯隊面
守隊兵器委員中尉太下達男全隊銃工長永友正一郎
ハ協議、上全隊於前年度未整理ノ屬スル表外旧
式藥莖及破損拂彈子并、留守隊編成ノ際聯隊兵器
委員ヨリ受継キ整理ノ結果生タル表外金屬類ヲ隊長
并、首座ノ承認ヲ經テ之ヲ商人、拂下ケ談金額(計約百
圓)ヲ以テ兵器格納庫垂布、狹窄實包鉛彈、銃工場表
外所有ノモノ自費車ノ購入ニ充當セリ

舊式拂彈子ハ白式拂彈ト拘テ兵器格納庫規則ヲ遵守スル
0445 此等拂彈子ハ兵器格納庫規則ニ違反スルモノナリ
0445 此等拂彈子ハ兵器格納庫規則ニ違反スルモノナリ
狹窄實包鉛彈、拂下ケ談金額ノ必要ナリ

銃砲係

派遣中ノ聯隊兵器委
拂下ケタル破

左記

明治四十四年四月及六月ノ兩回ニ於テ步兵第十一聯隊留
守隊兵器委員中尉大下達男全隊銃工長永友正一郎
ハ協議ノ上全隊ニ於ケル前年度未整理ノ屬スル表外旧
式藥莖及破損擲彈子并、留守隊編成ノ際聯隊兵器
委員ヨリ受継キ整理ノ結果生シタル表外金屬類ヲ隊長
并、首座ノ承認ヲ經スレテ之ヲ商人、拂下ケ談金額(約金
計約百
圓)ヲ以テ兵器格納庫垂布、狹窄實包鉛彈、銃工場表
外備附シテ自轉車ノ購入等ノ資、充當セリ

明治四十五年十二月、於テ大下中尉ハ派遣中ノ聯隊兵器委
員步兵大尉桂秀生ヨリ還送ノ上拂下ケヲ委托セラレタル破

堀出射彈ハ兵器取扱規則第百條ニ依リ経理部ニ於テ
 之ヲ賣却シ其ノ代價ヲ陸軍官廳總務課宛賣却スルニ
 丁ルニテ收帳ナシキ
 但テ兵器ニ屬スル表外諸品ハ兵器支廠ニ送致スルモノ
 若シテ陸軍部ニ於テ之ヲ賣却スルモノ

破損品類、抑留品、前記ノ如ク兵器取扱規則ニ依リテ
 陸軍部ニ於テ賣却スルモノハ兵器支廠ニ送致スルモノ
 金屑及草屑類、後述ノ不明モノ若シ兵器取扱規則ニ依リテ
 セシモノ肩カトシ信房ニ送致スルモノ、抑留品、前記ノ
 正當ナルモノハ知分ヲ生じルモノ、新用モノ等ハ
 要ス

拂下ケ之ヨリ生セル金額ヲ陰、一ノ私金トシテ保管シ兵器費
 ニテ支辨シ能ハサル必要物品ノ購買并、兵器費定額ノ不
 足等ニ充足セル模様アリタルカ如ク從テ以上諸件ノ如キ
 或ハ金、此階級的是慣例ノ結果發生スルに至リタル

在ノ金屑及草屑類ト合
 下ケ該金額ノ内聯隊委
 ハ正當手續ニ依テ之ヲ

調査中ナルモ明治四十
 堀出射彈(四連發)作
 品破損品類等

損藥英、拂彈子等ヲ留守隊現在ノ金屑及草屑類ト合
セ隊長及首座ノ義認ヲ得テ之ヲ拂下ケ該金額ノ内聯隊委
員委託ノ分ハ全隊委員、送付シ他ハ正當手續、依テ之ヲ
國庫ニ納入シタリ

右ノ事實ハ目下尚ホ其詳細、互リ調査中ナルモ明治四十
一年前後此方ハ聯隊兵器委員、於テ掘出射彈(彈藥)作
業上ヨリ生スル金屑并ニ表外ニ屬スル諸品破損藥英等ヲ
拂下ケ之ヨリ生セル金額ヲ陰ニ一ノ私金トシテ保管シ兵器費
ニテ支辨シ能ハサル必要物品ノ購買并ニ兵器費定額ノ不
足等ニ充足セル模様アリタルカ如ク從テ以上諸件ノ如キ
或ハ全ク此踏襲的惡慣例ノ結果發生スルに至リタル

0449

モノニアラヤルヤル記ノラレ候

四

四

大臣

次官

満進第五〇七號

十月廿五日

西郷

官物賣却ニ関スル件報告

大正元年十月三日

第五師團長大谷喜久藏

陸軍大臣男爵上原勇作殿

大正元年八月十日進部八号ヲ以テ報告被垂リ物兵
 隊十一隊隊官物賣却事件ニ関シ各奉事者ニ就テ取
 調タル結果并ニ該取調ニ関連シ被覺タル物兵等七
 十一隊隊ノ同一事件ニ関スル取調ノ結果ハ別冊甲乙兩
 号ノ通ニ付別封處分案ニ係ル及報告ナリ也
 進テ別冊甲乙兩号共ニ各奉事者ノ申立一被セザル處ア
 ルノミナラス中ニ全正反對ノ申立ヲ為ス者モ有之某等

頃、然る責任ノ帰スル處明確ニサル嫌有之ヲ得共
 何レモ確タル証憑書類ヲ有スルモノニアラスシテ數年前
 ノ行為ニ関スル者亦事者ノ記憶ヲ喚起シ之ヲ任意
 ニ長スルモノナレハ宛極水拭端トナリ行政止ノ手續

中事件ニ至ル者事者ヲ懲罰
 ニ附シ置カレテ有師長ノ意見見ハ適
 當ニ決シ進シ

亦其ノ罪状陳白ノ事件ニ對テ師長ノ
 報告ニ事實ヲ判明ヲ以テ見アルヲ以テ
 尚調査中ナリ

十月二十五日

斗務局



頃、然る責任ノ帰スル處、明確ナル嫌疑有之ヲ得共
 何レモ確タル証憑書類ヲ有スルモノニアラスシテ數年前
 ノ行為ニ関スル者、奇事者、記憶ヲ喚起シ之ヲ任意
 ニ主張スルモノナレ、究極水拭端トナリ行政上ノ手續
 ヲ以テシテ、以上細部ニ関スル真相ヲ得ルコトハ頗ル難ク
 且、本調書ニ拠ルモ事件ノ大体ハ素ヨリ明白ニシテ其
 細部ニ関シテモ概テ推測シ得ラルルヲ以テ本調書ニ拠
 リ本事件ヲ處断スル覚悟ニ有之ヲ然ルニ別冊調書ニ
 依テ第五師團以外ノ部隊中ニモ固事件有之候ハレ
 其第一之見ニ於テ、自他處分ノ中庸ヲ保タレト必要ト存ハ
 ニ付実行ニ先ケ一應ハ指示ヲ仰キ、何分ハ指示有之方也

第五 満進第六三〇 號

著 八〇

第三四事

官物不正賣却ニ関スル報告

大正元年三月三日 第五師團長大谷喜久雄

陸軍大臣男爵上原勇作殿

上月十四日附陸密符一三二号ヲ以テ照會致早

速候隊長有吉雅一及當時ノ兵器委員首座

柴豊彦(有吉大佐ハ由多勢北條團長ヲシテ又柴

大佐ハ第六師團長ニ依拠シテ)ノ二名ニ就キ双方申

立合セサル兵ヲ再調教候處別紙呈シ通

ニテ十月五日附満進符五〇七号報告ト大差無

クハ尚進シテ申立合符合スル迄調査候度モ同

0453 任

下双方、亦或他何分遠隔、故其為多數、
 時月、所要スヘキコトト存候ニ付、茲ニ兩方、始末
 書ヲ添付、及報告ス也

写

号外

官物賣却ノ関ニル件報告

大正九年十月廿日 物賣第九師團長 川村宗五印

第九師團長大谷善久花殿

一、満進等五九七号ヲ以テ街照會ヲ致美由等十一隊隊

至屑賣却ノ件ニ関シ再應事實賣却調ノ上由等十

一隊隊長有吉大佐ヨリ別紙等ニ因由來書ヲ徴シ呈

出候

二、為事實ヲ慎重ニ取調置度目的ヲ以テ候由來書

ヲ徴スルト同時ニ本人ヲ招喚シ左ノ問答ヲナセリ

問、凡テ隊隊内ニ在リテハ事ノ大小ニ論テ一々隊長承

信ヲ得テ然レ後着タルハ亦然ノコトナリ独リコノ事
 件ノミ爾後承諾ヲ求メタルモノトモ局外者ヨリ之
 ヲ見レハ不可思議ナリ其理由如何

答

振揚彈索却代金ヲ柴中佐ヨリ受領スル一兩日前
 振揚彈索却代金ノコトヲ同中佐ヨリ承認スル外レトモ
 商人ノ見積書ヲ添テ同中佐ヨリ承認ヲ求メシ
 ルニテラス其後代金受領ノ時モ同様ナリ

之者未だ佐ノ言ニ依テ爾ノ始末書符合セサル矣ニ於テ再
 問ヲ命セラルハ衷心實ニ苦痛ニ堪エサル所ナリ何ナレバ
 如斯ク問ニ對シ辨解ヲナスハ情モ家庭ノ素乱紛擾
 ノ時ニ際シ父カハ供ナレハ法庭ニ訴フルト同様常識ナリ

ル父ノナスニ忍ヒサル所而シテ其禍源ハ父カ最初子供ノ
 行為ニ制裁シカエサリシ過失ニ外ナク因テ右様ノ災
 ニ関シ再調ヲ命セラルル事ハ家庭紊乱ヲ惹起
 セシメタル父即チ自カヲ處分セシムコトヲ希望ス云
 々

第二回始末書

塙上彈賣却、件々當初、取振、關、
 再應下問、對、度、記、之、通、實、況、申、述、也、
 塙揚彈藥、築、等、前、磯、隊長、時代、賣、
 却、（シ、アリ、タル、ヲ、イ、ハ、）今、回、事、件、發、生、後、憲、兵、隊、
 通、報、依、り、始、メ、求、知、ス、ル、次、第、ニ、テ、其、以、前、
 全、ク、委、員、ノ、間、於、此、如、キ、習、慣、ノ、繼、續、
 ア、リ、タル、ヲ、聞、知、セ、ル、既、チ、其、一、回、始、末、書、
 陳、述、之、通、キ、タ、ル、如、ク、本、職、着、任、後、凡、ソ、四、五、
 月、（確、實、之、記、憶、也、）ノ、後、本、時、ノ、兵、務、委、員、首、

座見此中佐より塘揚彈賣却代金相生
 是上國庫に納入、必要之無之具、今後尚
 相生より付、隊長に於て保管サレタキ者
 単紙に申出アリし、由り本職に金、創規外、
 拾収品事、何等差支ナキ儀、存し唯
 因中佐に金錢ノ收支に關係、注意ス其ハ喜
 義諾セシ、後前、關係及、今後取扱方
 等、何等、知セ、後、商人、具、積、書、素、
 紙、證、等、一、圓、點、拾、者、唯、時、々、何、月、頃、
 大約、幾、月、位、賣、上、代、金、收入、見、込、等、決

話的、聴取セシテアリシニテ只管同中佐、
 信賴シ常却代金トシテ持参セシ金錢、
 受納被_レ斥責以上、如ク當初_ニ事ヲ輕易_ニ
 観過_シ計_ラ失態相生_シ意次第_ニ候
 左相違無_ク之矣也

大正元年十月廿五日

步兵第五旅隊長有吉雅一 印

步兵第十一聯隊兵器委員首座在職中

霽彈拵下ハ最初ヨリ聯隊長兼知シタル石件

明治四十二年七月頃大尉ノ兵器委員交代ヲ行フ際霽彈ノ
現品存在額ヲ知ルト共ニ聯隊長室ニ於テ其概量ヲ報告シ
且ツ其拵下方法ニ就キ詮議セリ其時隊長ハ首座自ラ事ニ
當リ工長等ニ関與セシメサル様証意ヲ受ケタリ

上番大尉委員ハ未タ業務ニ習熟シアラサル故特ニ下番ノ
中村大尉ニ命シ從來ノ習慣ト成規ノ拵下手順トヲ参酌シ指
定商人ノ全部ヨリ見積書ヲ徴セシタル事トセリ

見積書ヲ出シタル商人ハ石津代作、吉田某、澤田某ノ三

名ミテ青野紙ニヨツケレ被套及銘ノ各種別ニ貫目
 ノ單價ヲ記載シアリ（其總金額ハ現品ノ數量ヲ精算シテ
 カル故單價ノミトセリ）此見積書ハ最初隊長ニ報告セシ
 ヲリ數日後ニ於テ首座ハ受領シ其儘隊長室ニ至リ見積
 最高額タル石津ノ分ニ赤色鉛筆ニテ「ノ符号」ヲ付シテ一覽
 ニ供シタリ此時隊長ハ總金額幾何程ナルヤヲ下問セシ
 タル故前ニ報告シタル齋彈概量約百貫ヲ联想シテ恐ラ
 ク七八十円ニ達スルナラント答ヘタリ

現品ノ受領ハ何等カノ都合ニテ首座ニ會スルヲ得ス中村
 大尉代理シテ商人ニ交付セリ其際現品ヲ精密ニ計量
 シ見積書ノ金額ト對照シテ總額ヲ受領セル由ヲ見積

書ニ就キ井下人ヲ決定シタル時ヨリ數日後ノ正午頃將
校集會所入口ニ於テ首座ハ大尉委員ヨリ金額ヲ表記セ
ル封入ノ金員ト齊彈ノ精確ナル數量ヲ記セ覺紙トシ受
領シ昼食後聯隊長室ニ至リ直接ニ隊長ニ手渡シセリ
隊長ハ最初ヨリ業知シスヤ否ヤノ概況ハ當時歩兵第十一
聯隊ニ在職セル上長官ノ全部之ヲ知りアリト思フ其他ハ
中村大尉及別役大尉略ホ之ヲ知レル筈ナリ

歩兵大佐 柴 豊 彦 印

大正元年十二月四日

0466

[illegible]

三子

本案實施ニ際シテハ現ニ所管外ノ服務スル
者ニ對シテ現任官ト協議ヲ重ヌルモノトス又懲
罰討ニ附スル者ハ軍令陸第ニ号及陸特第ニ号
ニ基キ其處分ヲ免除スルモノトス

(后阪)

(后阪)

甲 歩兵第十一聯隊關係者

重謹慎 十日 現聯隊長 歩兵大佐 有吉雅一

理由概要

性行謹嚴ニシテ常ニ率先躬行ハ其ノ端ヲ部下ヲ統制シ其信賴ヲ博スル極ニ深シ
後ヲ隊務備戰ノ成績常ニ優良ナリ今春北清地方戰亂ノ際特ニ簡便ニシテ天津
ニ駐劄セシ間ニ於テ其行動ノ極ニ適切ナリシニ徴スルモ其一端ヲ概知スルニ足ルモノ
本事件ノ如キ重大ナル過失ヲ惹起スルニ至ラズルニ畢竟該事件ノ首魁ニ下ニテ
先例ニ依リ專斷セシタル既行事件(次行ノ後ハ報告ヲ受ケ)ナルト又其私金ナルモノカ
單ニ振揚彈ノ残物ノミヲ賣却シテ得タルモノニシテ明白公金ノ性質ヲ有スルモノ
轉化セタルニアラサルヨリシテ一時之ヲ是認シタルモノニシテ明白四十三年十月陸連ヲ以テ振
揚彈ヲ管轄資金ニ組入ルル規定セシメ爾後該彈ハ明カニ官物タルノ性質ヲ有
スルニ至ラズル後一切私金ナルモノヲ受領シタルモノ又此私金ナルモノガ振揚彈以外ノモノ
リヲ傳ヘシタルトモ知ラサル等ノ事由ヨリ推察スルハ大ニ同情ヲ拂フベキ事由ナルトモ入只
該私金ノ總額及其賣金途ヲ明確ニ立証シ得ルハ頗ル遺憾トモ思ハレタリ大佐ノ性
格及其實行素行ノ行動ヨリシテ蓋シテ厚シク推察スルハ外ナレ獨リ部下委
員ガ振揚彈以外ノ物迄モ賣却シテ私金ヲ作り且往々專斷的ニ之ヲ賣消シタル
ヲアル知ラサルハ監督不行届ノ責ハ輕視スベカラサル事ニ屬ス之ヲ要スルハ大佐ハ本

三三三

0466 0465

0464

處分案

甲 歩兵第十一聯隊関係者

重謹慎

十日

現聯隊長 歩兵大佐 有吉雅一

理留概要

性行謹嚴ニシテ常ニ先躬行ハルヲ以テ部下ヲ統督シ其信頼ヲ得タル極ニ深シ
後テ隊務漸成ニ成績常ニ優良ナリ今春北清地方騷亂ノ際特ニ簡便ニシテ天津
ニ駐劄シタル間ニ於テ行動ノ極ニ適切ナリシニ徴スルモ其一端ヲ先規知スルニ足ル
本事件ノ如キ重大ナル過失ヲ惹起スルニ至リタルハ畢竟該事件ノ首魁以下ニ於テ
先例ニ依リ専断セシタル既行事件ノ決行ノ後ニ報告ヲ受ケタルト又其私金ナルカ
單ニ堀揚彈ノ残物ノミヲ賣却ニテ得タルモノニシテ明白ハ金ノ性質ハ有コルモノ
轉化シタルニアラサルヨリ一瞬之ヲ是認シタルモノニシテ明白ナリ且年十月陸連ヲ以テ堀
揚彈ヲ管轄資金ニ組入ルル規定セシメ爾後該彈ハ明カニ官物タルノ性質ヲ有
スルニ至リタル後一切私金ナルモノヲ受領シタルヲナラズ又此私金ナルモノガ堀揚彈以外ノモノ
リニ轉化シタルコトヲ知ラサルモノ等ノ事由ヨリ推定スルハ大ニ同情ヲ拂フヤキ事由ナレトモス
該私金ノ総額及其賣金ノ明確ニ立証シ得ルハ頗ル遺憾トスルハ外ナシ大佐ノ性
格及其實業ノ平素ノ行動ヨリテ是實ノ私ナキモノト推斷スルハ外ナシ獨リ部下委
員ガ堀揚彈以外ノ物迄モ賣却ニテ私金ヲ作り且往々専断的ニ之ヲ賣渡シタル
コトヲ知ラザリシ監督不行届ノ責ハ輕視スベカラザル事ニ屬ス之ヲ要スルハ大佐ハ本



事件ニ関シ先分考慮ヲ欠キ疎虞ノ失態ヲ贖成シタル事ナリ仍テ上記ノ如ク處分セシ
トス

重謹頓 十日

元 兵部委員又首座 步兵大佐 柴豊彦
現 第八師團參謀長

理申概要

諸連シテ學殖深ク頭腦極メテ明晰ナル職務ヲ熱心ニシテ余リ勤モスル小事ヲ亦爾視
スルハ性癖ナキニテ今固メ全府實業部事件ノ如ク蓋シ一方ニ唯積ヒル表外通利品
ヲ整理シテ兵器事務ノ簡便ヲ圖リ他ノ一方ニ聯隊ノ兵器業務ヲ一層改良スルニ
トスル忠実心ヲ多ク何ハナク先例ヲ踏襲セシムルニシテ其間ニ私意恩徳ノ含レ居
ルヲ見做スベキ疑念生ラセテ人情ノ於テ寧ク今情ヲ拂フニ足ルベキ事由ナキニ
笑ヒテ法規上ヨリ論スルニ不法ノ行為タルコト見易キ道理ナルニ委員首座トシテ已レ先
ツ不法ノ實ヲ發覺シ且點ト專斷的ニ之ヲ実行セタルニシテ（大佐ノ始末各ニ依レバ
最初ノ一回ハ拂下見積各ヲ微シテ之ヲ聯隊長ニ有吉大佐ニ呈シ其承認ヲ得ル如ク
記シテ之ヲ有吉大佐ノ始末各ニ決定行ハ後即チ和全受授ト全時ニ報告ヲ受ケル如
ク記シテ）先ニ報告シタル提揚隊以外ノ物件ヲ賣却シタルコト就テ何事報告
スル所ナク又拂下代金ト同シテ之ヲ任意ニ他ノ用途ニ充テタル分ヲ扣除シ其剩額
ヲ聯隊長ニ交附シ和全総額ニ付シ過誤ナラシメシヲ為メノ聯隊長ノ注意ヲ付ス
ル用意周到ナルナル等ノ大欠アリ之ヲ要スル大佐ノ行為ニ聯隊ノ兵器業務ヲ一層
改良ナラシメントスル忠実心ヲ多クシテ殆ンド要意識ニ先例ヲ踏襲シタルモノナリトハ
云々委員首座トシテ之ノ態度慎重ナルヲ其餘聯隊ノ留守隊兵器委員ヲシテ萬事
專横的ナラシムル因ヲ為ス至リ仍テ上記ノ如ク處分セントス

輕謹頓 七日

現留守隊長 步兵中佐 吉田宇平

理由ノ概要

全属賣却事件ノ関シ中佐ノ責任ヲ有スルハ留守隊長トシテ就任以後ノ事ニ
属シ且此期間ニ於テモ事實ハ專ラ委員ニ於テ專断セラルル之ヲ知リタルハ明治四十四年十
二月ノ賣却トシテ最後ノ一回分ニ對シ事後承認ヲ與ヘ正當ノ手続ヲ經テ國庫ニ納入セ
シタル迄ナレトモ留守隊長トシテ監督不行屬ノ責ハ輕カラス仍テ上記ノ如ク處分セトス

輕謹慎 三日

元 兵務委員 步兵大尉 別役良丈
現 中隊長

理由ノ概要

事ノ常否ヲ熟慮セシテ首坐監督ノ下ニ殆シト莫意識ニ先例ヲ踏襲シタルモノナ
レバ追究スルノ要ナキモ而モ高級委員タル者ハ免ルヲ得ス仍テ上記ノ如ク處
分セトス

重謹慎 五日

現 聯隊兵務委員 步兵大尉 桂 秀生

理由ノ概要

派遣隊ノ兵務委員トシテ前駐劄隊ヲ受継テハ過剰藥費ヲ專断ヲ以テ賣却
シタルモノニテ其概念ハ別役大尉トシテ承認シト與意識ニ先例ヲ踏襲シタルモノナ
レバ單獨ニ該私金ヲ保管シ事後承認スルに至リ上官ノ注意ニ依リ糾入ノ手続ヲ為シ
名ハ情ハ於テ心ハナキ矣アリ仍テ上記ノ如ク處分セトス

停職

現 留守隊兵務委員 步兵中尉 大下達男

理由ノ概要

聯隊渡滿以前ノ兵務委員トシテ首坐ノ監督下ニ於テ分担業務ニ服スル例ヲ其指
示ニ従ヒ全情願事ノ事ヲ同リタルモノナレバ難ラ其責任ヲ問フ要ナキト雖モ聯
隊渡滿後ハ於テ留守隊ノ兵務委員トシテ先例ニ準據シタルモノトハモヒナカ
ラ全属賣却ノ賣却及之ニ依リ得ル私金ノ保管員使用者悉ク之ヲ專断シ(事件ノ發覺セシ

トスルニ際し殊更ニ私金整理簿ヲ燒却セシメテ事件ノ真相ヲ曖昧ナラシムト共ニ自
 己ノ潔白ヲ証明スル唯一ノ材料ヲ併セ先ツトテ顔ミヤルカ如キ行為ニ之ヲ談私金ヲ以
 テ自家療用ノ自給車ヲ購入セル事件ト彼見シ綜合シテ推測スルハ私金と貴金と
 殆テ多少ノ疑ヲ來レヘキ余地ナキト要スルニ中村ノ留守隊兵番番員トシテノ行
 為ハ徹頭徹尾不謹慎ニシテ往々不正ノ行為アルコトヲ疑ハシムルアリ將校トシテ
 其体面ヲ汚シタルモトス仍テ上記ノ如ク處方スルヲ至當ト思科ス

乙 歩兵第七十一聯隊関係者

重謹慎 十日 現聯隊長 歩兵大佐 及部盛種

理由ノ概要

創設以來ノ聯隊長ニシテ小心謹慎を攻メテ隊務ノ整理ヲ圖リ部下ノ統一ヲ努メ其
実績著々ニ見ルベキモノ多シ殊ニ性行質實ヲ護嚴メテ常規ヲ確守スルニ取
テリ然レトモ本件ノ如キ重大ナル過失ヲ惹起シタル由事見付テ後事有テ勝テノ要例
ルニ及セラシ一時ノ知見有害ナル物質的改良ノ早メル部下委員等ノ輕率ニ付
事ノ當否ヲ熟慮セズテ之ヲ認容シタル結果ニ外ナラズ其行爲ノ不法ニ素ヲ
論スル限リモ非ルモ身精神ヲ於テ衰ユ私慾惡徳ヲ含ミ居ルモノト見做スベキ疑
念ナシ然レモ此誤断ヲ誤リ懲例ヲ除却シ得ヘキ好機ニ於テ之ヲ踏襲スル
コト恐可シ甚シク今面ノ失態ヲ陳スル至リ之ヲ要スル大佐ハ本事件ノ関レ充分
慮ヲ欠ク疎虞ノ失態ヲ陳シタルモノナリ仍テ上記ノ如ク處分セントス

輕謹慎 三日

理由ノ概要

元 現 互器委員首座 獨立守備第二大隊長 歩兵中佐 山田四郎
事ノ當否ヲ熟慮セズテ懲罰的ニ先例ヲ踏襲シタルモノニテ謀ク追突ノ要ナキヲ器
委員首座トシテノ責ヲ免トバ仍テ上記ノ如ク處分セントス

重謹慎 七日

元 現 互器委員首座 留守隊長 歩兵中佐 秋月齊

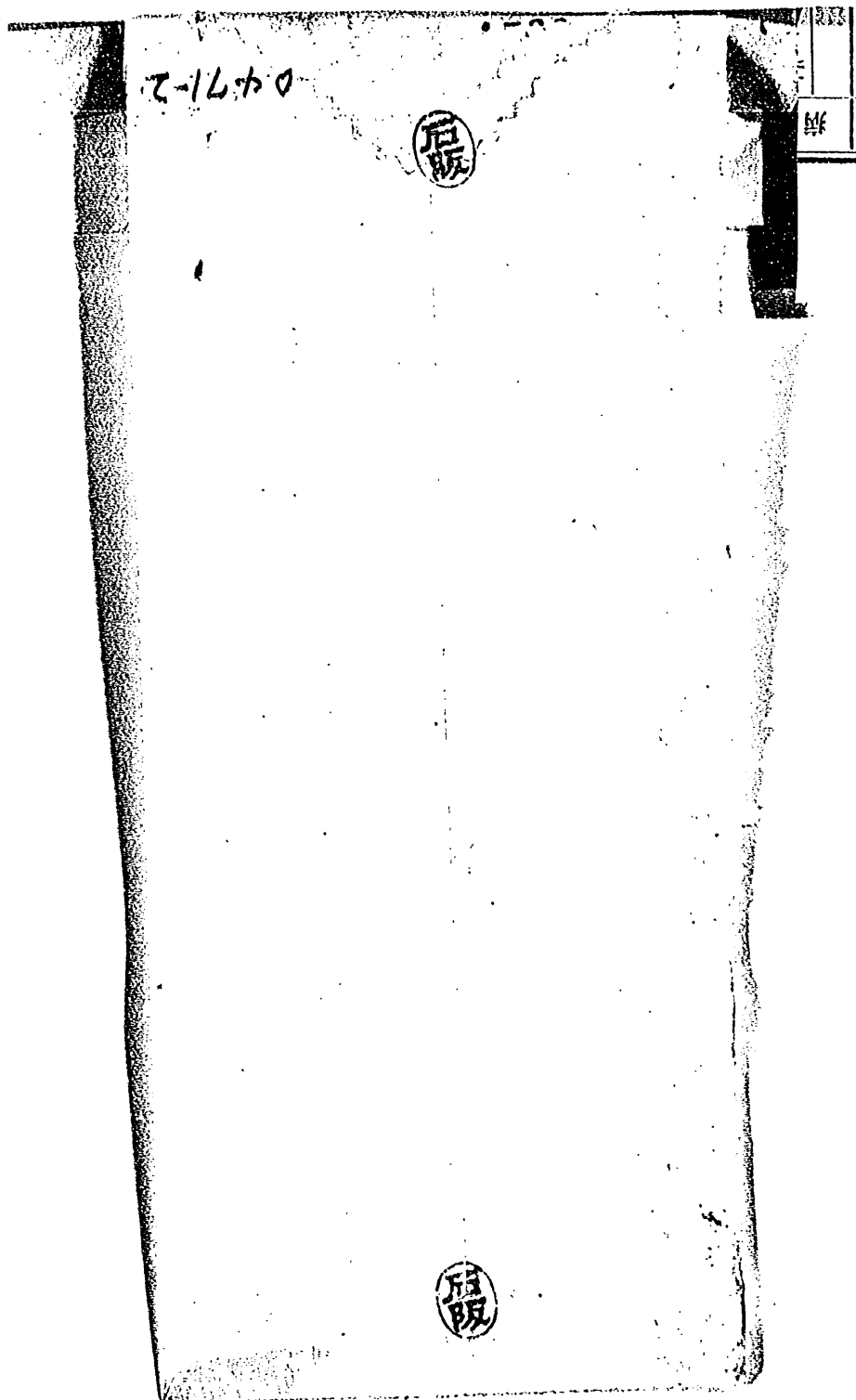
理由ノ概要

互器委員首座トシテノ責ヲ免トバ仍テ上記ノ如ク處分セントス
彈藥分關ノ嚴密ナル監督ヲ要スル點ハス依然前例ヲ踏襲シ就中留守隊長

0421

秘

刑部省度分案立書



トニテ尚ホ漫然之ヲ認可シ不法行為ノ範圍ヲ増進シタル處理周密ヲ欠キ並督不
充ナルヲ責メ免セス仍テ上記ノ如ク處分セントス

輕謹慎

三日

理由概要

元 兵部委員首坐
現 歩兵第四十二聯隊隊長 歩兵少佐 山本清次
事ニ當テ熟慮セズシテ根拠ヲ聯隊長ニ官物委託ノ認可ヲ求メ其結果聯隊不法
行為ノ嫌疑ヲ醸生スル事アリタルヲ責メ故テ輕カラスト雖モ明治四十二年十月陸連以前
ニ屬シ往々有勝々ノ弊習ニシテ據據以外ノ物品ニ涉ラズ情狀ハ酌量スベキモノアリ
故ニ上記ノ如ク處分セントス

重謹慎

三日

理由概要

元 兵部委員
現 歩兵第三十二旅團副團長 歩兵中尉 岡本靖
委員首坐並督ノ下ニ於テ分擔業務ニ服シタルモノニシテ強テ其責任ヲ解フノ要ナキ委員
免除ノ後ニ於テ尚ホ私金ヲ保管セシ如キ候令其情狀ニ於テ酌量スベキ矣ナキ非スト雖
モ其行為不謹慎タルヲ免セス仍テ上記ノ如ク處分セントス

重謹慎

五日

現 留守隊長兼委員 歩兵中尉 橋本喜和人

前者ト今ヒク首坐並督ノ下ニ分擔業務ニ服シタルモノニシテ強テ其責任ヲ解フノ要ナキ
モ私金ノ出納保管確実ヲ欠キタル故テ私囊ヲ肥ラズ惡意アルモノト認メ得サルモ其行
為卑劣ニ過キ謹慎ヲ欠クモノト認ム仍テ上記ノ如ク處分セントス

0472

非後

其後益々清和の中葉期に極となり、陳ハ先の本を固くおろ
 而陳陳官物者印事件に關シ意外ノ失態ヲ露出シ且陳ノ不
 味ハ本事件に關シ亦一方固クハ必死ヲ執リ其如ク懼シ極
 該事件調査に關係者多ク即ち其リは後照會に多クノ口を
 意外に遁じたり、陳ノ大作ノ真相ヲ明シ其リハ其ノ故
 上中流に同時にあり、本事件之処を案シモ添加証書ハ其
 由意ヲ得たる範圍に於テ必分リ決リ上中流に於テ其
 郭國^或其外にあり、其ヤトモ思ハレ自他ノ關係に軒輊ナカリ
 一意指案トシテ提出シ其ヤトモ思ハレ自他ノ關係に軒輊ナ
 謀長上流に節制シ其訓德ヲ成ルル者

ノ範圍ヲ減少スルト共ニ將來ノ経済振興ニ一大刺激ヲ与ルベシトモ
 ル事去々ニ眼隊長ノ全責任ヲ担ヒレナシテ懲戒知カシ附トモナラズ
 事件ノ真相ハ何處ニモ發生セシ事ニ公共ニ而食又ハ遊宴等ノ費ヲ求
 ムル目的トシタムモノニ非スレテ業務刷新上整頓ノ餌リ何處有儀
 衆衆召シ輕忽ニ取締ルモノニシテ不恰ノ行為ヲ志マシ余故ノ金地ニ
 其ノ元初ニ唾棄スルキ情地更ハ精神ヲ害シ如クモ部ト更ス
 有故ハ事件ヲ救フ可クモ當地ニ墮クシタム等其間大ニ情地ノ酌量
 スヘキ点有之ル事也所因液滿以事正ニ一年有半幸ニ悦
 愛榮風ニ感染セヌレテ軍隊ノ威信ヲ保持シ軍紀整肅ノ功ニ有
 害ナシ地方人民ノ一部ヲレテ愛智排費ノ功ニ業スル中虚隙ナキヲ歎也
 各団隊長ノ率先奮リノ儀表ニ因リタル事也

去タル及部有吉而大佐ノ如キハ止レ。此テ最モ屬正ノ態也ヲ指シ
 内外有誤者、常ニ歎惋スルト云ヒク有之殊ニ有吉大佐ノ北清源也
 百ニ指テハ態正ノ屬正ニシテ措置、操健ナリシハ其留内外人士ノ高レク
 是認シ歎惋措カサルハレシテ迄テ同年ノ價值ト其品位トノ中分ニ若
 折シヤンモノナリトハハカバ、内閣元和シシテ常カニ満足ノ意ヲ表レ然ルハ此
 然ルハ名譽見而大佐ノ身ト因レ一知不意ノ黜陟ヲ見ハユトアケレハ一
 般ノ人士ハ深ク事出、何カヲ希知セシテ一擢ノ特恩ヲ惹起シ累キ
 ノ歎惋ニ計シテ自ラ物念ヲ揮リト若シ同年ノ價值ニ輕テモ忝自ラ
 其高レヲ輕フヒンモノナレト云限ノレス滿州派を以テ上下一致シ
 為難ク排シテ蔽ハルノ師衆ノ威儀力ニカナル其裁部分ナリト云
 害ヒラケル如キ一アケレカ自家ノ失來自知、左報告ハ中ナリク實ハ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

右田中秀河を主として出た

新出

大正元年十月十三日

北達陽

大谷中將

上原晋吾閣下

陸

陸

説明ターゲット

次の原稿破損

7 年 6 月 22 日

主務者又は

撮影立会者

坂根嘉和



東京陸軍大臣官邸

男爵上原勇作閣下

御直披



0478

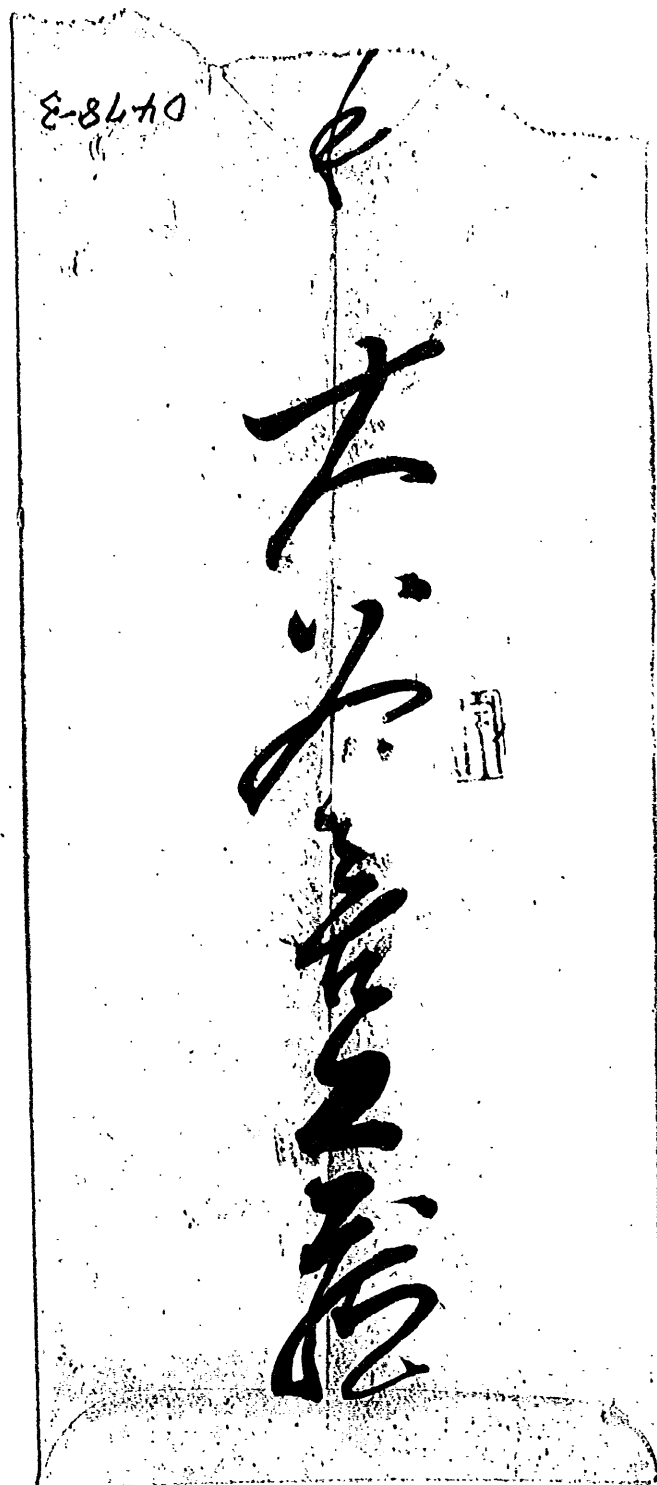


番號票
遼陽
貳九四

0478-2

力壽上京勇作閣下

私信 即直披



0429

秘

第五師團滿進第五〇七號二

關スル取調書類

甲號

官物賣却關係取調書類

步兵第十一聯隊



官物賣却ニ関ス書類目次

歩兵第1聯隊
留守隊 人甲第3号

官物賣却ニ関シ取調ノ件上申

師團長宛
歩兵第1聯隊長宛

二、廣本乙第9号

歩兵第1聯隊官物不正賣却ノ件

憲兵隊調書

三、廣本乙第10号

歩兵第1聯隊留守隊官物不正賣却ノ件

憲兵隊調書

四、歩兵第1聯隊
留守隊 人甲第5号

金盾賣却事件并ニ因取調報告

師團長宛
歩兵第1聯隊長宛

五、歩兵第1聯隊
司令部 越迷滿旅親甲第28号

官物賣却ノ件調査報告

師團長宛
歩兵第1聯隊長宛

步兵第11 満報第191号	步兵第11 松岡長友
聯隊	步兵第11 松岡長友
金屑類拂出ニ関スル報告	步兵第11 松岡長友
第11 満報第190号	
堀場彈及藥莢賣却ニ関スル報告	步兵第11 松岡長友
有吉大佐始末書	
土田中尉取調書	
別役大尉取調書	
福田中尉取調書	
貞廣中尉取調書	
井上鏡工長取調書	
桂大尉 取調書	

步兵第十一聯隊留守隊
人甲第三号

官物賣却ニ関シ取調ノ件上申

大正元年八月八日 步兵第十一聯隊留守隊長吉田宇平

印

第五師團長大谷喜久藏殿

四十四年四月當隊ニ於テ賣却セシ官物ニ関シ別紙
ノ通取調此段及上申候也

陸

軍

歩兵第十聯隊留守隊官物賣却件ニ付取調報告
 明治四十四年四月留守隊ニ於テ奥鎗盾其他金盾等
 ヲ賣却シタル件ニ付キ明治四十五年七月二十九日廣島
 憲兵分隊ヨリノ照會ニ對シ取調ハタル事實是如シ
 一明治四十三年十二月以前ニ於テハ堀上ケ彈ヲ以テ缺案
 實包用鉛彈ヲ製造シタリ而シテ堀上ケ彈ニ剩餘
 ヲ生スルニ至リタルハ堀上作業ヲ命スルニ當リ何賣
 目堀上ト命スルコト能ハステ當番卒ニ作業
 時間ヲ命ジ堀上セシムル結果自ラ過不足ヲ生
 スルニ至リタルモノ如シ
 當時堀上彈ノ殘餘ハ之ヲ鑄替又ハ現形ノ儘掛

二下ケタル形跡アリ然レモ其上納金ノ處置ニ就
 テ留守隊ニ調査スルモ審ナラス
 四十二年以後ニ於テハ前項ニ関スル場并彈ノ處置
 就キ其事實ヲ示シ

二從來ヨリ銃工場ニ於テ作業ヨリ生スル金属及表
 外ニ属スル洗矢、補助分解器等破損品破損藥
 莢、同押彈子及旧式藥莢、残品等ハ其處置ニ
 苦ミ鑄替ノ上拂ヒ下ヲナシ其上納金ヲ以テ武器
 牛入材料射撃賞品等ニ流用シタル形跡アルモノ
 ノ如キモ其出納方ニ関シテハ審ナラス

三明治四十四年四月留守隊編成後ハ金属類ノ計

六、外務省蔵書
日令部
送滿旅親第四六号

官物拂下二関元件報告

外務省蔵書
満報第三二八号

金屑拂下二関元件三回調書

甲号 調書

乙号 調書

丙号 調書

丁号 調書

七、大下中尉始末書

八、永支鏡工長取調書

九、外務省蔵書
満報第三二二号

師团长先
外務省蔵書

外務省蔵書
外務省蔵書

臣

臣

大下中尉自新車購入三箇元件報告

多喜有土珍作友

十、吉田中佐始末書

十一、柴大佐始末書

拂下金類ハ隊長及主座ノ承認ヲ得テ之ヲ金庫ニ納
メ之ヲ國庫ニ納入セシメタリト記載シタルモ憲兵ノ報告ハ
係ハ該承認ハ事件若覺ニ降シテ後承認ノ上左隊
於テ現時俸發中ナリト記載ナリ



六月二日ニテ隊長及
其中尉大下達男ト親

工長永友正一郎ト間ニ於テ協議ノ上拂ヒ下ケタリ實
施シタルモノトス

三月ニ於テハ金屑及革屑ヲ拂ヒ下ケタルモ隊長及
主座ノ承認ヲ得其金額ハ之ヲ正當手續ニ依リ國
庫ニ納入セシメタリ但シ其手續ヲ急リ七月納入ス
セリ

四月及六月ニ拂ヒ下ケタル金屑類ハ前年度未ニ於
テ未整理ノ金屑ニ屬スル表外回式藥莖及破損棒
彈子ト留守隊編成當時派遣隊ヨリ引継ノ際

下ケ形跡アリ其主ナルモハ四月六月ノ二回ニシテ隊長及
委員主座ノ承諾ヲ得ス委員中尉大下達男ト鏡
工長永友正一即ト間ニ於テ協議ノ上掛ヒ下ケノ實
施シタルモノトス

十一月ニ於テハ金屑及革屑ヲ拂ヒ下ケタルモ隊長及
主座ノ承認ヲ得其金額ハ之ヲ正當手續ニ依リ國
庫ニ納入セシメタリ但シ其手續ヲ怠リ七月納入ス
セリ

四月及六月ニ掛ヒ下ケタル金屑類ハ前年度末ニ於
テ未整理ノ否ニ属スル表外旧式藥莢及破損彈
彈子ト留守隊編成當時派遣隊ヲ引継ノ際

整理ヲナシタル結果生じタル表外金屬類ニシテ
 十月拂ヒ下ケルモノハ留守隊編成後生じタル表外
 破損藥莢同榴彈子、金屬及革屑ト派遣隊
 ヨリ拂ヒ下リ依託セラレタル表外藥莢同榴彈子等
 ナリ

五、金屬類ヲ賣却シ正當手續ヲ無サシ税金ノ総額ハ
 約百十円餘ニシテ其内課ハ次ノ如シ

一、派遣隊ヨリ直接申受ケタルモノ五円強

二、四十四年四月拂ヒ下ケニ依リ生じタル金額五十七円

三、四十四年六月拂ヒ下ケニ依リ生じタル金額約六十円

六、正當手續ヲ經タル金額尤ノ如シ

四十四年十二月并ヒ下ケヨリ生シタル金額十三月六十八錢
 七、正當手續ヲ經サル私金ハ派遣隊兵器委員主座
 方針ニ基キ兵器費ニ於テ支辨シ能ハサル必要ノ物
 品、購買及兵器費ノ定額ニ不足ヨリ生シタル場合ニ於
 テ補足セントスル目的ヲ以テ準備シタルモノ如シ而シテ
 遣隊委員ト申繼ノ際私金ハ大下中尉ト銃工長トニ
 於テ協議ノ上整理スヘキコト申渡サレタルニ依リ今
 日ニ至ル迄私金ヲ保管セシコトハ之ヲ隊長及委
 員主座ニ報告セサリシ次第ナリト
 八、該私金ハ大下中尉ニ於テ監視シ現金及預証書
 ハ銃工長ヨリテ之ヲ保管セシメタリ

私金出納整理ノ為メ銃工長ハ帳簿ヲ設ケ
之ニ其収支ヲ記帳シアリシカ憲兵隊ノ取調ヲ受ケ
ル前大下中尉之ヲ隱匿スヘシト命シタルニ銃工
長ハ之ヲ破棄セリ

九、四月及六月ニ於テ掛ヒ下ケタル賣却品ハ第二号
兵器、西方物置ニ格納シアリシカ賣却ノ際彈
藥箱ニ填寫員ノ印ヲ持出シ證ニハ大下中尉ノ捺印
ヲ受ケ購買人石津代作ヲシテ出向セシメタリ而シテ
運搬後同彈藥箱ハ填寫員ニ返納セリ

十、私金ノ使用ニ関シ知り得タル主ナルモノハ如シ
ノ、四十四年六月格納兵器庫ノ無布調價格約

二十九円

2、四十四年一月ヨリ三月ニ亘リ間ニ於テ狹窄實包
 鉛線不足ヲ生シ之ヲ購買シタル價格約二十五円
 目方約四十貫トス

3、四十四年七月頃銃工場表外トシテ備付自轉車
 ヲ購買スルストヨ中尉及銃工長ニ於テ協議シ其
 價格二十六円強ノモ^高通人ヨリ上納セシメタリ
 其代價ハ六月賣却シタルカノ上納金中ヨリ差
 シ引タルカ如シ而シテ其後中尉ハ該自轉車ヲ約
 一年月賦ヲ買ヒ取ルカトシ銃工長ト協議シ
 目下中尉、未辨殘額ハ二十六円ニ残ナリ

夫他ニ消費品トシテ七八円購買セリト云フ
 又、鏡工長目下保管セル金額二十三円七角トス

大正元年
八月八日 廣本乙第九號

歩兵第士聯隊官物不正賣却ノ件

明治四十年以来至四十四年四月ニ亘リ歩兵第士聯隊
ニ於テ多數ノ藥莖及揮彈子並ニ鉛ニツケル等ヲ溶
解シ或ハ其儘ニ制規ノ半續ヲ履行セス之ヲ同隊
ニ出入スル用達商人ニ拂下ケ其代金ハ當時ノ兵器
委員及銃工長ニ於テ処分ヲ曖昧ニ附シ居ル模様ア
ルヲ以テ調査シタル処尤ノ如シ

一事実

一、現実

(一) 明治四十年以来至四十四年四月ニ亘リ歩兵第士

朕等兵部委員助ケテ記人名ハ各在職當時
 真鍮貨千四十一貫三百五十九匁ヲ價格九百五十
 五匁六十四匁ニテ同隊ヘ出入セル用達商人廣島
 市堀川町石津代作ニ賣却シ代金ハ何レモ曖
 昧ニ処分シ尻ル模様ナルモ判明セス之ヲ詳細ニ
 類スレハ別表ニ通リトス
 用達商人石津代作ハ買受ケタル真鍮屑ハ
 全部廣島市西九軒町古金商緑貞助ニ賣
 却シ暴利ヲ獲テ尻ルモノ如ク緑貞助ハ之ヲ大
 阪市西區道頓堀二丁目尻研原源三ノ外三
 名ニ転賣シタルモノナリ

左記

兵器委員首座

步兵大佐 和田音五郎

左 柴 豊彦

左 委員

左 大尉 別役良夫

左 桂 秀生

左 中尉 貞廣高丸

左 少尉 福田 穂

一等銃長 井上 順一

左 才木 義男

(二) 石津代作ヲ取調ヘ其自白スル所ニ依リハ步兵大
佐當時中佐柴曲豆彦委員首座タリシ當時即

廿明治四十二年十二月頃
 廿堀四個、煙筒一個、コース八俵、木炭二百貫匁ヲ
 納入シ、尚ホ「ライ」ニ個ヲ貸與シタルコトアリ、同隊ニ於
 テハ銃工卒ヲシテ頻リニ藥莖及鉛等ヲ溶解セシメリ
 石津ハ之ヲ廉價ニ買受ケ、代金ハ委員或ハ銃工長
 ニ納證ヲ添ヘ納入セリト
 又溶解セシ真鍮及鉛ハ木製ノ箱ニ納メ銃工場
 倉庫ニ積載シアリシヲ、代作ハ店員古本又一ヨシテ
 車輛ニテ前記古金商縁方ヘ運搬セシメ持出証ハ
 委員ヨリ受領セリト

(三) 明治四十四年十二月頃、渡満中ノ歩兵第廿聯隊

之、謀知

兵器委員歩兵大尉桂秀生ヨリ兵器支廠ニ返納スヘキ
機関銃藥莖ト共ニ藥莖其他鉛屑鉄屑等約三十
貫匁ヲ送り之カ賣却方ヲ申来リタルニ依リ留守隊ニ
於テ石津代作ヨリ坩堝一個ヲ購入シ之ヲ溶解シ石津
ニ金二十円ニテ賣却シ留守隊兵器委員歩兵中尉
大下達男ヨリ桂大尉ニ宛テ小為替ニテ送金シタリト
而シテ送金ノ方法ヲ通常為替ニセサル理由ハ判明セス

(一) 溶解セシ藥莖ハ從來全隊ニ在リシモノニアラスシテ
毎年實包ノ打殼藥莖ハ支給サシニ總數ヨリ五十多
リ紛失シタリト稱シ之ヲ減シ廣島陸軍兵器支廠

目

目

ニ返納し剩餘ヲ作り幾分ハ備付ノ藥英給矢ヲ
補填し居タルモノナリ

(二) 賣却代金ノ小部分ハ首座及委員協議上私金
ト稱スルモノヲ作り居しモ其大部分ハ曖昧ニ処分シタ
ルモノノ如キ

大正元年八月八日

歩兵八師土聯隊留守隊へ通牒済

श्री

[illegible]

大正元年
八月一日 庚午乙未一〇号

歩兵第士隊留守隊官物不正賣却ノ件

歩兵第士隊留守隊ニ於テ昭和四年四月以來數回ニ奥新居
其他金屑百八十員七拾員ノ代價百八十五圓七十三錢ニテ不正ノ用
達商人唐島市堀川町在津代作外一名ニ賣却シタル件ニ付調
査シタル処左ノ如シ

一、事實

一、現實

(一) 昭和四年七月二十九日歩兵第士隊留守隊用達商人石
津代作ヲ取調ヘタル処別表ノ通り歩兵第士隊留守隊
ヨリ買受ケ更ニ之ヲ唐島市西九軒町緑貞助ニ賣却シタル

に供述せり

(二) 緑負助ヲ取調へん処石津申立ノ如ク帳簿ニ記入シテ
リテ且ツ其品目ハ軍隊ノ藥英掉彈子等ナル事判明
セリ

(三) 茲ニ於テ劉倭者一人ルハ兵弁士強隊留守隊一等銃
工長永友正市ノ呼出し取調へん処同隊兵番妻
貞歩兵中尉大下達男ノ命ニ依リ別表中明治ニ在ル
四月十五日貞齋居七十七貫匁ヲ金九十二匁ニテ今
年六月二十三日今七十三貫七百匁ヲ金八十匁六十八匁ニテ
何レモ石津代作ニ賣却シ今年十一月頃貞齋、銅、鉄
屑約三十貫匁ヲ金十三匁ニテ石津島市鉄砲所賣田房

0505

吉ニ賣却セリト

(四) 賣却代金ノ用込ニ就テ最初ニ賣却ニタル金九十二円
四銭ハ大下中尉ニ於テ永友鏡工長ノ手ニ經テ現金受領
保管中ナルモ果シテ保管セルヤ否ヤ不明ナリ次ニ賣却
セシ代金八十四円六十八銭ハ明治四十四年四月頃大下中尉
ハ永友鏡工長ノ世訖ニテ石津代作ヨリ自己棄用ノ自
轉車一輛ヲ代金三十四円ニテ購入シ其代金ヲ仕掛ヒ居
ラサリシヲ以テ之レシ差引殘金四十五円六十八銭ニ永友
鏡工長ハ石津代作ヨリ受領シ大下中尉ノ命ニ依リ
保管中其後全自轉車ノ修理ヲ要シ「タイヤ」「中が」
取換ヘ其他附屬品修理ノ為メ約二十円ヲ要シ左四十

證

証

四年八月以後日不詳兵器支廠ニ送納ス手狹窄彈
 ニ不足ヨ生シ前後二回ニ召津代作ヨリ約三十貫匁ヲ
 代金十八円ニテ購入神缺^境ヨ為シ其他左四十四年六月
 以後銃工場ニ於テ使用シタル消耗品ヲ數十回ニ購入シタ
 ル代金約十円ヲ何レモ該保管金ヨ支出セリ而シ此
 間今年七月頃金五円及其後日不詳二回ニ金二十円
 ヲ大下中尉ヨリ受領シタルヲ以テ都合残金ニ十二円七十
 五^五ヲ左銃工場長ニ於テ保管シ居レリ本保管ニ就テハ左
 銃工場長ト大下中尉ノ間ニ於テ出納簿ヲ作り其受払
 ヲ為シ居リタルモ本事件ニ付取調ニ著手スルヤ大下
 中尉ハ七月三十日銃工場ニ於テ斯ルモノハ後日ノ証拠品

トナルヘシトテ燒棄セリト最後ニ吉田房吉ニ拂下タル眞
鍬屑等ノ代金十三円ハ今留守隊長ニ於テ事後承認
ノ上今隊ニ於テ現時保管中

(五) 自轉車購入ノ件ニ付石津代作ヲ取調ヘタル処事實ニ
石津ハ更ニ堀川所品川弥藏ヲシテ大手所一丁目大場
自轉車店ニテ購入セシメ納メタルモノニシテ代金ハ現品
納入右約ニヶ月ヲ経過シ即今今年六月頃眞鍬屑
拂下代金ヨリ差引ケリト供述セリ

(六) 大下中尉カ自轉車購入ノ件ニ付該所ニ依リ該自轉
車ハ全ク保管金中ヨリ購入シ又保管金ヲ以テ修理
ヲナシタルモ良心外ノ爾後數回ニ金二十五円ヲ永友

銃工長ニ渡シタリト

(七)

本件ニ関シ大下中尉ハ八月二日午前六時頃元留守隊ノ
銃工卒ニシテ現時海軍工廠職工トシテ呉市在住ノ
山下唯一、壹津川清一ヲ各其居所ニ訪ヒ山下ニ對シ
其在營中永友銃工長カ真鍮類ヲ石津ニ賣却シ
常外へ運搬セシメタルコトヲ知リ居ルヤト尋ネタル事実は
アリ山下唯一ノ言ニ徴スルハ大下中尉ノ用件ハ山下等カ
當時ノ状況ヲ如何ナル程度迄知悉ニ居ルヤヲ確クル
ニアリシモノノ如ク又知悉ノ程度モヨリ山下等ニ對シ
口止メヲ為サントスルニアリタルカ如シ

又、詳知賣却シタル薬莖ハ従来同隊ニアリシモノニアラスシテ

毎年実包ノ折敵蘇我ハ支給サレシ名数ヨリ五ナ
 ノ紛失ニタリト称シテ之ヲ減シ廣島兵器支廠ニ返
 納シ剩餘ヲ作りタルモノナリ

大正元年八月八日

歩兵第士聯隊留守隊長ハ通牒済

步兵第10聯隊留守隊金屑抄下内証表

年月日	品目	数量	代價	備考	摘要
昭和四年九月十日	金屑	七五五	四九	代作	金屑は永年長保の爲に 抄下り加給代金は六千七百保の爲に
昭和四年九月十日	金屑	七五五	四九	代作	金屑は永年長保の爲に 抄下り加給代金は六千七百保の爲に
昭和四年九月十日	金屑	七五五	四九	代作	金屑は永年長保の爲に 抄下り加給代金は六千七百保の爲に
昭和四年九月十日	金屑	七五五	四九	代作	金屑は永年長保の爲に 抄下り加給代金は六千七百保の爲に
昭和四年九月十日	金屑	七五五	四九	代作	金屑は永年長保の爲に 抄下り加給代金は六千七百保の爲に
昭和四年九月十日	金屑	七五五	四九	代作	金屑は永年長保の爲に 抄下り加給代金は六千七百保の爲に
昭和四年九月十日	金屑	七五五	四九	代作	金屑は永年長保の爲に 抄下り加給代金は六千七百保の爲に
昭和四年九月十日	金屑	七五五	四九	代作	金屑は永年長保の爲に 抄下り加給代金は六千七百保の爲に
昭和四年九月十日	金屑	七五五	四九	代作	金屑は永年長保の爲に 抄下り加給代金は六千七百保の爲に
昭和四年九月十日	金屑	七五五	四九	代作	金屑は永年長保の爲に 抄下り加給代金は六千七百保の爲に

一、本表外商人自白せしモノ係者自白せしモノに在り留守隊

備 一、金屑は永年長保の爲に

昭和四年九月十日、金屑四貫、四内、十貫、(五貫)

昭和四年九月十日、金屑四貫、四内、十貫、(五貫)

昭和四年九月十日、金屑四貫、四内、十貫、(五貫)

二、金屑は永年長保の爲に

陸 軍

步兵第十一聯隊留守所 人甲第五号

金屑賣却事件第二回取調報告

大正元年八月十六日 步兵第十一聯隊留守所長代理 田中鶴次郎

第五師團長大谷喜久藏殿

金屑賣却事件ニ関シ別紙ニ通取調此段
及報告候也

陸軍

大正元年八月八日金屬類賣却事件ニ関シ第一回調査ヨリ
 乙所其後憲兵隊自事件ニ関スル取調書ノ移牒ト對照スルニ賣
 却金額ニ於テ相符合セサル矣アルヲ以テ更ニ取調ヲ重ニ結果次ノ如キ
 事實ヲ認ム

一、留守隊編成後四月及七月ニ賣却シタル金屬類ノ價額八百二十六
 円ニシテ目下其當時ノ納証現存セサルモ拂込受商人石津代作
 ヲ取調ヘ拂下納金調書ニ依リ確ナルコトヲ得タリ尙ホ銀工長
 永友正一郎ノ口述ニ依ルニ確然タル記憶ナシト虽モ略ホ其
 金額ハ拂下商人石津代作ノ納金調書ニ近似セルヲ認ム
 二、憲兵隊ノ調査書ニ依リ明治四十四年四月十日直真鍮金屬
 七十七匁及ヨ金九十二円四錢ニテ又同年六月二十三日同金屬

七十貫七十九文ヨ金八十兩六十八錢ニテ賣却シタルカ如クアルモ
 石津代作ヨリ差出シタル納金調書ニヨレハ二回ノ拂下金ノ
 合計百二十六兩ニシテ其差額四十六兩七十二錢ナリ其差額ハ奉
 還ニ掛受商人石津代作ヨリ更ニ百金兩納金調書ニヨリ賣却シ
 タル際石津代作ハ金盾一両五文ニ付納金三十兩内外ノ利
 得ヲ收メタルヤ疑アリ
 以上如キ状況ナルヲ以テ憲兵隊ノ調査書ニアル金額ハ或ハ
 石津代作ヨリ録員助ニ轉賣メタル當時ノ價額ナルカ如シ
 舊隊ニ於テ兵器手負資金ノ納金取調ヘタル結果ハ別表ノ
 如シ

五

[illegible]

0516

六月	五、〇〇〇		三、七〇〇	大下中町自新子月帳代
八月	三六、六〇〇		四九、三〇〇	左 同
合計	一八七、七〇〇	一三八、八七〇	四九、三〇〇	

7

陸

軍

歩兵第九旅団司令部 其送滿旅親甲第一三八号

官物賣却ノ件調査報告

大正元年八月十八日

歩兵第九旅団長 川村宗五郎

第五師團長大石喜久藏殿

満名第九三号ヲ以テ参考隊長照會ニ係ル歩兵第九旅団官物賣却ニ関シ別紙ノ通取調ヘ及報告候也

進テ調査未済ノ外ハ更ニ報告可致候

陸

軍

步兵第十聯隊 滿報第一九一号

金盾額拂出ニ関スル件報告

大正元年八月十七日

步兵第十聯隊長有吉雅一

職印

步兵第九旅團長川村宗五郎殿

別紙滿報第一九一号ニ関シ御下問ノ事項尤記ノ
通ニ付此段及報告候也

左記

一、四十二年七月ヨリ四十四年三月盡日ニ至ル兵器委員

ノ官氏名及業務担任

自四十二年一月
至四十四年七月一日

四十四年七月一日前

首座 步兵大佐柴田豊彦

庶務 步兵大尉中村勉作

陸

軍

自 四十四年七月九日	廣務歩兵大尉別役良夫
至 四十四年七月十日	彈藥檢歩兵中尉土田誠市
自 四十四年七月十日	同
至 四十四年七月十日	同
自 四十四年七月十日	同
至 四十四年七月十日	同
自 四十四年七月十日	同
至 四十四年七月十日	同
自 四十四年七月十日	同
至 四十四年七月十日	同
自 四十四年七月十日	同
至 四十四年七月十日	同
自 四十四年七月十日	同
至 四十四年七月十日	同
自 四十四年七月十日	同
至 四十四年七月十日	同
自 四十四年七月十日	同
至 四十四年七月十日	同

二、排下金、達

本職、始末書及別役大尉、係元調書ニ示ス外現
 留守隊ニアル大下中尉及其他、関係者、取扱度

スルモノハ目下取調中ナリ

三、資金ヲ作ル件ニ関シ協議セシモノノ氏名

前聯隊長當時ヨリ習慣的ニ委員間ニ於テ若干ノ資金ヲ作り來リシモノ如シ

四、渡満際駐劄地ニ資金ヲ携行セシヤ又其際ノ

留守隊委員ノ有セシ資金

渡満際携行セシ資金ナシ又留守隊ニ引継

際ハ資金ナキ筈

五、四十四年十二月留守隊ニ送りシ金盾ノ性質及

留守隊ヨリ送りシ金錢ノ保管

桂大尉ニ係ル調書ニ記載セル通トス

六、金盾掛下ニ関係セシ下士ノ氏名

四十二年十一月以前	予備役歩兵曹長山中唯一
自四十二年十二月 至四十四年十一月	同 三宅参二
四十二年六月以前	目下他部隊附砲兵曹長才木義夫
自四十二年六月 至四十四年三月	同 井上順一
自四十四年三月 至四十四年十月	留守所 同 永友正一
自四十四年十月 至今日	
以上	

步兵第
聯隊滿報第一九〇号

堀場彈及藥莢賣却ニ関テ取調ノ件報告

大正元年八月十七日

步兵第
聯隊長有吉雅一

步兵第
九旅團長川村宗五郎殿

當聯隊堀場彈及藥莢處理方ニ関テ當地現
在ノ關係者ニ就テ取調候結果別紙ノ通ニ候
間此段及報告候也

追テ留守隊殘留關係者ニ関テ件及證據書類
等ハ目下尚未調査中ニ在リ候

調書目録

- 一、聯隊長如未書
- 一、土田中尉取調書
- 一、別役大尉取調書
- 一、福田中尉取調書
- 一、負廣中尉取調書
- 一、井上鏡長取調書
- 一、桂土尉取調書

陸軍

始末書

明治四十二年(月日不詳)聯隊ノ兵器委員首座歩
兵中佐(目下大佐)柴豐彦ヨリ堀揚彈賣却
代金ヲ聯隊長ニ於テ保管セレタキ旨申出シ由リ
其出處如何ヲ問訊シタルニ堀揚彈ノ鉛(狹窄彈
ニ使用セシ殘品)及其被筒ノ廢物ヲ商人ニ拂下ケタル
代價ニテ今後ニ於テモ猶時々生スヘキ旨相答ヘ且ツ
此金錢ハ全ク私金ニ属スルニ何人カ所持スルモ萬一
間違等相生シテハ不都合ナルニ聯隊長直接保
管サル方至當ナルヘシトノ意見ナリシヲ以テ本職ニ於
テモ中佐ノ意見ニ全然同意シ別ニ何等法規ニ

違及スル儀モ無之事ト臆断シ同中佐ハ金錢授
 受ノ際下級者ニ於テ商人トノ間ニ不都合ヲ生セサル
 如ク必ス首座立會ノ上處理スヘキ義ヲ命シ置キタリ
 其後確實ナル記帳ヲ有セサルモ多ク二回中佐ヨリ賣
 上代價ヲ受領セシト考フ而シテ其最後ハ堀揚彈ヲ
 營繕補充資金ニ組入ルヘキ規定ノ發布サレシ前後
 即チ四十四年ノ十月頃ナリ此以後ハ射彈ノ堀揚ケハ
 師團經理部ノ手ニ移サレシメ聯隊ノ收入トスルヲ得サル
 ニ至レリ聯隊ニ於テ四十四年頃彈丸ノ堀揚ケハ射撃
 時期ニハ他聯隊ト競争ノ状態ニテ相互時日ヲ定メ
 實質施テ隨テ其數量ハ相應ニ多額ナリシ様覺ユ

本職ト柴中佐トノ金錢ノ授受ハ牛ヨリ牛ニ受渡シ本
 職ハ之ヲ直々ニ郵便貯金ニ組入置キ必要ノ都度隨
 意ニ支拂ヒタリ故ニ此支拂ニ就テハ何人モ承知シアルモ
 ナシ而シテ其収支ハ覺帳ニ記載シ置キタルモ全部
 支拂後ハ廢棄セシヲ以テ今記臆ニアラサルモ毎
 田柴中佐ヨリ受領セシ額ハ百円乃至三百円ノ間
 ナリシ様總覽ユ其全部ヲ費消シ盡シタルハ四十四
 年早春頃ト記臆ス目下如何ニ支出セシハ口數
 ノ多數ナルト年月ノ經過セシ為元分記臆ニアリ
 ルモ主ナルモハ軍旗祭費用約二百円、名譽射撃
 賞品代及優勝中隊祝宴費二百、計約二百円

狹窄射擊場構築材料費約三十円、將校剣術
場床板張換費約二十円、兵器委員専用自轉
車購入費約八十円ニシテ其他射擊、剣術競技
會賞品代、將校團、中士團自會費補足等
ニ使用セリ

以上ノ外藥莖ノ融解 廢品ノ賣却等ニ関シテハ
何等報告ヲ受ケタルコトナク今日ニ至ルマテ全ク承
知セズ

右ノ通相違無之候也

大正元年八月十六日

歩兵第士聯隊長有吉雅

(印)

三十七年戰役末期ヨリ四十二年三月ニ見ル兵器委員
歩兵中尉土田浅市ニ就キ取調ヘタル件次ノ如シ

問 委員トシテ業務ニ從事セシ期間及任務如何
答 三十七年戰役末期ヨリ四十二年三月迄ニシテ彈藥

掛リ担任セリ

問 當時射彈ヲ堀場ケシトアリヤ
答 初メニハ狹窄彈ノ必要數量丈ケ堀場ケ後

ニ委員首座ノ命ニ依リ歩兵第四聯隊ト
協議ノ上堀リ出シ得ル丈ケ成心可ク多量ニ
堀出セリ

問 堀堀ノ彈ハ如何ニ使用セシヤ

答 堀堀ノ彈ハ秤量ノ後之ヲ銃工長ニ渡シ銃工
長ハ其量ヲ直接委員首座若クハ高級委
員ニ報告シ記帳セリ工長ハ後之ヲ溶解シ被
甲ト鉛トニ區分ス鉛ノ内狹窄彈填替ニ必要
ナル量ヲ工長ヨリ受領セリ

問 狹窄彈ニ使用セシ殘金ノ鉛及被甲ハ如何ニ
處分セシヤ

答 銃工長高級委員ノ命ヲ受ケ商人ニ排下
タリト記帳ス

問 排下ケタル代金ハ如何ニナリシヤ

答 銃工長商人ヨリ代金ヲ受領セハ封入ノマ、

高級委員ニ出シ同委員ハ出納簿ニ記入
保管セシト覺ユ

問 兵器材料等購入ノ為委員首座若クハ

他ノ委員ヨリ金錢ヲ受領セシコトナキヤ

答 ナシ

問 堀場ヶ成ス為ノ他隊其他ハ交渉セシコトナキヤ

答 四十二年夏頃第七十一聯隊兵器委員蒲

瀨中尉ヨリ交渉シ受ケ月別ニ依リ各射撃

ヲ區分シテ採取スルコトニ定ム

又嘗テ兵器支廠ニ到リ同廠員ノ言ニ

第七十一聯隊兵器委員ヨリ堀場ヶ彈ノ始末ニ
 就キ問合セラシタルコトアリ貴隊ニ於テハ如何ニ
 ナリアリヤトノ問ニ對シ如何ニセハ適當ナルカヲ又
 問セシニ隊ニ於テ適當ニ處置セハ可ナリト
 第七十一聯隊委員ヘモ答ヘ置ケリト事ナリシ
 問 華英ニ殘數ヲ生シ表外トナリレモノナキヤ
 答 補充隊當時ヨリ引継來リシ單發銃ノ華英及
 其後ニ毎年生シシ殘數ヲ表外トナリ居シリ
 問 表外華英ハ如何ニ處置セシヤ
 答 委員任命ノ當時一應整理シ其數量ヲ委
 員首座ニ報告セリ其數約二十五六万發ナリ

シカト記臆ス之レハ別ニ帳簿ヲ作り記入シ置ケリ
問表外葉莢ノ出納ハ如何ニセシヤ

答四十年秋頃整理ノ結果表外葉莢ハ一部ヲ返納シ
大部ハ之ヲ溶解スルコトニ決シ方木鏡工長ニ渡セリ
同工長ハ約一ヶ月三且リ之ヲ溶解作業ニ從事シ
居リシカ如ク記臆ス

又四十二年夏頃前同ノ残り約五万發計リト其後
生セシ表外葉莢トヲ委員首座ノ命ニ依リ
井上鏡工長ヲシテ約二週間ニ亘リ溶解セシメタリ
問二箇ニ溶解セシ材料ハ尔後如何ニナリトヤ
答鏡工長之ヲ秤量シ首座若クハ大尉委員

ニ報告シ帳簿ニ記載シ居リ而シテ此材料ハ兩國共商人ニ拵下ケラレタルコトヲ記臆ス
問拵下代金ヲ取扱ヒタルコトアリヤ

答ナレ但商人ハ銃工長ニ納メ銃工長ハ之ヲ首座
著クハ大尉委員ニ封入ノマ、呈セシコトヲ見タル
コトアリ

問委員交代ノ降後任者ニ引継キシ表外蘇英
ノ數量如何

答約二万發計リト記臆ス

右ニ通相違無之候也

大正元年八月十六日 陸軍歩兵中尉土田浅市(印)

甲子年七月ヨリ四十四年十一月ニ亘ル兵器委員步兵大尉
別役良夫ニ就キ取調ヘタル件次ノ如シ

問 委員ヲ命セラルタル年月日如何

答 四十二年七月九日ナリ

問 前委員ヨリ引継ヲ受ケタルトキ金錢ハナキヤ

答 主、二内アリシト記帳ス之ハ前委員中村大尉ヨリ受領ス

問 引継金ハ如何ニセシヤ

答 兵器庫ニアル遺式ノモノ或ハ不足品ヲ買ヒ又ハ商人ヨリ

借上品ノ損料等ニ金計仕掛ニ帳簿ニ記入シ他帳

簿ト一所ニシ置ケリ

問 年貢任命後右帳簿に組入る金額アルヤ

答 四十二年冬柴中佐ヨリ之十四ヲ受領せしモ記帳ス

アルス大下中尉モ承知シアルト記帳ス

問 然ラハ右之十四ハ如何ニ使用セシヤ

答 年貢首座柴中佐ヨリ年貢員ニ於テ必要ナルモノアリ

トモ使用スヘク渡サレタリシニ依リ主トシテ番員多ク

書其他不足品ノ補填等ニ使用シ其残金十四兩

アリ依テ出費前此金ノ處置ヨリ首座ニ伺ヒテ處兵器

年貢又附下士ノ催カレ宴會ノ補足費ニ充テ様申

サレシニ付全部大下中尉ニ手渡セリ同中尉ハ宴會

ニ出場セシ故其降下士ニ渡セシ筈ナリ

問 委員在會中商人へ物品ノ拂下ヲセシトアリヤ

答 四、五回徳用商人石津代作ニ拂下ケタリ

問 毎回如何ナルモノヲ拂出セシヤ

答 最初ノ分ハ在庫ノ鉛ノ流物ナリト思フ

問 其時眞鍮盾若干ハ同流ノ物ハナカリシヤ

答 記臆セス

問 其後毎回拂出セシ品ハ如何

答 第二回ハ鉛流ノ物、堀場彈、鐵及眞鍮盾

第三回ハ堀場彈、被甲、鉛及鉄、空射撃場ヨリ堀

出シタル古銃、赤英

第四回以後ハ堀場彈(原形ノマ)

問 右排下代金額如何

答 毎田約五十四乃至二百田以下ナルト思フ

問 排下ニ渡ル牛續如何

答 首座ノ命ニヨリ穀工長ニ賣上ル毎田之ヲ秤量

シタル後記帳シ品物ヲ商人ニ下渡セリ而シテ其代

金ハ概ネ二週日前後ニ於テ商人ヨリ納證ト共ニ納入

スルモノヲ穀工長ト主賣上自ニ受領シ之ヲ首座

ニ下渡し記帳セリ

問 四十三斗土月頃ト二月頃トニ眞新派物ヲ又四十四斗

三月頃トニ眞新派物ヲ排下タルコトヲ記帳セサルヤ

答 何レモ記帳セム

右之通り相違無之候也

大正元年八月十六日

陸軍歩兵大尉別役良夫

(印)

陸

軍

明治四十二年三月ヨリ同年十二月三日止兵器委員步兵中尉福田稔夫ニ就キ取調ヘタル件次ノ如キ

問 委員ノ免命ハ何日ニシテ其間至トシテ如何ナル其末務ヲ掌リ居リシヤ

答 四十二年三月十五日委員ニ命セシ同年十二月五日委員ヲ免セシ彈藥ノ出納並包及狹窄彈ノ製造ニ関スル監視ヲ掌リシ

問 蘇木英ノ出納整理ハ誰シカ担任シ居リシヤ

答 委員附下士軍曹三宅参二之ヲ担任シ鍵ヲモ所持シ居リシ

問 前委員ヨリテ継グ受ケタルトモ蘇木英ノ廢兵等ハ

ナリシヤ

答 彈藥詰替所附屬ノ倉庫内ニ彈藥箱ニ入シタ

モノ多数アリテ倉庫ノ約三分ノ一容積ヲ占メ内ニ
空箱ニアリシカモ實セルモノ果シ何個アリシヤ記憶セ
ズ但彈藥箱ノ數ハ數萬ヲ滿セシテ

問 詰替所倉庫内ニアリシ彈藥箱ハ凡テ表外品ナリシヤ

答 表外品並實包打殺モ共ニ格納シアリ又詰替所

ニハ一日分ノ製作見込ノ數ニ對スル彈藥箱ヲ出シアリ

問 彈藥出納簿ニハ表外彈藥箱ハナカリシヤ又表外

彈藥箱ヲ整理セシトナキヤ

答 何シモナシ

問 四十二年十二月ニ多量ノ真鍮ヲ溶解シ商人ニ拵下

ケタルコトヲ承知セサルヤ

答 承知セズ又其他ノ時機ニ在テモ拵下ケタルコトヲ見聞

セタルコトナシ

問 商人ノ持出證ニ捺印セシコトナキヤ

答 ナシ

問 委員首座又其他ノ委員ヨリ金錢ヲ受取りシ

コトナキヤ

答 ナシ

右ノ通り相違無之候也

大正三年八月十五日 陸軍歩兵中尉福田徳夫印

陸

軍

四十三年十二月ヨリ四十四年一月ニ亘ル兵器委員歩兵中尉貞廣高丸ニ就キ取調ヘタル件次ノ如シ

問 委員ノ免命ハ何日ニシテ其間主トシテ如何ナル業務

一 フナシモ存リシヤ

答 四十三年十二月五日委員ヲ命セラル四十四年一月二十五日

委員ヲ免セラル彈藥ノコトヲ担任セリ但其間専ラ

勤員ヲ業務ヲ受持テ殆ト委員其業務ニ從事

スルノ暇ナカリシ唯一月十七日八日ノ兵器臨時換

査ニ降シテ彈藥詰替所ノ換査ニ主會合セシ任ノ

コトナリ

問 華英氣庫ニ就テ申送りヲ受ケシハ何日頃ニシテ
倉ニ庫ノ現在品ハ如何

答 何日頃ナリヤ記帳セシ委員ヲ命セヨシテヨリ大分
後ナリ現在品ハ記帳セサルモ彈藥ノ空箱カ積
ンテアルヲ見タリ

問 中尉自身或ハ委員ヲ附下士ヲシテ華英ノ處置
或ハ整理ヲナシ又ハ藥莖ヲ流解セシメトヲ知ニサル
ヤ

答 何レモナク又華英ノ流解セシメトヲ見聞セシメトナリ
間 狹窄射撃場ヲ構築シタルトモ藥莖ヲ堀上ケタ
ルコトヲ知セサリシヤ

答 普通ノハケツニ約三カニ位アリ此サ藥莢ハ殆ト

腐蝕ニアリテ中ニハ彈附着セルモノアリ狹窄彈

ノ藥莢ナリシナリ其他ニ擲出シタルモノナシ

問 委員首座ヨリ金錢ヲ受取りシコトナキヤ

答 ナシ

左ノ通相違無之候也

大正元年八月十九日 陸軍歩兵中尉眞廣高丸印

陸

軍

一等銃工長井上順一ニ就キ取調へん件次ノ如シ

問 當聯隊附トナリシハ何年ニシテ其業務担任如何

答 甲午三月當聯隊附トナセリ四十二年六月迄工場掛ヲ

後同年十月頃迄庶務掛ヲ、以後兵器庫掛ヲ
担任セリ

問 工場掛ノ降真銃盾及鉄盾等ヲ生セシトキハ如何
ニ處置セシヤ

答 盾類ハ箱入レ工場物置ニ收納シ置ケリ

問 庶務掛中堀揚彈ニ付取扱ヒシトナキヤ

答 一回堀採リニ從事セシトアリ又四十二年十月堀揚

彈拵下ニ三會シタルコトアリシモ其他ニ三會或ハ取扱

ヒヨサセシコトナシ

問拵下代金ノ處置道及金額如何

答百四金ニシテ商人ヨリ受取りタル後別役大尉ノ

許ニ持参セリ

問藥莖ヲ拵解セシコトアリヤ

答四十二年七月中旬ヨリ八月中旬ヨリ三旦リ彈藥拵下士

ヨリ藥莖ヲ受領シ工卒ヲ使役シテ工場北裏

ニ於テ拵解セシコトアリ其量ハ幾何ナリヤ
記臆ス

問拵解ノ爲使用セシ材料如何

答拵場ニ三個煙突一個鞆二個(商人ヨリ借受タ

ルモノ其他木炭「コークス」ヲ庶務掛ヨリ受領シ約
 一ヶ月間ニ亘リ融解シ終レリ融解シタルモノハ鋸工場
 物置ニ格納シ其後委員ニ引渡セリ委員ハ之ヲ直ニ
 其場ニ於テ商人ニ下渡セリ

問 四十四年十一月ヨリ十二月迄ノ間ニ於テ眞鍮ヲ融解
 シタルコトナキヤ

答 ナシ又見受ケタルコトモナシ

問 四十四年二月ニ眞鍮ノ融解シタルモノヲ排下ヲ又同
 年三月ニ眞鍮屑ノ排下ヲ相任シタルコトナキヤ

答 何シ共排下業務ヲ相任シタルコトナキモ此頃ニ
 固物品ヲ排下セシコトハ他ノモノヨリ委員事務

室ニ於テ聞キコトアリシニ四十四年二月一日商人
 石津ナルモノ素外草英代トシテ金六十八円ヲ持参
 セシカ此時担任者不在ノ爲自ラ之ヲ受領シ矣
 族ノ上委員大下中尉ニ差出セシモ同官ハ直ニ
 首座ニ出スヘキヲ命セラシメ依リ其終ニ委員
 首座ニ牛渡シセリ
 又
 四十四年三月十四日再ヒ商人石津代作草英及
 金屑代トシテ金二十円ヲ自ラノ許ニ持参セシヲ
 以テ矣族ノ上大下中尉ニ牛渡セリ
 問 拂下金ノ記帳ヲナセコトナキヤ
 答 ナシ

右ノ通相違無之候也

大正元年八月十六日陸軍砲兵一等銃長井上順一印

四十四年十一月ヨリ今日ニ亘リ兵器委員タル歩兵大尉
桂秀生ニ就キ取調ヘタル所次ノ如シ

閏昨年十一月柳樹化ヨリ廣島留守隊ニ向ヒ廢品
藥莖ヲ送付シ賣却方ヲ依頼セシト云フ事實

ナリヤ

答然リ此藥莖ハ前駐劄隊歩兵第士聯隊交代

返還ノ際適當ニ處分シ置レシトテ殘置セシ廢

品ニテ之カ始末ヲ為スルノ月歸還者ノ幸便ニ

托シ留守隊ニ送り賣却ト作付方ヨ依頼セシ

モノナリ

問 留守隊ニ於テ賣却セシ代價ハ如何ニナリシヤ
答 留守隊ヨリ爲替ヲ以テ昨午十二月賣却代三十兩

ト納證トヨ送付シ來リタルニ付妻買ス首座ニ申出
テ小官ニ於テ保管シ居リタリ此件ハ他ノ女買モ
承知シアリタリ

問 右金員ハ如何ニ使用スル見込ナリシヤ

答 全ク表外ノ廢品ヲ賣却セシ代價ニ正當ニ納入
ノ手續ヲナスモ却テ不都合ナラト存シ必要場合
ニ兵器費ノ補足ニ充當スル見込ニテ其後保管
シアリタリ

問 右金ノ如クシテ保管シアルハ不都合ナルニ付速カニ

納入スヘキ旨申聞ケレ後既ニ午續ヲナシヤ
 答去ル八日ニ納入ノ午續ヲ終リ
 右ノ通相違無之候也

大正元年八月十六日 陸軍歩兵大尉桂秀生 (印)

概括

以上ノ諸調書ヲ綜合スルハ本作ハ前聯隊時代ヨリ習慣
 的ニ委員間ニ實施シ來リタルモノニシテ本職着任後
 ニ於テハ兵器委員首座ヨリ塙揚彈賣却代保管ヲ
 申出シ際始メテ之ヲ承知シ埋設彈利用ニ属スルヲ以テ
 何等法規ニ違スル兵モ無之寧ニ此代金ヲ聯隊
 ノ資金トシテ有利ニ使用スルヲ得策ナリト考ヘ爾後賣
 却ノ都度其代金ヲ受領シ傷ヲ通時使用シウヘ来リシニ
 明治四十二年十月ニ至リ塙揚彈ニ関スル一定ノ法規相定
 メラルト同時ニ師團經理部ニ於テ之ヲ採取スルコトハ
 ナシリ此間ニ於テ前聯隊以來ノ表外導莖モ整理ノ

為又併セテ委員ニ於テ拂下ケ堀揚彈同様ニ取計
ヒ、ヒトニ今回取調ノ結果承知セリ

四十二年十月以後ニ於テ委員ノ間ニ於テ表外募集ヲ
整理シ之ヲ拂下ケ其代價ハ委員首座ニ於テ保管セ
シモノ如ク其便途ハ主トシテ兵器委員参考書目其他
不足品等ノ補填等ニ使用シタルモノト考案セラル

又別ニ前聯隊長時代ヨリ兵器委員ノ間ニ現金ヲ保
管シ兵器ニ属スル諸費ニ使用シ来リタルモノ如ク此金員
ハ當聯隊渡満前ニ全ク使用シ尽シタルコトヲ承知ス
寔ニ兵ノ調査書ニ示ス数量及金高ハ本調査ニ依
シハ畧々合一スルモ何レガ正確ナルヤハ容易ニ速断シ難シ

又其一部ハ留守隊ノ通報ニ依リハ目下該隊現在者ノ
 取扱ニ属シ未タ其詳細ヲ知ルニ至ラズ例ハ四十三年
 十二月六日ノ真鍮流シ物。於テカカシ

歩兵第百隊隊長有吉雅一

印

歩兵第九旅團司令部 發送 滿旅親甲第一四六号

官物拂下ニ関スル件報告

大正元年九月十日 歩兵第九旅團長 川村宗五郎

第五師團長大谷喜久藏殿

官物拂下ニ関スル歩兵第十一聯隊長ヨリ別紙ノ通り

報告有之候條及報告候也

陸軍

歩兵第九旅團満報第二一八号

金盾等拂下ニ関スル第二回調書

大正元年九月十号 歩兵第九旅團長有吉雅一印

歩兵第九旅團長川村宗五郎殿

曩ニ及報告候第一回ノ調査ニ依リ明治四十三年十月以前
ニ於ケル兵器ニ属スル廢品類拂下ニ関スル顛末ハ略々
態明瞭ナルモ明治四十三年十二月及四十四年二月、三月
ノ三回ニ於ケル拂下ニ就テハ事實ノ有無モ明確ナラ
ザリシヲ以テ爾来專ラ之レカ調査ニ從事シ井上銃
工長ノ自白(別紙甲号)ニ依リ初メテ事實ヲ明ニス
ルノ端緒ヲ得タリ依テ調査ノ歩ヲ進メ留守隊

其他ニ交渉シ或ハ當事者ニ就テ數回ノ調査ヲ重
 子タルニ結極尤記ノ通ニ有之猶遺憾ナカラ排下
 代金ノ受授ヲ明確ナラシムルヲ得サルモ此上聯隊ニ
 於テ調査ヲ進ムヘキ餘地モ無之儀ト存候ニ付此段
 及報告候也

左記

四十三年十二月ノ事

井上鏡工長商人ヨリ代金ヲ受領セシコト及之レヲ
 別役大尉ニ渡セシコトハ甲号調書及乙号調書
 ニ依リ明瞭ナルカ如キモ別役大尉ハ右排下金ヲ
 受領セシコトナシト断言ス

第大佐始末書ニ依ルモ同大佐ハ果シテ井上銃工長
ヨリ金銭ヲ受領シテ見ヤ不致ハ勿明ナラス

（體）

大佐ニ渡セシト云フ甲号

調書）モ柴大佐果シテ受領シアルヤ否ヤハ丙号及丁
号同合電報ニ對シ未タ同大佐ヨリ何等ノ返答ナ
キヲ以テ明瞭ナラス

四十四年三月ノ分

井上銃工長代金ヲ受領シ大下中尉ニ渡セシト
云フ（甲号調書）モ乙号調書ノ如ク大下中尉ハ受
領セシトナシト云フ

概括

以上三回ノ藥莢發函拂下ケル最初兵器主員

陸

軍

四十四年二月ノ分

井上銃工長代金ヲ受領シ柴大佐ニ渡セシト云フ(甲号調書)モ柴大佐果シテ受領シアルヤ否ヤハ丙号及丁号同合電報ニ對シ未タ同大佐ヨリ何等ノ返答ナキヲ以テ明瞭ナラス

四十四年三月ノ分

井上銃工長代金ヲ受領シ大下中尉ニ渡セシト云フ(甲号調書)モ乙号調書ノ如ク大下中尉ハ受領セシトナシト云フ

概括

以上三回ノ藥莢廢品拂下ケハ最初兵器委員

陸

軍

首座タル柴中佐ヨリ直接井上親工長ニ處理方ヲ
 命シ(甲号調書)タルモノニテ之ニ関シテハ各委員ハ更ニ
 承知セサリシト云フ故ニ拂下代金ヲ井上親工長ヨリ
 役令委員タル別役大尉及大下中尉ニ渡セシトスル
 モ同官等ノ之ヲ中途ニ停滯シテ首座ニ提出セ
 サリシコトハ可無之恐ク相互ノ間ニ記憶違ヒ等
 有之コトト察セラレ候又一方首座カ直接親工長
 ニ物品ノ拂下ヲ命シ置キナカラ其代價ノ納入ヲ
 ナササリシコトハ萬無之筈ニ付井上親工長ノ誠金
 ヲ自己限リニ獨斷保管シアルヘシトモ思ハレヌ要ス
 レニ右等ノ金額ハ中間受授ノ方法如何ニ係ハラ

ス柴大佐ノ承知シアラサルコトハ可無之ト存候ヘ共ニ
 田ノ間合ニ對シ未タ田答ヲ得サルヲ以テ之ヲ詳カニ
 スルヲ得ス又萬一柴大佐全然承知シアラストセハ井
 上鏡工長ノ首座ノ命ニ依リ處分セシトノ申立ハ事
 實ノ正否ヲ確ムルコト能ハサル儀ト相成候

陸

軍

甲号

井上鏡工長第三回調書

問、四十二年十二月拂下品及貫目代金如何

答、品ハ表外藥莢ト揮彈子ニシテ約三百貫程ヲ柴大佐ノ

命ニ依リ石津ニ拂下ク現品ハ三宅軍曹商人ニ渡セリ其代金ハ約四百円余ナリ

問、代金受領後如何ニセシヤ

答、代金ハ納書ト共ニ勤員會議室ニ於テ別役大尉ニ手

渡セリ

問、四十四年二月ニ又拂下ケタルコトナキヤ

答、一月ニ拂下ケタリ(柴大佐ノ命令)表外藥莢ニテ自方

七拾貳貫ナリ品物ハ三宅軍曹商人ニ引渡セリ其代金
ハ二月一日石津ヨリ七拾八圓ヲ受領シ手員不在ノ為メ
納書ト共ニ柴大佐ニ手渡セリ

問 四年三月六日如何

答 柴大佐ノ命ニ依リ三宅軍曹表外藥莖及金屑ヲ
商人ニ拂渡シ其代金三圓十四日石津ヨリ金貳拾
圓受領セシヲ以テ納証ト共ニ大下中尉ニ手渡セリ
右相違無之候也

大正元年八月二十七日

陸軍砲兵一等銃工長 井上 順一



乙号

八月二十九日發

聯隊長より留守隊長宛 問

四十四年三月拂下代金ハ井上鏡工長より大下中尉ニ渡シ
以後如何ニナリニヤ四十四年十二月四十四年二月拂下代金ハ
最後ニ誰カ受取り如何運ヒタルヤ大下ハ承知セサルヤ
至急取調回答アレ

八月三十日着

留守隊長より聯隊長宛 答

大下ヨリ調ヘタルニ本人ハ四十四年三月二月ニ金盾ヲ拂下ケ
タルコトハ金ク知ラス從テ井上ヨリ代金等ヲ受取りシコト
ナキヲ確言セリ四十四年三月一拂下代金ハ井上カ別役ニ
渡シ別役ハ更ニ首座ニ渡シタト云フコトヲ大下ハ聞

監

軍

キタルモ今其人ヲ記臆セスト○石津ヲ調ヘタルニ四十三
 年十一月四十四年二月ノ代金ハ井上ニ渡セリト井上更ニ
 誰ニ渡シタルヤハ不明

丙号

八月三日發 聯隊長より留守局長宛 問

四十二年三月四年三月拂下代金ハ柴大佐受取り
仕拂済ノ筈大佐ハ誰ヨリ受取りシヤ大佐今其地ニアル
問合セ送

八月二日着 留守局長ヨリ聯隊長宛 答

柴大佐ハ電報着前出共セリ同人ヨリ直様返事アル
様 電報ニマリ

陸 軍

丁号

八月三十日發 聯隊長ヨリ柴大佐宛 問

四十二年十二月四日一月三月ノ金盾拂下代金何レ元
受取りシヤ否ヤ電待ッ

陸軍

大下中尉始末書ニ對シ川村旅團長ノ意見左ノ通り

歩兵第十一聯隊留守隊ニ於テ官物管理ノ件ニ關シ大下中尉ノ始末
書ヲ徴シ候處不備ノ事少カラス仍テ聯隊長ハ別紙永友銃之長
ノ取調書ヲ添付シ報告致候モ尚始末書中中尉ハ榮中佐ノ命
ニテ自轉車ヲ購求シタリト稱スルモ聊カ信シ難キ事有之聯隊長
ヲシテ取調シタルニ別紙一通返電ニ據シ候間相違ハ及報告
候也

追テ別紙中尉ノ始末書ハ專斷ヲ得ル事多ク誠ニ遺憾ニ被存
候得共前候ノ事情仰同部ノ上仰判定相成度候

始末書

連男儀

明治四十年九月より兵部委員ニテ聯隊滿洲派遣に際して
 留學隊兵部委員トシテ派遣シテ就テ聯隊出發前別
 役大尉より兵部委員資金現金五圓拾七銭 並ニ此中中佐
 (當時首座)大整理ノ際留學隊兵部委員整理ノ為トシテ設置
 シタル金盾類ヲ賣却シタル代金トシテ整理隊ヲ編製シ銃之長
 ナリ記帳セシメ其金員ニテ聯隊出發後萬ナ此中中佐一所命
 ノ銃ニ場備付ノ自轉車一台(金五十圓五十銭)兵部委員
 楊雄ノ為ニ買スル無布ヲ購置シ其代臨時ニ兵部委員ニテ購置
 未タ知ル所購買シ居リ而シテ前項自轉車ハ幸トシテ省公所用

衆用スルヲ此代金に官費仕拂フ至當ト考へ此由ヲ鑑之長
 ニ傳へ其代金一大部分ヲ數回ニ仕拂ヒテ元來此金肩取
 フ留安隊へ渡シ柴中佐ヨリ各番整理方ヲ命ぜリ其金肩拂下
 代價ハ之ヲ資金ニ組入ル事ハ官之ヲ素知シ居ル之ヲ何時
 何回ニ辨ヒ下ケんヤ又其金額ハ何程ニヤ知ラス自轉車を購買
 シタル狀頗七指筋田アルヲ整理簿ヲ査核シタル中即チ金額ヲ
 素知シ其額ノ大ナル驚キタル所首坐一辨シ置カレタルノ命ノ
 如ク之ヲ整理シ何心ナリ留安隊長吉田中佐至ニ石岡少佐ヲ報
 告セスヤ官監視一許ニ就テ長クシテ傷害整理セシムアリ然レモ七月尋
 ニ至リ富島隊ヨリ金肩拂下ノ件ニ関シ取調ニ來ルトノ事ヲ聞知テ
 柴中佐ノ所命ノ通り何モ手負ハ斯ノ如キ事ニ就テ各辨スルノ

必要とし何事モ此中位ニ尋ねし可なりトコトニ付其手續ニ
 出テントラ豫テ調製シテ整理簿ハ銃長ニ隱匿スヘキヲ命
 シタル彼ハ之ヲ誤解シテ放棄シタリト云フ以テ目下首途先田
 中鎗少佐商人ヲ取調ヘ更ニ前ノ糾金証至ニ糾金代金受
 領証ヲ取出サシメテ以テ之ニ依リ銃長ヲシテ整理簿ヲ再
 調セシメ殊願ノ現金上書ハ本年八月十日留守主計ニ傳信シ充
 ツタリ以上ノ情况ヲ逐一留守隊長ニ報告セヌ事斷万事急分
 シツアリシ故ニ誠ニ留宿一至リニ存候此致似始末書中上集也
 大正元年九月十四日

步兵第十一聯隊留守隊長事務委員

陸軍少佐中尉大下連男 ④

陸

軍

永友鏡工長取調書

問、駐隊出發後各番番員資金トシテ金員ヲ受領セシ事

アリヤ

答、廢品(多分古箱ト思フ)拂下代金五円拾七銭ニ明治四十四年

四月大下中尉ノ命ニ依リ商人石津ヨリ納入セシメ出納

簿ニ記入シ保管セリ

問、柴中佐ヨリ留守隊兵器整理ノ為トシテ設置セシ金屑類

ヲ賣却シタル代金ハ受領セサリヤ

答、代金ヲ受領シタル事ナレ但シ柴中佐ヨリ中込ニテ金屑類

ヲ大下中尉引續ク受ケタル事ハ未知セリ

問、其金屑類ハ今後如何ニナリヤ

答 明治四十四年四月大下中尉ノ命ニ依リ商人石津ニ拂

下タリ

問 拂下ノ手續ハ如何

答 大下中尉ト自介ト彈藥補助手ノ上等兵ト立會ノ上拜
量シテ商人ニ品物ヲ引渡セリ而シテ其價格ハ大下
中尉ト相談ノ上決定セリ

問 其代價ハ如何ニシテ受領セシヤ

答 大下中尉ヨリ自轉車一台購入方取計ノ命ヲ受ケ商人
石津ヨリ納入セシメ其代價ハ一時資金ヲ以テ現金
支拂ヒ置ケトノ事ニ付此金屑代納入ノ際自轉車代ツ
差引残額ヲ納入セシメタリ此収入ハ詳細ニ由納簿ニ記

入レ置ケリ

問 其以後金屑類ヲ拂下ル事ナキヤ

答 明治四十四年六月ニ東京整理ノ後出ジル古金類
類ヲ大下中尉ノ命ニ依リ四月同様ニ拂下ゲタリ

問 拂下ノ手續ハ如何

答 今回ハ前既ニ價格モ決定シテアリシ故ニ個數ニ由
リ量目ヲ換算シ自今ト equal 上等兵立金ノ上商
人ニ渡セリ此時ハ大下中尉ハ品物ヲ荷車ニ乗セ終
リタル處ニ臨場セリ

問 其代價ハ如何ニ受領セシヤ

答 其代價ハ納証ト共ニ大下中尉ニ示シ納証ハ令取

破棄し現金ハ保管ヲ命セシタルヲ以テ記帳ノ上保
管セリ

問 以上二回ニ於ケル物品持出証ハ如何ニ作製セシヤ

答 二回共自今迄ヲ複製シ一回ハ大下中尉ノ捺印ヲ請ヒ

一回ハ商人自カ多大下中尉ニ持参シ捺印ヲ受ケタ

リト記帳ス

問 資金出納簿ハ如何ナリシヤ

答 支店監査検査事件發生ノ際大下中尉ヲ破棄セ

ヨトノ命ヲ下シモ商ホ其僱持考エテタルニ大下中尉ノ意

兵隊ニ取調ノ爲出頭セラル、當日正午四時事務

室ニ来ラレ出納簿ハ破棄シ終リ先ヤ否ヤ推問セラル

ルヲ以テ尚ホ持参シテ旨答ヘタル直ニ破棄ス可キ命
セラルタルヲ以テ中尉ノ自前ニ飛テ破棄シ火鉢ニ投シ中
尉ハ煙草ヲ喫シタルマツチノ殊火ヲ以テ之ヲ燒キヨリ
此際助手ノ上等兵モ其席ニアリタリ
右ノ通り相違無之條也

大正元年九月十八日 陸軍砲兵學校校長永友正市郎印

步兵第十師滿報第二二三号

大下中尉自轉車購入ニ関スル件報告

大正元年九月十九日

步兵第十師隊長有吉雅一

印

大下中尉自轉車購入ノ件ニ関シ昨十八日左部ノ
通電報ヲ以テ留米隊長ニ照會致候處別紙
ノ通返電ニ接シ候間此後及報告候也

左 記

大下ノ自轉車ノ購入ハ柴中佐ノ命令ニ依リシヤ
否ヤ八月九日ノ報告ニ此事ナリ事實信シ難シ今
一應取調ヘ返

陸

軍

九月十九日留宇隊長兼 聯隊長宛

各 隊中佐より 確然たる命令 詞ナキモ中佐ハ從來
 帝ニ購入スヘキヲ言ヒ居ラレタリ 大下ハ此意固
 ニ基キ 銃工長ニ購入セシメタリ

陸

軍

始末書

明治四十四年四月留軍隊編成後同年四月六
 月一二回ニ於テ本職及関係要員ノ承認ヲ
 得ルニトナリ大下中尉及永友銃工長 協賛ノ上
 金屑類ヲ賣却シ其代金ハ審テ派遣隊ヨリ
 申送ラレタリト稱スル金額ト共ニ之ヲ整理シ兵
 器手入材料及兵器庫、銃工場ニ表外諸物品ヲ修理
 又新調ヲナシツ、アリシハ事實ニシテ其拂下金額ハ憲
 兵隊ノ調査セルモノト當隊ニ於テ取調ヘタルモノト稱々相
 違ヒル所ニモ當事件ノ發覺當初ニ當リ拂下代
 金上納証及現金収支覚書類ハ大下中尉之ヲ

一巻

隠匿スヘキトク永友銃工長ニ命シタルニ銃工長ハセテ破
 棄シタル結果今茲ニ証據書類トシテ正確ニ據ル可キ
 モノナシト雖モ大下中尉、永友銃工長ノ拂下代金受領
 額ノ記帳ニ係ル申立ト商人石津代作同吉田房
 吉ニ就キ取調ヘタル結果拂下代金ノ覺書類及上納
 品ノ取調書ト對照スルニ殆ト符合セルヲ以テ大下
 中尉、銃工長ノ間ニ於テ拂下代金ヲ無名ノ裡ニ
 使用シタル形跡ナキヲ認ルニ足ル

明治四十四年十二月賣却シタル金屑類ハ改造原ヨ
 リ藥英等ノ拂下方ヲ當隊委員ニ委嘱シ来リシ其
 際當隊ニ於テモ折リ不用金屑類ノ若干存置シタル

ヲ以テ之ト同時ニ拂下セントノ上申ヲ受ケ之ヲ承認シ
モノミテ其代金ハ直ニ之ヲ國庫ニ納入スヘキ筈ナリシモ
遂ニ本年七月納入ノ手續ヲ了レリ其間代金ハ
主計ヲシテ之ヲ保管セシメタリ
右ノ通り相違無之候也

大正元年九月六日

步兵第十一聯隊留守隊長吉田半平 印

梯下ノ見積書ヲ徴シ之ヲ吉大佐ニ報告シ以テ金銀受入
レ後ニ云々トモモ吉大佐ハ此等金銀受入主座榮中佐
ヲ燭揚彈賣却代金ヲ族隊長ニ於テ俾發セシキ方申
出シ由リ其金銀如何ヲ訊問シテ初メ之ヲ和ナシ持込載
シテ是兩大佐故未書ノ矛盾ニ見タリ

（局）

審判員首座ヲ命セラレ
村大尉免セラレ新ニ別任大尉

命セラレ際申送リニ遺漏ナカラシムル爲メ物品ノ過不足ヲ取調ヘシ

タルニ發射後ノ枯ヒ揚ケ彈（挾撃射撃、鉛彈、製作用）及陸道タル

ニッケル被套等彈藥箱ニ三個ニ分藏シアリテ整頓ノ妨ケトナル事並

此種ノ瘠物ハ前任石田隊長及和田首座ノ時代ヨリ官物トシテ取扱ハ

スレテ又ウ商人ニ拂下ケ置キ其金額ニテ供用ノ各器物品等ヲ整理ス

ノ用ニ供シ来レルモノナルヲ知リ是レ當リ舊審判員中村大尉ヲレテ梯下ノ

事ニ當ラシメ其見積書ヲ徴シ又ウ隊長ハ有吉大佐ニ報告シ此

金額（約百數十円ナリ）梯下（受入）後ハ從來ノ例ニ由リ審判員ニ於

始末書

明治四十二年一月より步兵第十一聯隊兵器委員首座ツ命セラレ
服務中同年七月頃高級委員中村大尉免セラレ新冬別任大尉
命セラレ際中送り遺漏ナカラシムル為メ物品ノ品不足ヲ取調ヘシ
タルニ發射後ノ枯ヒ揚ケ彈（狹窄射撃ノ鉛彈製作用）及落渣タル
ニッケル被蓋等彈藥箱ニ三個ニ令藏レアリテ整頓ノ妨ケトナシ事至
此種ノ廢物ハ前任石田隊長及和田首座ノ時代より官物トシテ取扱ハ
スレテ之ヲ商人ニ拂下ケ置キ其金額ニテ供用ノ兵器物品等ヲ整理ス
ノ用ニ供シ来レルモノ知リ難シ當リ舊委員中村大尉ヲシテ拂下ノ
事ニ當ラシ其見積書ヲ解シ之ヲ隊長迄有吉大佐ニ報告シ此
金額（約百數十円ナリ）掃覽ニ受入レ後ハ從來ノ例ニ由リ委員ニ於

丁保管する間違ひ一基ヒナリテ隊長自ラ其手許ニ保管せられ、
 様申出テ其書諾ヲ得テ数日後右現金ヲ封筒ニ入レタル係隊長
 ニ手渡正セリ無論記帳ヲ用ヒス其時隊長ヨリハ官ニ注意ヲ与ヘラレ
 此様下ニ間違ヒラ生シテハナラズ故首座自ラ其事ニ當ルシ又々正
 當ト信ス用途モアラハ申出ツヘシト事ナリト云レ則テ第一面トス（裏）
 兵隊報告中明治四十三年月日不詳ナル分、四十二年七月ノ分ト同時ニ拂ヒ下
 ケタルモノニ相消スルナリト思フモ確カラス）從來ノ習慣トシテ取扱
 ヒ来ル指収彈ノ設置ニ就テ尚ホ根柢ヲ得ル為メ委員アレテ他隊
 及支隊員等ノ意向ヲ問合ハサレシモ参考トシテ隊長ニ内申セリ
 明治四十二年名譽射撃前後ヨリ同年冬ニ至ル迄ノ指収彈ハ同年
 間所要ノ狹窄彈ヲ製作モテ剩余アリト見込ニ立ケタル

故十月頃ニ此剩余品ヲ泥封封着ノ儘ニ解下セシメテ其金額
ハ前同様の百金内ナリト記帳ス此時モ亦ヲ納入者ノ表書
ル儘ノ封筒ニテ隊長ニ手渡シタリ之ノ算二面ナリ

明治四十三年春頃検査官ノ兵署検査アリシ際供用ノ機銃彈
中ニ多数ノ異式品アルヲ発見シタリ此異式品混入ノ原因ハ
習其地ニテ兵卒其供用物ヲ落失セル場合ニ官自償ノ手續
キラ經ルヲ面倒ガリ竊ニ市井ノ所謂「金捕り屋」ニモリ購ヒ来リ之ヲ補
塲スモノヲモテテ多年ニ亘リ行ハ居ルモノテ現在ノ供用者ノモテ責ミ
能ハス依テ此際根底ヲ整理セシト思ヒ立テ比較的多数ノ兵器費ヲ
支出スルモ厭ハス正式ノ品ヲ買受ル手續ナラシメシト同時此異式

品ハ官物ニ買入ルヲ以テ下ケ其金額ニテ其買入ノ欠陥ニ際シ
 不入材料ヲ買入レテ調和ヲ講ラント存慮スルヲ然ルニ此異式品ヲ
 原形ノ儘商人ニ渡ル再ニ市井ニ現ハレテ其年立ヲ購入スル虞レリト案
 附キ最初ニ擬彈ト其藥莖トヲ分離シ擬彈ノミヲ挫滅シテ屑物トシ
 之ニ眞鍮ノ被套ヲ爲メ意外ノ手數ヲ要スル由リ尙後金ノ大部
 ハ之ヲ溶解スルニ地ニ夏期恰モ士卒ニ眞鍮ハシダヲ教ユル時期ヲ
 利用シ二週間ニ亘リ約四五圓計リヲ得ルハ之ヲ溶解セシメ
 リ之ニ要セシ炭ハ、コーリス等ハ一切官物ヲ使用スルモノナリ悉ク別
 商人ヲ納入セシメタリ斯レテ得ルモノヲ拂下ケルニ約二百數十圓
 アリ又之レト同時ニ若干ノ拾収彈被套ヲ拂下ケル如ク記憶ス

右ノ金額ハ商人ヨリ納入シタル炭及コークス代ヲ引去リタルニ對
筒ノ倭隊長ニ手渡シセリ是レ第三回ナリ

四十三年度ヨリハ挾窄射撃用鉛彈ヲ其節ヨリ交付セラルニ當リ
レ後々更ニ二年ヲ延期セラル依然各隊ニテ製作スルナリナリ故
癩彈ノ拾収モ亦リ繼續シテ行ヘリ恰モ四十三年度夏期ニ射撃尤モ
盛ニタル頃拾収ニ便ナリ時期ニ當リ自然他隊ト競争ノ狀トナレル故弄
員ヲ派シテ番号ヲ七十一駐隊ト交渉シ射撃ヲ折半シテ拾
ノ時期ヲ協定セリ然レ同年十月ニ至リ癩彈ハ其以後則
々官物ノ性ヲ有シ最早任意廢置スルヲ得ナルニナラス其拾

収サヘモ各隊ニテ行フ能ハサルニ至レリ又タ一方ニ四十四年度より良好
な状況點彈ヲ給セリノ途リ立テラレタ故敢テ廢彈收拾ノ
必要モナキノミナラス現ニ保有スル廢彈モ其大部ハ使用ノ見込

ナキヲ以テ之ヲ拂下ケル事ヲ隊長ニ申出テ其見積リ額二百円
以上ナル者モフトモ併セテ内報シタルノエニテ都合上(當時小官ハ後備隊

隊編制準備ニ忙カレタリシ)未タ拂ヒ下テ置カスルニ至ラス(隊長ハ十月

頃ニ一回金員ヲ受領シタルストアリテ其後ハ是ナキ様ニ思ヒ居ラルル如キ

モ當ハ前述ノ如クハハ廢彈ノ拾収及拂下ハ將來行ヒ得サル様ニナリシ

スト又タ一ツニハ此際現在品ノ拂下見積額ヲ報告シタルスト等ニ由リ

6850

聯想的感得ヲ爲サレタルヲ併シ實際ニ受授ハ十月十一月頃
 リノ様ニ記帳ス大演習終了後更ニ滿洲改造ヲ預想シ倉庫ヲ
 整理セシ際尚ホ多敷ノ拾収彈及前田夏期ニ於テ拂下品ノ
 殘余(擬製彈是式品ヨリ得タル真鍮流シ物及同上ノ藥莢)ヲ
 係セテ拂ケリ但シ藥莢中ニ挾窄射擊場構築ノ時堀リ出
 シン軍務銃藥莢ヲ含メ見積總計各百円以上ナリシモ大
 演習中野戰聯隊及後備聯隊ニ増加テ入料トシテ携行シタル
 0650
 ハラワセリ及破油ノ代金ヲ差引キ且ツ又々先般ノ兵器検査ニテ
 裸銅線ニ約五五百米不足シタル其儘ニ爲シアレバ之ヲ整理スル爲メ手

員ノ手ニ三十円(二十円ナリレカ確ヤナク又)ヲ殊サシメ其旨ヲ報告スルモニ
百數十円ヲ隊長ニ手渡シセリ之レ第四回ナリ

裸銅線ノ補填ハ其後廠員ノ指導ニ由リ練習ニ使用シテ漸次
欠損排出しテ為セルヲ以テ實際ニ全部ノ購入ヲ行フニ及ザルコトナリ

由テ右ニ充テタル金員ノ殊リハ兵器参考書、コンパス、又現ニ表
外ニ備附アル兵器委員用自転車ノ修理ニ充ツルコトヲ許シタル

ニ満川出發前高ホ五円金ノ殊類アリトノ事故更ニ記念写真

代及自転車修理材料ヲ購入スルニ充ツヘト申置ケリ

委員首座トシテ前任者ヨリ資金等ノ申継^キクムタケタルコトナリ
又々首座ニテ資金ヲ保管セルコトナリ

0591

委員間ニ於テ首座又ハ隊長ニ許可ヲ得スルテ資金ヲ作り
又ハ之ヲ保管スル形跡ノ有無ハ今日迄金クモ知ラス且ツ
之ヲ信スル能ハス

藥莖ノ出納上多少ノ預備ヲ有シタルハ事實ナリ畢竟
支廠ニ返納スル際傳票ニ個教ヲ記スモ其授受ハ個約ニ依
リテ重量ニ依リ行ハレタル故誤差ノ調和ニ充ツルノ用ニ供セ
ルモノトス滿洲派遣前積置セル藥莖ハ約一カ登モアリシカニ推
測ス高市別ニ拾収彈若干ヲ積シ置ケリ是レ完成鉛彈ヲ受
ケ得ル筈ナルモ若シ時期後ルハ時等ハ教育ニ差支エル故何

時ニテモ隊内ニテ從事ノ如ク挾窄鉛彈ヲ製作シ得ヘキ事
備ハスリ其現品ハ今尚ホ存在スラシ

隊長ノ資金使用上ニハ聞知セズ但シ四十三年夏期ニ於テ兵署
委員ニ自轉車一輛ヲ借付ラレシヲ申出ラレニ約八十圓ノ價
格ノモノヲ表外トシテ購入セル件ヲ通知スルノミ

憲兵隊報告ノ時曰、數量、品目ハ強シト全部ハ官ノ記帳ト
一致セズ想フニ第三者ノ帳簿ニ據ル事トテ或ハ一口ノ數ロニ
又々或ハ數口ヲ一口ニシ君ルハ他隊ノ令トノ區別混同セルニアラサ
ルカ

大正元年九月十六日

陸軍歩兵大佐 柴田 豊彦 印

乙號

官物賣却關係取調書類

歩兵第七十一聯隊



官物賣却ニ関スル書類目次

一 明治廿七 満乙發第一〇号

空襲英其他拂下一件頗重件報告

師團長宛
第七聯隊長宛二 自明治四十年一月
至同 四十二年三月 金銭出納簿三 大正元年 関乙第一五号
八月廿五日

小銃藥莢等不正賣却ニ関スル件

國軍軍務局長宛

四 明治廿七 發第一二号 空襲英拂下事件ニ関スル通牒

留學考察宛
第七聯隊長宛

歩兵第七十聯隊空襲英拂下事件ニ付兵器委員

橋本中尉取扱ニ係ル状況書

明治四十二年三月以降 金銭出納簿寫

橋本中尉始末書 第一

陸

軍

橋本中尉 始末書 第二	大正元年 廣本乙第一二号	廣島憲兵長官報
告第七十聯隊及全留軍隊官物不正賣却一件	五、大正元年 八月十日 廣本乙第一二号	告第七十聯隊及全留軍隊官物不正賣却一件 廣島憲兵長官報
六、告第七十聯隊及全留軍隊官物不正賣却一件 廣島憲兵長官報	及部大佐始末書	新田長官報
七、山本少佐始末書	八、山田中佐始末書	九、岡本中尉始末書 第一号
一〇、同 第二号		

一、
七、
號、
滿、
乙、
發、
第、
三、
五、
年、

奧田中佐始末書

一、
秋、
月、
中、
佐、
始、
末、
書、

奥

田

七号満乙發第一〇号

空薬莖其他拂下一件巔末件報告

大正元年八月二十六日 步兵第七十一聯隊長及部盛種

第五師團長大谷喜久藏殿

去明治四十二年以來當駐隊ニ於テ空薬莖其他拂下ケ
件並ニ本年満洲ニ於テ將ニ空薬莖ヲ拂下ケントセシ件ニ
関シ別紙ノ通り調査シ及報告候也

陸
軍

6690

空襲英其他拂下一件巔末報告

歩兵第七十一聯隊

空襲英其他拂下一件巔末報告

一、當隊ハ四十年十一月創立ニシテ四十一年度(教育年度)ハ第一年度ニテ古箇中隊ニシテ全員新兵ナリ本年度ハ狹窄射撃彈ハ全員新兵ノ故ヲ以テ完成彈ノ支給ヲ受ケ隊兵器委員ノ手ニ於テ製造スル必要ナレ隨テ射撃ニ就テ発掘彈ヲ必要モナカリシ又諸演習ハ空襲英モ百分ノ五以上ノ過剩數モ皆合セテ返納ノ手續及空襲英其他ノ物件ニ取扱上ノ遺法毫モ無之

二、四十一年十月從來ノ兵器委員首座中佐平野金六轉任シ以佐山本清次就任同首座トナル又四十一年一月從來ノ同委員

蒲瀬石門轉出、爲中尉岡本靖其後任とる本年度即
 四十年十月以降ハ聯隊ハ上箇中隊より古兵ヲ有スルコト、
 ナリ隨テ射撃發炮彈ヲ以テ其材料ニ充ツルコト、ナリ又隨テ
 被甲ニツルノ廢物モ逐次累積スルコトナリ(當時ノ兵務取
 扱規則ヨリ發掘彈ヲ以テ狹窄彈ヲ制ス)

三、此等ノ廢品ヲ賣却シ私金ヲ私蓄セル事情ニツキ當時ノ参
 員中尉岡本靖ノ答辯ノ要領ヲ列記スルハ如次

- (1) 此廢被甲ノ存置物ヲ賣却セル金員ノ處分ニツキ時ノ兵
 務委員首座山本少佐ハ指示ヲ受テ遂ニ私金トナスヲモリ
 (2) 四十二年春ヨリ翌四十三年六月迄(岡本中尉就任間)ノ間ニ
 前後拂下ケタル廢被甲ノ代金ハ目下充令ニ記帳シテラ

凡モ其回数ハ五六回乃至七八回位ニシテ其内約貳拾月
ハ国库ニ納金ノ手續ヲナセリ

(ハ) 藥莖ヲ拂下タルハ前期間ニ唯一回ニシテ四十年十一月
頃ト覺ユ(時ノ系員首座ハ中佐山田四郎)矢張り首座
ノ兼認ヲ受ケ時恰モ年度変更期ニナルニ依リ百分九十
五ノ藥莖數ヲ其署支廠ニ返納シ殊金ヲ熔融シ一部
ハ銃工卒練習作業用トシ一部ハ賣却シ私金ニ組込ナリ
(ニ) 以上ノ二系ヨリ生セシ私金ハ首座兼認ヲ經テ概カ使達
ニ向ケタルヲ記騰ス

工、三八式洗管百本欠數ノ爲メ補足ニ約拾五円乃至貳

拾円(山本首座時代)

Ⅱ、應用体操用鏡ノ買入三本ノ購入ニ約四十二円

但し練習用具豫算(練習費ニテ各委員主償ス)

ヨリ一本一銭ヲ買入タルニ其費ハ此私金ノ大部ヲ

補填ス(山本首座時代)

Ⅲ、鏡工卒夜業ノ際(多分特命檢閲前)ノ小夜食約十

円(左右)

Ⅳ、前金後金修理手間ハ其修理ノ為ニ約四五拾円(首

座ノ難ナリシヲ託騰セス

Ⅴ、各委員参考書若干約六三円(左右)

Ⅵ、鏡工卒滿期写真代若干(山田首座時代)

(中)右ノ金員出納ノ為ニ最初ノ首座山本久佐ノ指示アリ

0606

0604 0605

問推

一、漆膳ノ出納簿ニ就工長ノ捺印ナキカ
周幸中尉ニ就テ先上訂正ヲ要ス



五

五

城一瑞乙癸介一九年

大正九年九月九日
附算二封元及新縣長一報告以下台

（一乃至六）

一今回留中陳一現存る當時一原簿ヲ調査シ林鏡三長ノ

捺印有無取調方照會候處其回答合如次

四十二年二月九日（讓出納簿員頭ノ記入事項）ヲ年

七月三十日ノ記入事項迄悉皆林鏡三長ノ捺印アリ即山本少佐

重座時代ヲ通シテ捺印アリ而シテ其次ノ項以下全郡即山田中

佐、秋月中佐ノ重座時代ヲ通シテ同本中尉ノ署名間ノ

記入事項ヨリ捺印アリ

出納簿ヲ調製シ一々之ヲ記上シ證憑書類ヲ類纂シ現
 金ハ下官(岡本中尉)ニ託テ保管シ收支ノ部度首座ノ認
 印ヲ受ケ又下士以下ノ疑ヲ招カシテ顧慮シ銃工長林
 吉ニモ出納簿ヲ閱覽セシメ捺印セシム(因ニ云フ銃工長林
 宇吉ノ答辨ニヨレハカルテアリツルハ簿々素知シテモ自今更
 レニ自ラ捺印セシメト答フ然ルニ岡本中尉ノ間ニ對シテ林
 工長ハカシテ託臆ヲ喚起セシカ一度山本以佐ヨリ現金出
 納簿ニ捺印ツ求メラレテ臆々覺ハタレトモ自今自
 ラ捺印セシメトナレト答フ然ルニ此真否ハ誤出納簿ハ岡
 本退任ノ際次ノ委員中尉橋本喜和人ニ交付シタス爲メ此
 地ニ現在セザルノミナラス又橋本中尉ハ其後之ヲ破棄セリト

云フニテ(其實否及放棄ノ時日場合等刻下留字
ハ問合中)何レモ明証シ難シ

(ハ)癢被甲及空薬莖ノ取扱ハ當時軍曹渡邊群

一(當隊ニテハ第一大隊武器係カ物品會計官吏階助

手トリ第二大隊第三大隊ノ武器係カ主トシテ彈藥ノ

一ヲ管理スル助手トシテ)ヲレテ取扱ハシメ其商人ニ拂下

ル際ハ概ネ下官(岡本中尉)立會ヘリ(目ニテ廣島電大

隊長ヨリ第五師團長へ通牒済トシテ留字隊長へ通牒(明

確ナラサルモ左様思ハルモノ)一附表ニ此藥莖ノ拂下ノ取扱

ハ林既上長トシテアレバ之レハ此隊ノ例ニ因リ連断セシカ又高

橋が中尉ヲ元帳簿ノ被棄セシト云フ誤解ニシテ

誤帳簿ノ後文ニ添付ス

斯リ記入セシテト思ハル實

説明ターゲット

次の原稿破損

7 年 6 月 22 日

主務者又は

撮影立会者

坂根嘉和



云フフニテ(其實否及放棄ノ時日場合等刻下留學
 へ問合中)何レトモ明証シ難シ

(ハ)癢被甲及宜藥莖ノ取扱ハ當時軍曹渡邊祥

一(當隊ニテハ第一大隊武器係カ物品會計官吏附助
 手トシ第二大隊第三大隊ノ武器係カ主トシ彈藥ノ
 一ヲ保管管理スル助手トシ)ヲレテ取扱ハシメ其商人ニ拂下
 ル際ハ概ネ下官(岡本中尉)立會ヘリ(因ニ其ノ廣島憲兵
 隊長ヨリ第五師團長へ通牒済トシテ留學隊長へ通牒(明
 確ナラサルモ左様思ハルモノ)一附表ニ此藥莖ノ拂下ノ取扱
 シ林銃工長トアレヒヤレ他隊ノ例ニ因リ連断セレカ又高
 人又ハ橋本中尉ノ誤申ニ基キ斯リ記入セシメト思ヒ實

際ハ皆委員ノ命ヲ許シ當時ノ助手軍曹之ヲ取扱ヘンモノナリ

四、四十三年四月四日中尉橋本喜和人ハ岡本中尉ニ代リ同委員ト
 ナル(四十三年冬ニ山田中佐轉出シ中佐秋月齊(當時少佐)就
 任首座トナル)當時ニ岡本中尉ヨリ申継ヲ受ケルト同時ニ又
 此私金ノ内容ヲモ継承シ私金現金貳拾円四拾九角五厘ト其
 出納簿ヲモ受継キタリ以上ノ留學隊長代理町田少佐ヨリ報
 告ニ基キモニシテ之ヲ岡本中尉ノ答辯ニ徴スル相違ノ點ナシ
 五、以下橋本中尉就任以來駐隊渡満迄(四十三年四月)ノ状況ハ
 一ツニ留學隊長代理町田少佐(秋月中佐ハ簡閲具時出張不在中)
 ノ本月十八日發報告ニ基キ記載スルモノナリ

陸

軍

将校
私
手
記

(イ) 即四十三年七月十日、七月十六日、三回ニ発掘ヲ行
下ケ代金五拾五円九拾五文(此量百四十二貫四百文)ヲ得タ
リ其後ハ暫時発掘ヲ見合居ル内此作業(発掘発掘
作業)ハ軍隊ニテ行ハサレ連アリテ再後全然行ハス

(ロ) 本年ハ大演習之レニシテ特核准士官ノカニツケル鑛金ノ
必要アルヲ思ヒ起シ(市井ニシテ注文スルキハ高價ヲ食ハ
ルニ付)兵界鑛鑛ノ上該作業ヲ起スニシテ該資金ニテ
経営スルニシテ決シ材料用具ヲ商人一石津ハ作ヨリ購入
セラシテ試験セシニ結果不良ナリ時ニ松山軍隊ニテハ銃工長
某巧妙ノ技術ト主張スルヲ聞キハ九月頃定
例休暇中ノ銃工長林宇吉ヲ該金員中ヨリ派遣ヲ給

0612

0611

問 推

今同留守隊長より回答ニヨレリ 前書報告ノ括弧内ニ
記載セル林鏡ニ長ノ陳述通り當時復命シタニ相違無之

三 鏡ニ長ノ言ハ真ニシテ留守隊長ノ報告ニ

異ヒタリ 在任ノ上 青倉ノ十ノ林ニテ事入
又此ノ如キ 録リ出要ノ一ナリカレ



昭和
十一年

四

三
 二
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

0612 0611

三ノ松山ニ派遣シ實地鑛金法ヲ研究セシメ（林工長ヲ今
 國取調ヘタルニ其所謂技術者ナリシ其工長ハ昇進ノ上
 已ニ他ニ轉出スルヲ現在セル工長ヨリ實地傳習ハ受ケルモ次
 子巧妙ニモ何モアヌ又自今モ從來些ノ經驗ナカリシタ
 ノ得ル處ハ極ナテ少カリシヲ（持模有士官ノカ一本ヲ五拾
 錢ニテ鑛金シ約若七八円ノ收入ヲ見タリト然ルニ同十二月
 頃鑛金ノ總費用ヲ通算セシニ約五拾円ヲ要シ又一方ニ
 ハ翌年四月ニ商師團渡滿ノ内命アリシヲ以テ若シ取
 取カセリ積行スルトセハ更ニ多額ノ費用ヲ要スルトナル
 ヲ以テ兵務委員評議ノ上ニテ免ニ得本年夏新鑛品
 トナレル藥英約三十貫ヲ拵下リルニ決シタリ私金ニ組入

壺

宣

レスレテ別ニ鍍金ハ收入ト共ニ存置シ置キ四十四年四月ニ至リ
 鍍金ニ要スル總テノ費用ノ支拂ニ元ウヘリナシ多クノ
 残金ニテ所用ノ藥品ヲ購入派遣隊ヲ行セリ（因ニ
 フ此辨談ハ渡満隊各委員首坐奥田中佐ノ聞知セ
 凡ル處ニシテ又實際渡満ニ方リテハ從來使用セ
 二電池ニ個ト陽電版ニ枚藥品少シ許テ同本
 中尉（渡満ニツキ再ヒ委員タリ四十四年九月退
 任）ノ注意ヨリ携行シ来リタレト使用ノ必要ナ
 甚優物置ニ放置サレリ（此事目下ノ委員少シモ之ヲ
 知ラス今因調査ニテ發見セリ然レニ藥品ノ如キ極少
 ノモノナリ）之ヲ推論スレバ派遣隊ニ携行ノ必要ナ

推 疑 点 上 の 當 時 の 取 扱 者 二 就 テ 取 調
問 了 事 ス

問推 四、岡本中尉ハ因下告要員ニアリキルヘシ
而シテ尚今中尉カ傷斃セルヤ

0614 0615 0616

月日	受高	拂高	殊金
----	----	----	----

摘

要

0614
0615

0614

三、本件ハ岡本中尉リ取調後、取調所用事務用品等、
ツ極メタルニツキ、鍍金器械ヲ滿洲ニ携行スルハ、橋本中尉ノ
差圖ニ基リモカ、又自今ヤ、之ニ同意シ、林工長ニ差圖セシモ
ノカ、今更ニ確實ノ記録ヲ有セス、作併又之ヲ差圖セスト、断
言スルハモナシ、得サナリ、即、林銃工長カ、自今ヨリ、注意ヲ受ケ
ト陳述スレリ、(林銃工長ハ斯ク陳述セリ) 其レヲ認メサル得ス
又、目下ノ工場主任委員、高野中尉ノ知ラサリレハ、同中尉ハ、後
補後委員トナリシモノニテ、(昨年五月八日) 當時之レニ関シ、申送
ヲ受ケタルナリ、又、鍍金器械ヲ使用セルハ、モナリ、又、使用スヘキ
考ハタルハ、モナリ、而シテ、此等器械及藥品、若干、(彈藥、毒箱ト約
同形ノ箱ニ入レリ) ハ箱入りノミ、物置ノ一隅ニ置キナリ

月日	受高	拂高	残金	摘要
六、橋本中尉ノ提出セシ出納簿ニテノ前項期間ノ内譯如次				
ニテ保管ス				
中尉現ニ之ヲ保管シテ今國ノ調査ニ對シ確答ス				
殊金貳拾陸月拾五才五厘ハ橋本中尉留守隊委員ト				
イテ知シ居ラス又渡瑞以來何等必要ナキヲ岡本				
トナシ中尉岡本請之ヲ携行シ(當時ノ首座奥田中佐				
(ハ)又當時現在セル資金中ヨリ金貳拾円ハ新ニ派遣隊委員				
器具藥品等ノ代金ヲ此際支拂ヒタルニテナルナキヤト思ハシ				
ニテ此報告通りカ否ヤハ信シ難シ或ハ從來使用セシモノ				
主体トシ大ニ計画シ別途蓄積ノ金員追造リタレ果				

士
村中尉
某
之
上
電
界
新
二
甲
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

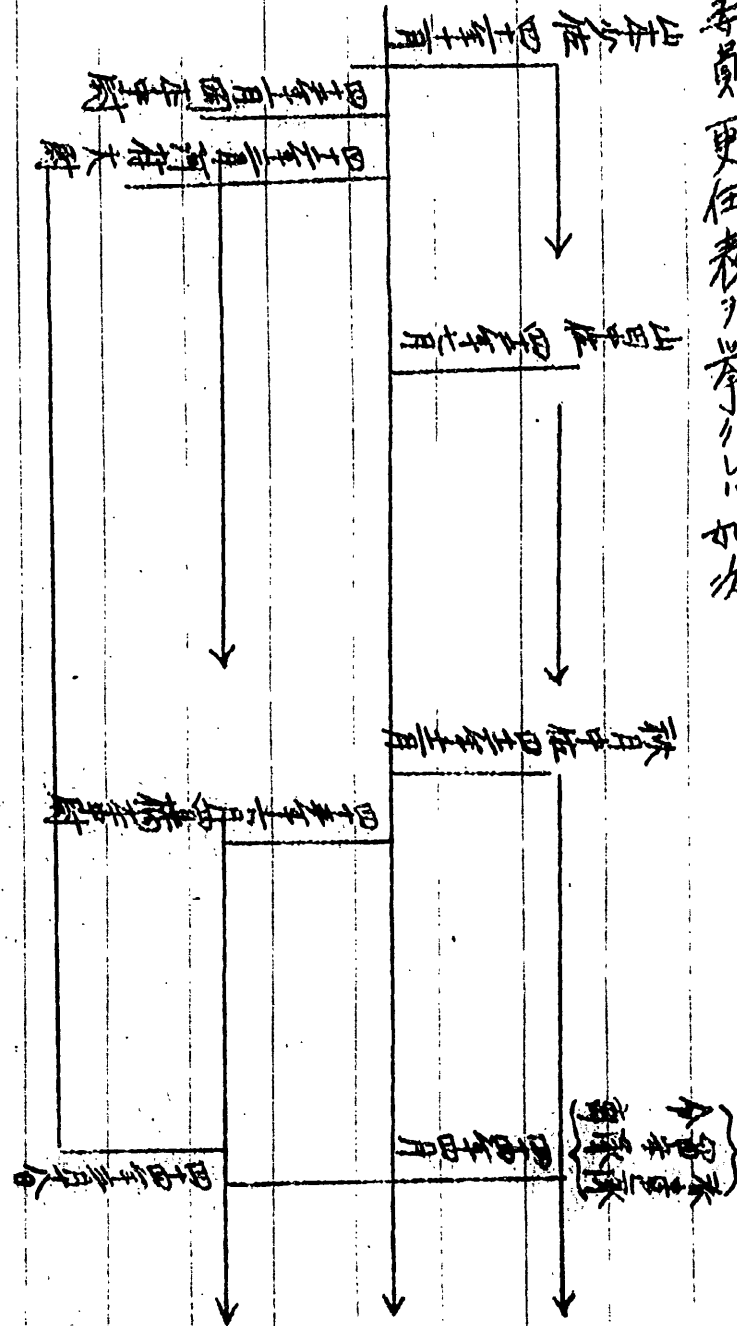
十一

アジア歴史資料センター

[illegible]

十二指腸蟲病	肝二口蟲病	蛔蟲病	縲蟲病	其ノ他ノ寄生蟲病
九	九	八	二	二

七番員更任表ヲ挙グレハ如次



右表ニ依レハ大尉河村亮輔(當時中尉)ハ兵部番員ト

全

軍

レテ市・彈藥・出納ニ任レタル岡本中尉時代ニハ其請求
 ノ都度之ヲ岡本ニ渡シタル丈ニシテ直接私金ニ關係ナク橋
 本中尉ノ委員ノ際委員會議ノ評決ニ從ヒ一圓助手軍曹
 小佐龜一郎ヲシテ其拂下評決數ヲ商人ニ渡サシメタルヲ
 旨答辨スルハ岡本中尉ノ答辨及橋本中尉ノ報告ト一致
 スル處ナリ

留宇隊編成後禁菸其他拂下件概要

一、留宇隊編成後ノ一、可刃四、可五項ノ通り橋本中尉ノ
 答申たんモノニツキ留宇隊長代理ヨリ報告ノ通りヲ茲ニ轉
 写シ以テ報告スルニ過キザル功ナリ

二、留宇隊編成後本年七月ニ至ル間ノ状況

明治四十四年四月留宇隊編成後留宇隊ノ兵器手員業務ハ
 主トシテ橋本中尉一名ト一名ノ銃工長トノニテ擔任セサルヘヤラス
 就中在庫品手入ノ際ノ如キハ監視不行屈辱タルヲ以テ在庫
 品ノ紛失ヲ豫防スル爲メ裝脱自在タル金網製ノ戸扉ヲ
 兵器庫内ニ設ケ(代便箱 五十箱)又管内ニ席設シテ輕便電話

器ノ電池(代價)兵署検査用前所(代價)兵署庫用目覚
 時計(代價)等ヲ用達商人石津作ヲシテ納附セシメ
 昨年十一月セツ精算セシニ拾五拾圓ノ仕掛ヲ要スニ至リ
 然レモ之ヲ前記資金ヲ支辨スル時ハ僅ニ數円ヲ餘ヌニ至ルヲ以テ
 恰モ彈填替所ノ一隅ニ前任要員ノ残置セシ空薬莖等
 箱ノ表外ト爲リ居タルヲ以テ之ヲ拂下前記購入品ノ仕掛
 フナサントレ主座ノ事請ヲ得テ同年十二月下旬石津作ニ拂下
 ケ約拾九圓ノ納証ヲ徴シ尚キ多少ノ過餘金アリシヲ以テ事
 務用品ツ上納セシメタリ(始末書)而シテ該拂下及物品購入ニ
 関ス納証及受領書ハ兵署要員室ノ机ニ收納セラレ別紙始
 末書等ニ加テ事情ト勤員計四事務等ノ爲ノ托殺セラレ

0623 0624

記入漏
二付張
付

十二月五日
十一月四日

一八

三〇〇

一八
三〇〇

一七
九五五

排第七号

二六
二五五

排第四号
石澤作解
其英一ノチ子代

述ニ其整理ヲ行フ事ヲ忘却シテ今日ニ及ヘリ

昭和十一年
一月十八日

0623 0624

遂ニ其整理ヲ行フ事ヲ云却レテ今日ニ及ヘリ

月日	後高	拂高	残高	摘要
六月三十日	二二一五五		二二一五五	前期ヨリ繰越
八月十日		二〇〇〇	一九一五五	当座字研究費冊外
十一月十日		一一〇〇	一七九五五	本部火鉢取履
四月十八日		六〇〇	一七三五五	所捨場金庫用カギ鑑賞金

(別冊ニ貼附セル當時ノ出納ハ今日ヨリ整理セルモノトス)

附記

始末第一第二ハ今面竹下第大尉ノ取組ヲ受ケテ各別
錯誤ノ結果橋本中尉ノ提出セルモノナリ

始末書 第一

明治四十四年十月頃兵器委員主座秋月中佐一乗認ヲ得テ
 我々隊彈藥燐替場一隔ニアリシ三十年式銃室中實藥英約
 二十貫一價格約二十圓一ヲ商人石津代作ニ賣却シ左記物品
 ヲ購入セシコト相違無之候

一、九月五拾貳

兵器庫廊下用金網製柵戸

一、四拾 末

兵器手入用油試驗管二十本

一、十八 末

今古 試驗紙一箱

一、壹月貳拾貳

兵器庫用目覚時計壹個

一、貳月五拾貳

電報器試驗用乾電池五個

一、貳 月

兵器車務用ノ手燈用定規紙換紙是

一、壹 月

今用馬重紙模造紙、印判帳簿用紙

一、貳

円

兵部検査用前紙亦ニ枚

但シ右ハ只々記帳ノ儘ヲ記載セルヲ以テ全然正シキナリ
アリ

上巻第七十一聯隊留守隊長若原要員

大正元年八月九日

陸軍歩兵中尉橋本喜和人 印

附記

古文句ハ歸隊後記帳ノ儘ヲ筆記セルヲ以テ多ク

字句ノ相違等ノ点ハ免レス

始末書 第二

別紙始末書第一ノ金銭ノ出納ヲ金銭出納簿ニ記入セリ
理由左ノ如シ

三

四

明治四十四年十一月一日入隊。同月八日、陸軍省へ渡満々、新兵
 ハ突然留隊。テ教育スヘキトナリ。テ以前準備を計画
 ハ全然不用トナリ。更改ノテ新計画、同実施ヲナサレハカラス又々
 新兵入隊ニ就テハ其ノ中隊令ノ（當時留隊ニテハ正隊別ニ
 ナリ）諸帳簿傳票ヲ作爲シ委員自ラ之ヲ記入ヲナサレ
 ヘカラス何シトナレハ新兵中隊ニ武器掛下士少ナカリシヨル（兵
 器事務ヲ取扱シ経験ヲ有セシモノナリキ）其他改正兵器取
 扱規則ニ據ル兵器事務ノ改正実施及年末ニ於ケル兵器檢
 査等ノタノ限ル繁忙ヲ極メ、常ニ日没ニ至ラサレハ退堂セサレカ
 如キ情態ニテ終ニ不知不識ノ間ニテ金銭ノ出納記入ヲ忘却シ
 其終今日ニ至リシモノナリ

右と通り相違無之候也

歩兵第七聯隊留米隊員

大正元年八月九日

陸軍歩兵中尉橋本喜和人 印

附記

右文句ハ歸隊後記帳ノ儘ヲ筆部セルモノナリ
以テ多少字句等ニ相違ノ点アルハ免レヌ

0629 6290

茲ニ改正報告訂正仕候ハ本件ハ二月ト概括的報告及
置候處一月十八日ノ有之候間茲ニ訂正仕候

629

0629 0630

本年二月當地ニテ表外藥莢拂下閉スル件

一、賣却ノ時日、本年一月中旬立島力太郎ヨリ代價金貳拾兩受領

一、理 由 昨年末留中陳長畧委員ト派遣陳長畧委員ト

ノ間ニ飛テ牝牛草(刺ハ横村春用)ノ購買上秤量差生シ當

隊ニテ留中陳長畧委員ノ申越セシ通リテハ一校ノ横村春

標準價額ノ二倍以上トナルヲ以テ帳簿ノ受入困難ナリ故

ヲ數回ノ交換ヲナセシモ適當ナル解決ヲ得ス為ナニ其

差額ヲ支辨セントセシモノナリ

一、藥莢ノ重量、考拾費目(但シ前駐隊ヨリ繰越剩餘トナシ)

一、買戻シタル理由、牝牛草ノ秤量差額ハ内地商人ト留中陳長

遣陳長畧委員相互ノ間ニ於テ釐清ノ結果大部分ノ整理

0631 2890

ヲ爲シ得ルに至リシモノ賣却ノ必要ナリト近來内地部
陳嘉英問題ヨリ首座ノ注意ヲ受ケシモノ右賣却代價
賣却内ヲ以テ本月二十日買戻セリ
右賣却ニ就テハ聯隊長長谷部員首座ノ指示ヲ受ケテ
シ但シ牝牛羣秤量ノ差額ヲ生シ昨年ヨリ整理上困難ヲ
生シテノトハ當時首座奥田中佐ニ話シタレバ遂ニ何等處置
ヲ受ケ得サリシ

問推

五、賣却シタル金ハ何ニテアリシヤ

答

五、該金員ハ石光中尉ニ託テ有錢箱内ニ保管シ金面換金
ヲ以テ買戻ヲナル旨陳述ス

ヲ爲シ得レシ至リシタテ賣却ノ必要ナリト近來外地部
隊募集問題ヨリ首座ノ注意ヲ受ケシタテ右賣却代價
貳拾円ヲ以テ本月二十日買戻セリ

右賣却ニ就テハ聯隊長長谷部貞首座ノ指示ヲ受ケテ
シ但シ此半量秤量ノ差額ヲ生シ昨年ヨリ整理上困難ヲ
生シテ又ハ當時首座奥田中佐ニ話シタレバ遂ニ何等取置
ク役々得サリシ

一當時之ニ関セシ將校、中尉石丸重助

一賣却シテ商人、立島力太郎商人ノ賣却ヲ依頼シタル

モノハ高桂山（支那人）

報告本書ニ於テ橋本中尉破棄セリノ説アリレ因本中尉
 平貞時代ノ私金出納簿ハ唯今留置際ヨリ写リテ
 報告致シ来リ候ニ付此ニ添付報告ス

陸

軍

0634

金錢出納簿

自明治四十年一月
至同四十二年六月四日

兵器委員

0635 0636 0637

問 推 本 中 尉 出 版 長 子 知
サリシヤ



(出)

(出)

二二〇

二月十九日東京南橋町新橋澤山蔵
書無作

十四号(明治)

三

四

0635 0636 0637

生 生 生 生 生 生 生 生 生 生

火
答

六、本件ハ先日下官より上申仕候始末書一通ニ有之自
認仕候次第ニ御座候

二月十九日東京南條町新相澤海蔵
書箱作
カ五号

4890 9890 5890

受	拂	現在	摘要
二六八七〇	一〇〇〇	二六八七〇	明治四十四年九月九日 石津代作納金 秋田商會 光井銀二長八二月十番 市井銀更兵署見本トシテ購入 石津代作八二月十番 市井用本印代 印代二月十番 東京相澤留藏へ高橋文一 八丁堀在村書光八二月十番 秋田商會代金 秋田商人二月十番 本館蔵品代 二月十番 石津代作納金 （資料品不明） 開本中村山口八丁堀 二月十番 石津代作納金 二月十番 石津代作納金 二月十番 石津代作納金 二月十番 石津代作納金
三六八七〇	一〇〇〇	二六八七〇	
二二五〇	二二五〇	二二五〇	
二〇三〇	二〇三〇	二〇三〇	
二二五九〇	二二五九〇	二二五九〇	
二六二九〇	二六二九〇	二六二九〇	
三七七四五	三七七四五	三七七四五	
一七九〇〇	一七九〇〇	一七九〇〇	
六二八〇	六二八〇	六二八〇	
二二一〇	二二一〇	二二一〇	

附錄

替 替 替 替 替 替 替 替

一八〇〇〇	一一一八六五	要買所屬者ハ於レ四月半青熟借金レシテ贈與ス 自レ物出ク買ヒ與フ
一五〇〇	二〇三六五	階計ハ階半埃替場用 元二四号
四三〇〇	一〇六〇六五	兵器學教程(將校用)
五九〇〇	九九一六五	板築學要 元二五号
四八一九〇	五〇九七五	華島修理 元二七号
三〇〇〇	四七九七五	喇叭修理 元二七号
一六二〇〇	三二七七五	金 右 元二八号
七二〇〇	二四五七五	澤澤箱金換ハシキ代
四〇八〇	二〇四九五	澤澤箱金換代

碑金計拾四拾九元五厘六月四日橋本町へ申送レ
 (七月四日付)

注意欄 兼外 出 山本少佐 出 山田中佐 替 秋月中佐ノ

壺

匣

0640

認印ト又爰拂欄内各岡本中尉ノ認印捺アリ

大正元年 閏乙未第一五號
八月廿六日

小銃藥莢等不正賣却ニ関スル件

歩兵第十一聯隊 左第七十一聯隊 原衛成地ニ
飛テハ去ル 明治四十年ヨリ 同四十四年ノ間ニ
飛テ別表ノ如ク藥莢 其他ヲ制規ノ手
續ヲ履行セス 同隊ニ出入スル用達商人
ニ賣却セシ 實跡アル旨豫テ 廣島 憲兵
隊長 ヨリ 通糶牒ニ 接シ 居リシカ尚 銃
砲 駐屯歩兵第七十一聯隊ニ 飛テモ 似
寄リノ事 實ニ聞 込アリ 御参考ニテ及 通糶牒
一、本年三月頃 歩兵第七十一聯隊 第二大隊 武 巻

係軍曹永見善作(現今第1師団)ハ今駐隊出
 入ノ用運商立島力太郎方ニ赴キ小銃薬莖
 約三十貫匁ノ表外品アリ買取り呉レヨ
 ト申込タリ然ルニ立島ハ兵器ニ関スル物
 品ナルヲ以テ一應全大隊兵器要員歩兵
 中尉石丸豊助ニ確ナタルニ中尉ハ護品
 ハ兵器ノ補填費ニ充ツル爲メ賣却スル
 ナル旨答ヘタリ以テ立島ト安心シテ買取
 スルヲニ決シ月日不詳全大隊北門外ニ於テ
 永見軍曹ヨリ数量約三十貫匁ヲ石油箱三個
 ニ詰メタル受領シ其後十日許ニ代金ト

トシテ金二十円ヲ永見軍曹ニ支拂ヒ立島ハ
 一昨洋鉄二十支リ以テ鉄峯西門外高桂山
 (支那人)ニ賣却セリ而シテ其後何等事ナカリ
 カ去八月廿一日永見軍曹ト立島ニ對シ先般賣却
 セル藥莖現存セリ返却スルヲ申シ渡シタルヲ以
 テ更ニ高桂山ヨリ取戻シ翌廿二日午後十
 時頃石丸中尉官舎前ニ送テ交ラ今中尉ニ
 返却セリ但シ代金ノ返却ハ未タ未タナリ

大正元年八月廿六日

本件ニ鉄峯中隊長ヨリ駐陣長代理(各務長官署)
 步兵大佐林長一國勝セリ

別表

告身第十聯隊金屑拂下内訳書

年月日	品目	数量	代價	松下ツ愛ケシ商人
明治四十一年 五月二十日	真鍮屑	十五貫匁	十四圓八匁	石津作
左四十二年 七月一日	金	八貫匁	八圓	金
左四十二年 九月一日	鉛屑	四貫匁	十八圓七匁	金
左四十二年 九月一日	二九七彈 (俵用情)	五十五貫匁	二十四圓	嵐貞吉
左四十二年 九月一日	金	四貫匁	三十八圓	金
左四十二年 十一月廿四日	真鍮屑	十五貫匁	十八圓	石津作
左四十二年 七月一日	鉛屑	四十一貫匁	十四圓四匁	金
左四十二年 七月廿七日	真鍮屑	五十一貫匁	七十二圓	金
左四十二年 三月廿九日	金	五十五貫匁	五十六圓	金

全 年 月 日 不 詳	三ッケル (使用済)	二百貫匁	百六十匁	石津也作
全 年 土 月 六 日	真鍮洗物	三百五十五匁	四百五匁	全
全 年 二 月 一 日	全	六十二貫匁	七十八匁	全
今 年 三 月 十 五 日	真鍮屑	十七貫匁	二十匁	全
備				
一、真鍮屑ハ藥炭柳彈子等ナリ				
二、真鍮線ハ銃體ヲ掃除ニキ洗矢ノ折等ナリ				
三、真鍮洗物ハ藥炭柳彈子等ヲ溶解シタルナリ				
考				
四、三ッケルハ三十年式銃彈ノ使用ニモノヲ堀出シタルモノナリ				
市令第七十一號隊金屑取下内訳表				
明治四十二年 七月	三ッケル	三十五匁	五十四匁	石津也作

0646

全四五年 七月廿日	連騎角	十八人重役	廿七日未	全
全五年 十月九日	全	百六人重役	貳百円	全
全四年 一月	全	四十貫匁	四十八円	全

(了)

臣

臣

七歩乙發第一二号

空薬莖拂下事件ニ関スル通牒

大正元年八月十七日

告兵第七十聯隊留軍隊長代理町田徳助

第五師團留軍參謀松崎新太郎殿

留隊兵器委員ニ係ル空薬莖拂下事件ニ関スル
状況調書別紙ノ通り及御通牒候也

陸

軍

歩兵第七十一聯隊空襲茨城下事件ニ付

兵器委員橋本中尉取扱ニ係ル状況書

一、橋本中尉兵器委員拜命ヨリ留守隊編成ニ至ル状況

橋本中尉ハ明治四十三年六月初旬兵器委員ヲ拜命シ岡

本中尉ト交代ノ際從來兵器委員ニ有セシ一種ノ資金或指内格

九銭五厘(別冊金銭出納簿参照)ヲ同中尉ヨリ引継キ且ツ該

資金ニ関シ概ネ左部ノ申継ヲ受ケタリ

一、本資金ハ射撃場ノ發塲彈ノ鉛ヲ排下セテ得ルモノナリ

又、元來發塲彈ノ鉛ハ之ヲ狹窄射撃彈ニ改造スル規定ナ

ルモ土砂混入甚タレリ精製ニ困難ナルヲ以テ之ヲ排下セテ純良

ナル鉛ヲ購入シテ狹窄彈ヲ製造シツルアリ

3、現在ハ多数ノ既製狹窄彈アルヲ以テ當分ハ鉛ヲ購入スル
ノ必要ナレ故ニ発堀彈ノ拂下代ハ総テ該資金ニ繰入ルコ
トヲ得ル狀況ナリ

4、該資金ノ使途ハ兵器事務ニ関スル表外品又ハ不足品
ノ購入、補填、検査檢閲等ニ際セル兵器ノ臨時修理費、
其他檢閲前等夜業ヲ為セル時等工卒ニ與フル夜食料
銃工卒歸休除隊ノ際ノ写真撮影費、兵器委員ニ必要
ナル書籍購入代等ナリ

5、該資金ヲ出納スル必要アル時ハ主座ノ承認ヲ受ケ收入ニ
對シテハ納証ヲ支出ニ對シテハ受領証ヲ做シ又金銀出納簿
ニ之ヲ出納ヲ明記シ置キ主座ノ認印ヲ受ケ置リヘキコト

明治四十三年六月中旬より七月中旬より三回ノ發掘彈ヲ用達
 商人石津代作ニ拂下ケ金五拾五円九拾五錢ヲ得之ヲ該資
 金ニ組入レタリ(別冊金銭
出納簿参照)再末發掘彈ハ軍隊ニテ取扱ハサル達
 ヲ受ケ發掘彈ノ松下ヲ行ハス

同年十一月特別大演習施行ニ付將校准士官ノ軍刀鍍金剝脱
 シルヲ以テ之ヲ市井ニ出スルハ多額ノ費用ヲ要スルノミナラス保存
 極メテ不良ナルヲ以テ常備隊附林銃工長鍍金術ヲ知ルヲ以テ兵
 器委員協議ノ上器械材料ヲ購入シ九月下旬より之ヲ實施シ
 軍刀一個鍍金代金五拾錢宛ヲ徴シ金拾七八円ヲ得タリ

而シテ同年十二月頃該鍍金ニ関スル費用ヲ精算セルニ約五拾円
 シ支拂ハサルハカラス然ルニ一方ニ於テハ翌四十四年四月ニ師團

渡満ノ内達アリ之等ノ為ノ多クノ費用ヲ要スヘキヲ豫想シ
 恰モ年度末ニ於テ表外トナルノ空費夾アリシヲ以テ兵器委員
 員協議ノ上當時彈藥係タル河村中尉ノ取扱ニ空費夾
 約三十貫匁ヲ石津代作ニ拂下ケ其代金ト差引セリ當時多
 クノ残金ヲ見シモ渡満ノ為メ鍍金藥品等ヲ購入セリ此ノ
 際代金ノ受授ヲナサリレト主トシ河村中尉又ヲ取扱シテ
 以テ金銭出納簿ニハ之ヲ記上セス

派遣隊渡満ノ際資金中ヨリ金参考内ヲ該隊兵器委員
 シル高野中尉ニ交付シ残金貳拾陸圓拾五匁五厘ハ之ヲ橋
 本中尉ノ手ニ保管セリ

二、留京隊編成後本年七月ニ至ル間ノ状況

明治四十四年四月留學隊編成後留學隊ノ兵器業務ハ主トシ
 テ橋本中尉一名ト一ノ銃工長トニテ擔任セサルハ就中
 在庫品手入ノ際ノ如キハ監視不行屈膝ニリ以テ在庫品紛失
 シ豫防スル為装脱自在ナル金網製戸扉ヲ兵器庫内ニ設ケ
 (五格)又室内ニ常設シテ輕便電話器ノ電池(代價)兵器檢
 査用可機(代價)兵器庫用目覺時計(代價)等ヲ用達
 商人石津代作ツレテ納附セシ昨午十月之ヲ精算セルニ格五六
 円ノ支拂ヲ要スルニ至レリ然ルニ之ヲ前記資金中ヨリ支新ス
 ル時ハ僅カニ數円ヲ餘スニ至ルヲ以テ恰モ彈藥填替所ノ一
 隅ニ前任委員ノ疎置セシ空薬火參箱ノ表外ト為リ居タ
 ルヲ以テ之ヲ拂下ケ前記購入品ノ仕拂ヲナサントシ至此ノ末

認テ得テ同年十月下旬石津代作ニ拂下ケ約拾九月ノ納証
ヲ徴シ尙ホ多クノ過餘金アリシヲ以テ事務品ヲ上納セシメテ
(始末書) 而シテ該拂下及物品購入ニ関スル納証及受領書
ハ兵器委員室一机ニ收納セシカ別紙始末書第二ノ如キ事
情ト勤負計画事務等ノ為ノ忙殺セラレ遂ニ其ノ整理
ヲ行フ事ヲ忘却シテ今日ニ及ヘリ

(別冊ニ貼附セル當時ノ出納ハ今日之ヲ整理セルモトス)

三、今回空襲甚だ拂下事件發生後ノ状況

七月三十日夕步兵第十一聯隊兵器委員大下中尉ハ橋本中
尉ノ私宅ヲ訪ヒ左ノ要旨ヲ橋本中尉ニ語レリ

憲兵隊ハ今回我聯隊出入商人石津代作及他一人ヲ呼

出レ同人等ノ帳簿ヲ引上ケテ又駐隊ニハ昨日黨兵
 出張シテ藥莢及砲彈賣却ノ件ヲ取調ヘ自今又
 本日黨兵隊ニ招致セラレ取調ヘリ受ケ銃工長ニ引致セラ
 レ今ニ級隊セス我隊ハ今日迄多量藥莢ヲ賣却シ居
 ルモ一モ記録ナキ故困難シツアリ兎ニ毎昨午末賣却セシ藥
 莢代ヲ正式ニ政府ニ納入セリ黨兵隊ニ引上ケル帳簿
 ノ附箋ヲ見ルニ我隊及島根支隊ノ今ノ三ニシテ貴隊ノモノ
 ハ見サリシ

右ニ付橋本中尉ハ直ニ田中銃工長ヲシテ石津代作ノ許ニ
 至リ事情ヲ確カナレノ一方秋月留守隊長ニ報告シ級宅セリ
 恰モ田中銃工長ハ石津代作ノ情況ヲ確メ歸來シテ曰ハク

石津ノ手代ノ言ニ依リ、富島隊ニ引上ケル帳簿、古物商ノ帳簿ニシテ石津ノ帳簿ハ引上ケ居ラス良シ引上ルモ拂下ケ、都度悉ク記入シテアルノミナス記入セルカ
ト虽隊号ハ記入シテアルス富島ノ取調ニ對シテハ告号第十一
隊隊号亦四十一隊隊号亦支敵ノカニ記牒ニ存セシ
丈ケハ自白セルモ告号第十一隊隊ノ事ハ全クロツ緘シテ
云ハサリシ例ハ今後取調ヲ受クルモ御隊ノ事ハ決シテ口
外セスト

依テ橋本中尉ハ更ニ之ヲ秋月留守隊長ニ報告セリ
翌一日午後一時及午後四時ノ二回、石津代作ノ手代来
隊レ橋本中尉ニ對シ概ス下ノ要旨ヲ報セリ、主人ハ李朝来

[illegible]

	三、一〇〇			五月七日石津代作松 并六号(箱五)
	四、〇〇〇			自五月十一日至五月十四日間ノウロク代
	一六、五〇〇			妻重附屬ニシテ一人持参此四月林能云在野多ノ不属 奔渡込京菅老年致云長各育合此地有子才 自し物あり買ひ給フ
	七六〇			六月一日夜食代 并九号
	二七〇〇			六月十日妻重附屬金食代 并七号
				銀代六月十五日 并八号
一三、〇〇〇	六六〇			六月十九日高城兵衛兵衛松 并番番細則中諸傳果代并十号
	二〇〇〇			六月廿一日同日軍曹八郎市上レナ 但し物あり買ひ給フ
	一五、〇〇〇			六月二十日石津代作松 三八式銃信代并十号
六〇〇、〇〇〇				四月七年七月十九日 (巻帳簿ナラシ) 并十五号
六三、七〇〇				四月十年十月三日 (同上) 并十五号

三

憲隊に引致せし嚴重なる取調を受け居り貴隊ノ事ニ連
 二白白スルノ止ヲ得せんニ至レリ然レモ留守隊編成以後ノ事
 ハ白白セザリシト仍テ橋本中尉ニ更ニ同夜之ヲ留守隊長秋
 月中佐ニ報告セリ

八月二日橋本中尉ハ事件ノ成行ヲ隊長代理ニ町田大
 佐ニ報告セリ町田大佐ハ直ニ資金ニ對スル金銭出納簿及
 証據書類ヲ検査セリ當時可記昨四十四年七月拂下セシ
 藥莖ニ對スル書類ノ不備ナル事ヲ聞知セリ

八月三日町田大佐ハ該事件ニ関シ目下ノ情況ノ大要ヲ師
 團參謀ヲ聞知スル處アリ又前夜秋月中佐アリ旨ヲ受ケ
 タルヲ以テ概ネ左ノ意味ヲ橋本中尉ニ告知セリ

當師團ニ於ケル發掘隊及藥莖隊下ノ事ハ習慣ノ久
 シキモノナリ如レ故ニ今回ノ如キ事件ヲ其筋ヲ何處迄
 モ調査セントモ非常ニ廣範圖ト成ルヘシ故ニ余ノ考ト
 シテハ實際私腹ヲ肥ス等ノコトヲ使途明瞭ニ何等
 耻ツル處ナカルヘシ唯法規ニ反スル金銭ノ取扱ヲナス事
 ニ對シテハ吏レ夫レ責任者ハ甘シテ其責ヲ引リヨリ致
 方ナルヘシ商人ノ言ノ如キ容易ニ信用スヘカラヌ
 八月八日午前憲兵令隊長竹下大尉始メテ來宮橋本中尉
 ヲ取調ヘタリ其要旨左ノ如シ

竹下憲兵大尉問　藥莖及發掘隊ヲ耕下ノル事ハ
 今回何レノ際ニテモ昔ヨリ習慣トシテ實施シ居事ハ

業知し居り故之ヲ取調ヲ積極的ニ行フ時ハ其極難
ヲ知ラス故ニ自己トシテ留守隊編成以前ノモノハ別トシテ昨午四
月以來捕下ニ対シ取調商人等得ル事案ヲ悉ク南支所
不明ナル藥莢多數アルヲ遺憾トス貴隊ニ預メハ賣却セシ
事ナキヤ

橋本中尉答

明治四十三年六月 兵務委員拜命後

ハ發艦彈ヲ同年正月迄ニ三四ト當時ノ彈藥主任
タリ河村中尉ノ扱ニテ藥莢若干ヲ用達商人石津代作
ニ賣却セルト其代金全部ハ買収銀金ノ材料購置ノ爲メ
使用セルト中尉ノ委員拜命後ハ資金出納ハ金錢出納
簿ニ記載セルト留守隊編成後ハ一回ハ物出ヲ商人ニ拂

下シコトナレト

竹下大尉問

昨年末迄方カ十一聯隊銃工長ニ葉集

拂下ノ相模ヲナレ且其結果等ヲ詳セシコトナキヤ

橋本中尉答

全然ナレ斯ナルコトヲ他隊且銃工長ニ對

シ相模スルカ如キアナルヘキ答ナレ

是ニテ竹下大尉ハ資金ノ出納簿及証書綴ヲ橋本中尉

ヨリ借用シ且當隊附田中銃工長ヲ引連レ町田大佐ニ對シ

左ノ意味ヲ語リテ歸レリ

橋本中尉ハ事實ヲ否定スル虞ニテ如シ當兵ニ於テハ証

據確ニモテ對シ否定セバ何処迄モ之ヲ取調ヘサルヘキヲ

ス方カ十一聯隊ニ於テハ矢張り總テノ事ヲ否定セザルヲ取

調上甚々困難セリ仰一考リ煩ハス

橋本中尉ハ直ニ町田大佐ニ對シ右状況ヲ報告シ且ツ曰ク昨
年十月拂下ケル藥炭ノ件ヲ不本意ナカラズ認メテ之ヲ護拂下
スル金銀出納ヲ帳簿ニ記入シテアリシト証書類ヲ紛失セルト石津
代作リホリ自白セルト信スルト且此件ヲ憲兵ニ申立ツヘキヤ
否ヲ主坐タル秋月中佐ニ對シ指示ヲ仰ガリレ爲ナリレモ甚々心
苦シキ次オナリト依テ前記憲兵令隊長ノ説ニ就キ説ホス
ル處アリ且憲兵ノ言ニ依レハ當座ヨリ昨年六月十五日面ニ
藥炭ヲ拂下ケ居ルコト又電氣鍍金ノ爲ニ貳百円程ヲ使用シ
居ルコトヲ取調ハ居レリト事ナレハ中尉ノ申立ツルコトハ甚々相
違アリ若シ昨年未ノ令ヲ否定スルハ他ノ無實ノ事トモ疑フ

受クルニ至ルヘキコトヲ諒示レ万ニモ從來中尉ハ申立テ居ル以外
ノ事實等アリハ此際悉ク余ニ申立ツヘシ然ラザレバ將來一身上
ノ浮沈ニモ関スヘキヲ以テ能ク思慮スヘキヲ諭レタリ是ニ於テ橋本
中尉ハ決シテ前記ノ外ニ事實ナキコトヲ誓ヒ且ツ直ニ大憲兵
隊ニ至リ前言ヲ取消シテ事實ノ真相ヲ告白スヘキ決心ニ憲
兵隊ニ出頭シテ昨年末ニ結ビ貫ノ藥莖ヲ拂下ケルコトヲ奇
刺金リ右事實ナキ由ヲ答タル理由及昨年六月ニ拂下ケル
コトハ全然ナキコトヲ告ケタリ

是ニ於テ竹下憲兵大尉ハ大ニ満足シ自レノ疑惑ハ全ク永
解セリ再後本職ノ設置トシテハ此如キヲ留學隊長ニ移ス
ニ止マルヘシト答ヘ且ツ右十一月拂下ノ件ハ主咎ノ承認ナキ事

ミテ橋本中尉一人ノミテ決行セルトナルヘシト問ヘリ依テ橋本中尉ハ然リト答ヘタリ蓋シ橋本中尉ハ果シテ主生ヲ及サシテ其ヲ一身ニ引受ケントスルニ因ルナリ

町田大佐ハ同日事件ノ成行ヲ聞知セシ爲メ同夜竹下大尉ヲ訪ヒ且ツ本ノ橋本中尉ヲ昨午十月拂下ノ件ヲ主生ノ義認シ經サル由中ニ立タルモヤシ全ク累ヲ主生ニ及サレノナル情宜ノ爲ナニシテ事實ハ全ク主生ノ義認ノ上決行セル事ナレバ此莫ク義認ニ異シラレタキ旨申シタルニ然ラハ情ヲ酌テ其莫ハ義知スヘシ兎ニ再明日今一度橋本中尉ヲ出頭セシナレタレト云フシ翌九日橋本中尉ハ憲兵隊ニ出頭シ竹下大尉ニ對シ昨午十月藥莖拂下ノ事實ニ付前日主生ノ義認ナキ旨答ヘタル全

夕銭慮出アタルコトナリ以テ取消サレタキ旨申込タル直チニ
 之ヲ承諾シ且ツ又昨午十月拂下ノ藥莖ノ数量金額購
 買物品ニ就テ主座ノ承認シ居レルコト及其金錢出納ノ帳簿
 ニ記入セザリシコトニ関シ始末書ヲ差出スヘキ命セラレ橋本中
 尉別紙ニ葉ノ始末書ヲ差出セリ而シテ昨午大尉ハ更ニ再ヒ
 昨午十月ノ拂下ノ事實ハ確カニ無キヤヲ下問セシカ橋本
 中尉ハ金ヲ記帳ナリ且又當時ハ未ク留守隊編成後ニシテ他
 ノ兵器事務ノ為彈藥ノ整理ヲ為スノ餘猶ナキ時化ナリシ
 以テ全然斯ナルコトアル筈ナキヲ陳述セリ

八月十日町田少佐ハ田中銃工長ニ對シ橋本中尉ノ申立以外ニ
 該事件ニ関レ記帳セル事實ノ有要及要員ノ許可ヲ自己

一身ニテ廢置セシ件等ナキヤヲ確ナクモ全クナキ旨斷言
セリ

右ニ關シ八月十日附リ以テ留守隊長秋月中佐、廣島憲兵隊長
鈴木武臣ヨリ別紙軍ノ通報ヲ受ケタリ

八月十二日當隊ニ於テ參考ノ爲メ用達商人石津代作ヲ取調ヘタ
ル結果左ノ如シ

イ、七月下旬憲兵隊ニ召致セシ某憲兵軍曹ヨリ明治四十年以
来ニ係ル市古物商ノ手ニ賣却セシ四十餘件ノ真鍮屑
其他ニ就テ詳細ニ取調ヲ受ケシモ自己ノ帳簿不整頓ノ爲
メ明瞭ナルヲ得ズ僅ニ記憶ニ存ル者共六、四、五、取隊
及兵農支隊ノ令ヲ陳述シ當隊ニ關シテハ一面ヲ購入トシ

ナキ旨答ヘタリ

只八月一日再ヒ召致セラレ前ト異ル某軍曹大聲叱咤レテ橋
本中尉ハ藥莖拂下ニ関レ告号ナキ上駐隊銃工長ニ相談シ
アトアリ又同隊ニテハ脱逃機其他ヲ購入セル事實確カナリ之
レニテモ知ラヌト云フカト留置所ニ移セシ數時間ノ後再ヒ問
查ヲ受ケ遂ニ留置隊ヨリ唯一回昨午十一、二月頃ハ三個分
約十六貫位ヲ拂下ケテ受ケタリ其他ハ唯四十五年某々西
年一二月頃カニ河村中尉ヨリ拂下ヲ受ケレド凡旨答ヘタリ
ハ、憲兵隊ニ於テ四十四年ハ九月頃十五六貫同年十一月頃十
貫ヲ拂下ケタリト云ハ陳述セシニラスヤトノ間ニ對シ同人ハハ
九月頃拂下ケタリト云フ十五六貫ハ十二月拂下シ令リ自レ首

違ヒカ又ハ憲兵ノ聞キ違ヒタルヘシ又十一月頃方テ實ヲ拂
 下ケタリト云フハ多分四十三年市河村中尉ノ扱ニテ拂下ケタ
 ルモノナラシモ自己ノ言ヒ違ヒカ憲兵ノ聞キ違ヒタルヘシト
 答ヘタリ

要スルニ石津代作ハ責任ヲ負フヘキ正確ナル帳簿ナリ僅
 カニ記帳ヲ喚起シツル頗ル不確定ナル事ヲ陳述シツルモノ如シ

6990

明治四十三年六月以降

金銭出納簿寫

明治四十三年六月	受高	拂高	鉄高	
四月四日	二〇四九五	-月-	二〇四九五	前在者より受高 松証力一号 国引具是稱代
六月七日	-	五二〇〇	一五二九五	松証力二号 軍庫内格書代
六月十日	-	〇一八〇	一五一一五	松証力三号 兵器要員附 松証力一號 兵器要員附 松証力二號 兵器要員附 松証力三號 兵器要員附
六月十五日	-	二五〇〇	一二六一五	松証力四號 兵器要員附 松証力五號 兵器要員附 松証力六號 兵器要員附 松証力七號 兵器要員附 松証力八號 兵器要員附 松証力九號 兵器要員附 松証力十號 兵器要員附
七月一日	一四八八〇	-	六三八五五	松証力十一號 兵器要員附 松証力十二號 兵器要員附 松証力十三號 兵器要員附 松証力十四號 兵器要員附 松証力十五號 兵器要員附 松証力十六號 兵器要員附 松証力十七號 兵器要員附 松証力十八號 兵器要員附 松証力十九號 兵器要員附 松証力二十號 兵器要員附

灰捨場並復南ノリと鑑六個代

<http://www.jacar.go.jp/>

始末書第一

明治四十四年十一月頃兵器委員至此秋月中佐ノ家ヲ得テ就康
 彈藥塲替場一隅ニテ三十一年式銃實包空藥炭粉ヲ賣(價格約
 二十兩)ヲ商人石澤代作ニ賣却シ左記物品ヲ購入セリト相違無
 一 九兩五十兩 兵器庫廊下用金銅製仕切戸
 一 四十兩 兵器庫用油試験管二十本
 一 十八兩 金 古試験紙一箱
 一 一兩二十兩 兵器庫用目覚時計一個
 一 二兩五十兩 電話機試驗用乾電池五個
 一 二兩 兵器庫用ノ手電筒四定規、紙挾紙是
 一 一兩 金 用馬糞紙模造紙印刷帳簿用紙

一、二

四

兵部省軍務司用前掛市ニ枚

但し右記騰ノ儘ヲ記載セルヲ以テ全然正シキモノナラズ

止方号七十一腰張留字隊兵部省軍務司

大正元年八月九日

陸軍省中尉橋本喜和人印

附記

右文句ハ陸軍省後記騰ノ儘ヲ筆記セルモノナリ以テ多ク

字句ノ相違等ナルハ免レス

始末書 第二

別紙始末書第一ノ金銭ノ出納ヲ金銭出納簿ニ記入セリ
理由左ノ如シ

明治四十四年十一月一日入隊シ同月八日頃派遣隊へ渡満スルキ新兵ハ
突然留學隊ニテ教育スルヲ以テ以テ新準備セシ計画ハ全然不用
トシ更ニ改メテ新計画ニ同實施ヲナサルヘカラス又々新兵入隊ニ就
テ其十二ヶ中隊令ノ(當時留學隊ニテ區隊別ニテセリ)諸帳簿傳
票ヲ作為シ委員自ラ之ヲ記入ヲナサルヘカラス何シトモ新兵中隊ニハ
武器備下セカナリシヨリ(兵器事務ヲ取扱ヒ経験ヲ有セシモノナリキ)
其他改正兵器取扱規則ニ於テ兵器事務ノ改正實施及ヒ年
末ニ於ケル兵器検査等ノ大體總括シテ極々簡明ニ目次ニ至

ラサレハ退官セサリシヤ如キ情態ニテ終ニ不知不識ノ間ニ至リ金
 銭ノ出納記入ヲ悉却レ其儘今日ニ至リシモノナリ
 右ノ通リ相違ニ無ク候也

先考第七十一聯隊留守隊長署要員

大正元年八月九日

陸軍省中尉橋本喜和人 (印)

附記

古文句ハ歸隊後記帳ノ儘ヲ筆記セルモノナリ以テ多少
 字句等ニ相違ノ異見リ免レス

(鈴木憲兵隊長通報書)

大正元年八月十日 慶本乙第一二号

告号第七十一聯隊及令留學隊官物不正賣却事件

告号第七十一聯隊官物不正賣却事件、關聯し告号第七十一聯隊及令

留學隊ニ於て兵器委員ハ明治四十二年^有以降、至四十四年十二月頃、

迄ニ制規ノ手續ヲ履行セズシテ藥莢、彈子等ニ付ケル等

ノ金屑ヲ用、匪商人ニ拂下ケ甚代金ノ一部ハ留學隊現時ノ兵

器委員橋本中尉現ニ之ヲ保管シ之ヲ出納シ居セリ尚

其他ニ於テ賣却途明瞭ナラズヤリ甚丹答左ノ如シ

一事實

現實

歩兵第七十一聯隊

(一) 明治四十二年以後同四十四年二月二日別表第一号ノ通
 リ歩兵第七十一聯隊兵署委員ハ眞鍮屑ニ付ル等
 二百八十貫匁余ヲ價格三百円余ニテ今隊ノ用度商人廣
 島市堀川町石津代作ニ賣却セリ其代金一貫匁三匁
 テハ部隊履端中ニテ調査スル能ハレシ以テ不明ナリ

全留守隊

(一) 大正元年八月四日石津代作ヲ取調タル処 高歩兵
 七十一聯隊留守隊ヨリ別表第一号ノ如ク明治四十四年八
 九月頃眞鍮屑十五匁貫匁價格十匁七円及今年
 十一、二日頃眞鍮屑六十匁貫匁在價格七十円計ノ

二回ヲ兵署委員歩兵中尉橋本喜和人ヨリ拂下ヲ
受ケタリト

(二)前記兵署委員橋本中尉ハ明治四十三年六月ヨリ引續キ
兵署委員トシテ事務ニ服シ歩兵第七十一聯隊渡満ノ
際前委員中尉(現尉)河村亮輔ヨリ明治四十二年
一月以降兵署委員ノ金錢出納簿及全出納簿ノ
決算残額現金二十円四十九銭五厘ノ引継ヲ受ケ之
カ出納ヲ掌リ現ニ今尚現金十六円五十七銭五厘
ヲ保管セリ

然レニ明治四十四年留守隊トナリ拂下ケル金屑代
ニ対スル収支ハ誤帳簿ニ記載セズ又他ニ之ヲ証明

スヘキ何等ノ書類ヲ保管セス且ツ其標下ケタリト云フ
 數量ハ藥莖ニ十貫ノ價格約二十円ノ一圓ノ三ニシ
 テ商人石津代作ノ申立即チ前項處銷屑十九六
 貫ノ價格十七七円及眞鍮屑六十貫ノ價格七十
 二円ノ四ニ甚シキ相違アリ

又橋本中尉カ耕下ケタリト云フ前記藥莖ニ十貫
 ニ對スル價格二十円ノ賣込ハ兵部庫邸家金細
 戸、目覚時計等七八具ヲ購入シタルモノニシテ
 其價格十八九円ナリト

大正元年八月十日

本件ハ第五師團長ハ通牒済

第一号

告第第七十一聯隊金屑拂下内訳表

年月日	品目	数量	代價	押下ノ金 商人	摘要
明治四十年 七月	ニッケル	五十二 八百文	五十四	石津佐作	林鏡之長取扱
明治四十三年 六月二日	真鍮屑	大貫八百文	五十四 七十四文	金	金
明治四十三年 七月九日	金	百五十八貫文	二百四	金	金
明治四十三年 一月	金	四十貫文	四十八	金	金

陸

軍

步卒第七十一聯隊留守陳金盾拂下內訳表

痛要

大正元年 廣本乙第一二号
八月十日

步兵第七十一聯隊及左留宇隊官物不正賣却件

步兵第七十一聯隊官物不正賣却事件ニ關聯シ步兵第七十一聯隊及左留宇隊ニ於テ武器、器具、金角ヲ用達商人ニ拂下ケ其代金ノ一部ハ留宇隊現時ノ兵器委員橋本中尉現ニ之ヲ保管シ之ヲ出納シ爲セリ尚其他ニ於テ賣却明瞭ナラサルモノアリ其内容左ノ如シ

一事實

現實

告兵第七十一聯隊

(一) 明治四十二年以後全四十四年二月二十五日別表第一
一、通告兵第七十一聯隊兵界委員に處
肩ニツケル等二百八十貫文余ヲ價格三百円
余ニテ全隊ノ用達商人廣島市堀川町石
津代作ニ賣却セリ其代金ノ費途ニ就テハ
部隊渡満中ニテ調査スル能ハサルヲ以テ不
明ナリ

全留守隊

(一) 大正元年八月四日石津代作ヲ取調ハシ死因

歩兵第七十一聯隊留守隊より制表ヲ二号ノ如ク明治
四十四年八、九月頃、真鍮屑十五匁賣外價格十匁七
月及今年十一月頃、真鍮屑十五匁賣外價格
七十一匁計リ、二匁ヲ兵器委員歩兵中尉
橋本喜和人ヨリ松下ヲ受ケタリト

(二) 前記兵器委員橋本中尉ハ明治四十三年六月
ヨリ引継キ兵器委員トシテ業務ニ服シ歩兵
第七十一聯隊渡満ノ際前委員中尉(大塚)河
村亮輔ヨリ明治四十二年一月以降兵器委員
ノ金銭出納簿及古出納簿ノ決算額
現金二十匁四十九匁五匁、引継ヲ受ケタリカ

出納ヲ掌リ 現ニ今尚現金十兩五十七匁五厘
ヲ保管セリ

然ルニ明治四十四年留學際レテリ 松下ケタニ金屑
代ニ對スル収支ハ該帳簿ニ記載セス又他
ニ之ヲ証明スヘキ何等書類ヲ保存セス且其
拂下ケタリト云フ數量ハ藥莢二十匁宛價格約二
十兩一匁ノミニテ商人石津代作ノ申立即チ
前項ノ真鍮屑十五匁宛價格十兩七匁及真
鍮屑二十匁宛價格七兩二匁ノ二圓ト甚シ
ク相違アリ

又橋本中尉カ松下ケタリト云フ前記藥莢ニ

十貫ニ計スル 價格二十月ノ費込ハ 兵務庫 廊下
金網戸、目覚時計等七八具ヲ購入シタルモノ
ニシテ 其價格十八九月ナリト

大正元年八月十日

本件ハ關東憲兵隊長及歩兵第七十一聯隊留守隊長
ニ通牒ス

陸

軍

第一号

歩兵第七十一聯隊全盾松下内款表

年月日	品目	数量	代價	松下内 金高入	摘要
明治四十二年 七月	二ツケル	五十二貫八匁	五十四円	石神代作	林鏡子長取扱
明治四十二年 六月一日	軍鎗屑	十八貫八匁	三十七円七十六	全	全
明治四十二年 五月九日	全	百三十八貫八匁	二百円	全	全
明治四十二年 一月	全	四十貫八匁	四十八円	全	全

陸軍

6890

第二号

歩兵第七十一聯隊留守隊金盾松下内取表

年月日	品目	数量	代價	摘要
明治四十二年 八月九日	金盾	十枚	七十七円	田中一等銃之長担当
左 十一月	金	新 十枚	七十七円	金

陸

軍

步兵第廿一旅團司令部 發送滿人甲第八一號

藥莢其他賣却不正事件一件報告

步兵第廿一旅團長吉岡竹次郎印

第五師團長大谷喜久藏殿

昨日滿人甲第八〇号ヲ以テ上申致候件ニ付別

紙聯隊長始末書ノ通りニ付及報告候也

追テ當時關係委員ノ始末書ハ出来次第

報告可致ニ付申添候

(九月三日受領)

陸軍

1690

始末書

始末書

明治四十二年二月以降、雷隊兵器委員並ニ留守
 隊兵器委員ニ於テ返納殘餘ノ空薬莖並ニ發
 掘彈ニツケル齊品等ヲ賣却シ、私金ヲ作り兵器費
 補填其他ニ種々流用シ奉リ、先件及明治四十五年
 二月中雷隊嶺ニ於テ兵器委員ガ所駐劄隊ヨ
 リ引繼遇刺ノ空薬莖ヲ一旦賣却シ其所管車
 項中ノ他ニ補填流用セントシテ果サス之ヲ買戻シ
 タル件ハ先キニ報告仕候通ニ有之、^{畢竟}下官
 ノ監督及區署ヲ誤リタルヨリ起リタル次第ニ

ニテ奉恐入候依テ左ニ事情ヲ開陳仕候

(一) 明治四十五年二月私金ヲ作り始メタル一及今三月ニ該
委員岡本中尉ノ山口出張ニ関シ當時如何ニ區署
ヲ與ヘタルカ刻下記臆ニ存スルモノナキ更ニ重テ岡本中
尉ヲ取調ヘ下詔ヤ答言(一)(二)ヲ聴取シ候所其答言
ハ確實ト認メラルニ隨テ當時下官ニ此テ兩方其旨ヲ
領シ実行セシメタル一ハ茲ニ自認仕候次第ニ候

(一) 私金ヲ作り始メタル一(岡本中尉ノ答言)

四十一年度ハ新兵器ノミナリシヲ以テ狹窄彈ハ完成彈
ヲ受領シ隊ニテ鑄造ノ要ナカリシモ四十一年度ヨリ
之ヲ鑄造スル一トナレリ併シ最初ハ疎彈アリテ鑄造

ラ見合セ居タルモ二月頃ヨリ之ヲ開始スルイトナリ其材
 料ハ發掘彈ニ由ル儀ナハ齊被甲ニツケルハ次オニ堆
 積スルニ至リ又ヲ賣却シテ國庫ニ納ムル正當トモモ
 兵器費ハ由來不足勝ノモノ故若干私金ヲ作り置き
 不時ノ用ニ供エテ如何ト考ツ起シ主坐山本大佐
 ニ申出テタル處重犬一付ニツキ隊長ノ承認ヲ蒙
 ケザル可カラストテ其時ハ止ミナリ後二三日隔テ同大
 佐ヨリ已ニ隊長ノ承認ヲ經ナリ但私金ハ公金
 以上其用途ヲ明瞭ナラシメザル可ラザル性質ノモノ
 ナリ決行上此注意ヲ要ス云々トノ指示アリテ乃チ
 再來其專シ精録スル帳簿ヲ用意シ主坐ノ

検印ヲ經又証據書類モ添付シ置ケリ

(四) 山口出張ノ件 (岡本中尉ノ答言)

駐隊命令ニ出テシヤ否ヤ記憶セサルモ (四十二年夏ノ
川ニ據行セス) 調査ニ難シ

目的ハ第一期検閲見學ニシテ

駐隊ヨリハ自今(岡本)一人ノミナリシカ同行氣

車中ニ當時ノ參謀長古見大佐及松山駐隊

ノ園田少佐同乗シアリ又自今ハ一日見學ノ

上即夜情況ヲ書信ニテ報告セシアリ云々

(二) 岡本中尉ト橋本中尉トノ交代ハ四十二年六月三日ナリ

然ルニ其前月即五月頃ナリシカ某隊ノ破綻事件發

生シ當時旅團長閣下ヨリ其駐隊内ニ私金等ノ

存在シ凡等ノ事アリテ、不可ナリ特ニ注意ヲ要ス旨内
 訓ヲ受ケタルヲ記騰ス然ルニ、前年二月ニ兵部
 員ニ與ヘタル指示ハ、當時念頭ヨリ、忘失シ該
 時何等私金ニ向テ制止ノ區署ヲ逸シ去リ
 録ニ両中尉ノ申送ニ際シ下記ノ如キ申結
 ヲナサシメ延テ以テ橋本中尉ノ時代トナリ、該時
 ノ主座ハ秋月中佐、尚昨午渡満後
 モ委員ハ橋本中尉ニシテ主座ハ秋
 月中佐即留字隊トナリテ以來モ同
 一ノ兩官ニ同一ノ業務ヲ扱ハシメ其結果
 該行爲ヲ繼續セシムルニ至レルハ一ツニ

下官ノ最初ノ區署ニ起因スル次第ニ
外ナラス 恐縮ニ奉存候

○岡本中尉ヨリ 橋本中尉ハ申匿状況（橋
本中尉ヨリ報告来リタル要件ニツキ今回岡本
中尉ニツキ更ニ取調ハノ結果両々一致
セシ合言ノ要旨也）

岡本中尉ノ申匿リタル兵器 要員ニ
ハ一種ノ私金アリテ此私金ハ射撃
場ヨリノ發掘彈、藥莖、區刺品
等ヲ賣却シタルモノナリ 元來狹窄
彈ハ之ヲ發掘彈ニテ製造スル規

定ナレト土砂混入多キ爲製彈困難ナリ
 依テ之ヲ賣却シテ鉛ヲ購入シ鑄造スルコトセリ
 而シテ瘵被甲ニツケル賣却代金ハ國庫ヘ納ムルヲ
 正多トスレバ發彈ト共ニ其代價ヲ私金ニ繰込ナリ
 而シテ護私金ハ各各ニ關スル表外物品又ハ不足品ノ購入補填、臨時
 必要ナル場合ノ修理費（特命檢閲前ニ迫リ革
 具千餘個ヲ僅ニ一昼夜ニ修理シタル如キ）
 檢閲前其他ノ夜業ヲナシテ帯合ノ夜食
 又ハ知識増進ノ爲メニ必要ナル書籍ノ購

入等使用セリ而シテ之カ出納ニ関シテ豫
メ主坐ノ承認ヲ兼ケ且ツ收入ニ對シテ納証
ヲ出サシメ支出ニ對シテ受領証ヲ徴シ
又出納簿ニ明記シ主坐ノ認印ヲ受
ケ置リ要ス云々

(三) 前各項記述ノ通一次ガ有之ル未其私金ノ製
作法及支出法ニ何等ノ指導モ与ヘズ又途中
立入り検査等モ行ヒタルヲモ無之漫然經過
仕リタルハ要スルニ監督臣等ヲ弛緩シ為ニ往
々不都合ノ支出アルレリルニ至レルハ恐懼ノ心ガ係
(四) 鉄嶺ニテ藥莢賣却ノ事端ノ原因ハ該番員

所管事項中此牛皮代價ノ件ニツキ時日記
 憶セサシモ留案際トノ間ニ交關案件ノアリタハ
 耳ニセシテアリナガラ此又委員等ノ區署ニ放
 任シ置キタル結果遂ニ委員ヲシテ前任委
 員ノ行為ニ倣ヒ一時過剰空費甚ク壟却
 シテ該案件ヲ始末セシト企圖セシメタルニ
 至リタルハ全ク下官ノ區署弛緩ヨリ起リタル
 故ヲ以テ是又恐縮ニ存候
 右之條々恐懼ノ至ニ候依テ始末書ヲ以テ上申
 仕候也

大正元年九月廿 歩兵第七十一聯隊長 及部 盛種 印

第五師團長大谷喜久藏殿

追申

本文關係ノ各委員ニ對スル考科の意見併テ
左ニ追申仕候

一岡本中尉 機才縦横ト云ハ如何カヒ存心ハ其要
スルニオツ以テ勝リ数学的頭腦ヲ有シ總テノ處理ニ着実
ト云フヨリハ敏速ノ方ナレカト存候 同中尉ハ四十年前冬

當隊ニ入りタルモノシテ未ノ間モナキナリシモ前隊（松
 山歩兵ヲ十二隊）ニアリテ一時兵器委員タルノアリ
 シ依リ當時（四十一年一月）當隊ハ俄カニ六中隊ヨリ
 十二中隊ニ膨張シ區々新轉入ノ將校アリシヲ以テ先ツ
 同中尉ヲ以テ前委員ガ浦瀨中尉ノ考據本部派遣ノ後
 ツ継カシノ委員ト致シタル功カニ當時兵器委員
 ノ業務ヲ俄カニ膨張ニ伴ヒ再ヒ改闢ヲ起シタルベシ
 此際ニ方リ中尉ハ能ク處理シタル（尤主坐ノ指導モ
 アルベシ）一ツ確信致候作併經過中勢手
 援ナリ（或ハ中隊ノ履行カ委員ノ要求ニ達ス）ノ等
 アリテ本文ヲ二項橋本中尉ハノ申述中ニアル如ク

特命横関司 俄然 多数ノ革具ヲ新金リ以
テ修理スル等ノ事件ヲ生シタル存候又中尉
ハ少尉時代ヨリノ素行上モ指摘
スヘキト是占ニ無シ候

二、橋本中尉 中尉ハ創設初年（四〇年）冬当隊ニ着
セシ者ニシテ原隊（廣田歩兵第一隊）ニテ被服委員
ヲ勤メ居リシ結果創設当時ノ被服委員ニ任シ
タリ然ルニ当隊ハ各隊ヨリノ保管轉管品ヲ以テ
其基礎ヲ作ル状態ニ在リテ被服業務ハ至大ノ混
雜ヲ来タシ當時人少ノ結果中尉ハ主トシテ計画実
施ニ方リ非常ノ困難ヲ犯セシ相等ノ處理シ得

タリシガ元来小心翼々ノ性質ニシテ所謂車ヲ
 ル廠ニ忠実ト云フ傾キアリテ全副又ハ将来ヲ透
 見シ得ル数理的頭脳ハ稍貧弱ナランヤトモ存候
 其カ爲メナリ相等ニ廠理ハナレアルモ爲ニ神至衰
 弱症状ツ呈シ不眠症ニ罹リ至員ツク鬼ニタ
 ルノ有之ハ(年月記略ス)甚後一年以上ニ至
 員業務ヲ離レアリテ健康大ニ恢復シ又
 兵務委員ノ交代ヲ要シハ際第二大隊ヨリ(周
 本中尉ハ第一大隊附)撰拔スルノトナリ橋本中尉其
 後任レ決定スルノト相成ル同中尉ハ津野侯爵
 家々職ノ橋本某(餘リ昇職ノ地位ニテラズト業

知教居歟、養子トシ、妻女モ其親戚トヤヨリ
来リタル夫婦養子ノ由ニ養父ハ長リ、病床
ニアリテ佐伯那ノ海岸（五日市ナリシカ）ニ別荘
ニアリテ資産モ豊潤ト云リ居ハ中尉、泉
邸内ノ自宅ニ起居致居ハモ、テ從來品行
上何等指摘スハナク其ハ無之候

三、河村大尉（当時ハ中尉）轉入前、妻帯者ナリシト
存候（四十卒冬轉入ト云ハ）朴納ニシテ平ナリ申セハ
氣傷キ、稍不元分、方ト存ハ故ニ彈藥出納
主任委員トナリシモ、軍ニ其事ヲ執掌スルニ
止リ最初ハ發掘彈賣却ノ、トモ聞知セシ、ア

リレカ何等心附カス四十二年冬藥英耕下ケ
 一為ノ岡本中尉ヨリ交^書リ受ケん始メテ私金
 一トテ醫知セン旨陳述致居條品行ヲ正シテ
 當鉄嶺ニ駐ル以來隊中ノ諸員ヨリ譽テ
 其品行ヲ篤信セラレ居ル一人ニ片堅條
 四石丸中尉 中尉ハ過去ニ於テ品行修ラヌ隊外
 ノ悪友ニ交リ(書生時代ノ友) 甚タレキ乱行
 ヲ敬テセシ一再三サリシガ 訓戒懲罰
 交々オレニ加ヘテ隊ニ渡滿一行ニ加ヘテ厥心
 機一轉善行大ニ修リ 嚴格ニ本俸ヲ内地
 後見者成川少佐ニ送附シ爲シ今日ニテ大概

舊負債ヲ償還レ得ルニ至リ成川少佐ヨリモ
 大ニ喜ヒ来リタル昨今状況ニ有之又昨年
 岡本中尉旅團副官ニ轉出後各署要員ニ
 指定サレタルハ大ニ彼ノ心機一轉ヲ強クス
 ルノ原因トナリ(自今モ永ク奮テアルニアルハス
 ト信シ先由ニト) 另來其書務ハ熱心ニ從
 事シ主筆奥田中佐ヨリモ數々之ヲ耳ニ
 シ一度更ニ獎勵ヲ加ハタルアリ又中隊
 長今田大尉ノ昨冬以來戸山學校入学ノ
 留學リ業ケテ中隊長ヲ代理シ結々其成績
 フサ洛サハリレリ特異ノ事項トス又心機一

轉以來從來動モスレハ執拗ノ傾向アリシガ爾來

此迄モ稍一端シ得タリト認メ居リハ要スルニ

昔日ノ石丸トハ迺來全ク異リ居候様相

認居候

以上各員ニ對スル所見ハ難駁ニシテ要リ得サル

ベケレ相認候件々追申仕候也

始末書



大正元年九月三日

陸軍歩兵少佐 山本清次 (印)

歩兵第七十一聯隊長及部盛種殿

明治四十二年二月より同年七月に至る間 歩兵第七十一聯隊長
 部盛種首座トシテ在職中 發掘陣 留管並ニ木綿
 瘡品ヲ賣却シテ私金ヲ製シ之ヲ委員事務遂行上ノ
 補助費ニ流用セリ此ノ如キハ法規ニ合セザルハ明確ニシテ
 假令下級者ヨリ意見ヲ呈スルモ之ヲ採用セス又上級者
 より命令アルモ其不合理ヲ上申スヘキモノナリ軍令ニ出テ
 ス下級者ノ意見ヲ是認シ更ニ上官ノ認可ヲ受ケ前記ノ
 處置ニ由ルハ全然首座トシテ職務ヲ誤リタルモノニシ

0120

テ誠ニ忍緒ニ耐ヘス茲ニ始末書ヲ以テ上申候也

始末書



四郎侯

明治四十二年七月吾農委員首座ヲ命セラレ事
 務引継ニ當リ前任委員首座歩兵少佐山本
 清次郎ヨリ委員保管ノ私金及之レカ由來
 並ニ使用ニ関シ取調長ノ兼知シ見事ナリトテ
 一俵帳簿ニ依リ申継リ受テ當時現金ハ
 僅カナリシモ近リ商人ヨリ四五十円納マルヘキ旨ヲ
 兼知セリ後數回ニ委員事務用或ハ銃工場

用品等ヲ購買スル為ニ右私金ヲ費消シテ
 隊長ノ承認ヲ經ス又前例ト異ナル之ヲ個人的
 用ニ費消スルヲ禁セリ 又一回隊長ノ
 承認ヲ經スルヲ堀土彈カ或ハ表外藥莖カヲ
 賣却シ同年十二月首座交代ニ當リ後
 帳簿ト共ニ私金ヲ後任者歩兵少佐秋月斎
 ニ引継ケリ

右行為ヲ為セリ恐縮ニ堪ヘス

大正元年
 九月三日

陸軍歩兵中佐 山田四郎 (印)

始末書



第壹號

大正元年九月一日

陸軍步兵中尉岡本靖



步兵第七十一聯隊長及部盛種殿

一、私金ヲ調製セシ時ノ情况

明治四十二年度（教育年）以降ハ步兵第七十一聯隊長
 射撃用鉛彈ハ隊内製作ヲサレルヘラス之レヲ為テ射撃
 發掘シ其鉛ヲ用ヒテ製作シ此ニ被甲ニツケルノ不要物
 ヲ生テ此不要物一處令ハ國庫ニ納金スヘキヤ私金トスヘキヤニ
 就キ首座山本少佐ノ指令ヲ仰キシニ同少佐ハ暫ク待テ
 トテ即答ヲ得ザリシニ後私金トシテ可ナリ然レモ出納簿ヲ
 調製ニ確實ナル出納ヲナシ且其収支ニ就テ首座ノ印

ヲ受ケサ人カラスト指示セラルレシヲ以テ再録私金ノ出納ニハ証
憑書類ヲ調製シテ収支ニ私ノイハシ明クシ取扱者ニ
下官ニ之ヲ捺印シ尚下士以下ノ疑ヲ招キシコトヲ顧慮
シテ庶務ヲ擔任シテ既ニ長林守吉ニモ圖算捺印
セシメタリ

二、藥莢拵下ニヨリ私金ノ調製

明治四十三年^{壬午}正月ノ頃藥莢拵下ニヨリ六拾八圓ノ收入
該拵下ハ秋月中迄ノ認可ヲ得エト雖モ之ヲ登誤ノ責
ハ下官ニ在リ下官在任中藥莢ヲ拵下ケルハ此一四ヲ
乙ノミトス

三、木綿廢品ニ依リ私金ノ調製

明治四十三年^{壬午}五月二十日木綿廢品ヲ拵下ケ金壹圓七拾

錢ヲ私金ニ組入レタリ

此木綿・麻品ト称スルハ格納ト爲テ入ノ爲ノ脂油ヲ汚穢セル木綿ヲ再ニ再四石鹼ニテ洗濯シ遂ニ緊張力ヲ失ヒ用ヲ爲サレニ至リタルモノヲ集メ置キ之ヲ拂下ケ先モ

四、現金ノ出納及保管者

現金ノ出納ハ下士以下ニ一度モ取扱ハレヌ下官直接商人ト受授シ又其金ハ下官ニ於テ保管ヲ擔任シ車務室備附ノ機密書類箱ニ容レ置キタリ

五、被甲及藥莖拂下ノ當事者

被甲ノ拂下ニ際シテハ毎回概ネ助手車曹渡邊群一之レカ量目ヲ秤リ下官之ニ出會ヒ商人ニ渡セリ

藥英ハ河村中尉ヨリ交附ヲ受ケ下官ニ於テ之ヲ熔融シ
 島銅棒トナシテ量目ヲ秤リ商人ニ交附セリ但シ此際量
 目ヲ秤リタルハ誰ナリシヤ目下記憶ニ存セス

六、私金支出ノ際ニ於テノ處置

大ニ支出ハ概ネ委員首座ノ認可ヲ得テ支拂ヒシニ僅少
 ナ支出ハ下官ニ於テ独断購買シ後首座ノ承認ヲ得シ
 モノモ數ナラス然レモ其區別ニ就テ目下記憶シラス

七、慰勞ノ爲物品贈與

支出中委員即手ニ慰勞ノ爲物品ヲ贈與シタルアリ
 此ノ件ハ下官ノ發談ニ傷レモニシテ山本少佐ノ認可ヲ受ケ
 ント雖其要方法ヲ發談シタル責ハ下官ニ在リ

八、小夜食件

鏡工卒其他市部ノ激キ多番卒ニ檢閲前小夜食ト
 シテ食物ヲ給シ急件ハ山本少佐ノ認可ヲ得レト雖之
 市其榮誤ニ係ル責ハ下官ニ存ス蓋シ市令第十一
 駐隊ノ在庫品ノ全部ハ此年(四十一年)三月下旬頃一
 回ニ交附セリ其小銃ノ全部ハ大分解手入ノ必要アリ其
 他ノ軍具ヨリ諸兵器ハ悉ク来ル年隨時檢閲止ニ手
 入リ完成ニ止メテ整備配列ヲ終ラサルヘカラス而シテ尚
 供用兵器ノ修理ヲモ完全ニ實施セントセリ鏡工卒ノ所
 苦リ甚大ニシテ檢閲前二週間ハ毎夜十時、十一時迄夜
 業ヲナサレ又銃工長及委員助手ハ晝間ハ之等ノ監督ニ忙ハ

エリ帳簿ノ如キリ、夜間之ヲ整理シ、検閲可ニ、三日撤
夜ヲナシタル、情況ニレテ斯カル、常苦ヲ強エル、爲メ手段トシ
テ発議シタルモノナリ

九、下官山口出張一件

下官ノ山口出張ハ、告身第四十二、取降第一、期検閲及内
務ノ見學ヲ目的トセシ、トテ記憶ス、而シテ此取降ハ、私金
ヨリ出スヘシ、ト山本少佐ヨリ命令アリ、レテ以下官ハ、高山
主計・取降ノ計算ヲ依頼シ、証書ヲ桐塚ニテ之、山本
少佐ニ、閱覧ヲ請ヒ、私金ヨリ出シタルモノトス

十、三八式銃管購入一件

此件ハ、前記ノ八項ノ如キ、情態ニテ、整理中監視不行、屈

ノ爲ニ百本紛失セルヲ發見シ（各署支廠ヨリ百本ヲ東ト
ニテ受領セリ）之ヲ正當ノ手續ニ依ル時ハ委員ノ失態ヲ
ヲ思ヒ商人ニ命ジテ製作セシモノナリ

十一、革具修理ノ爲支出ノ件

之レハ爲ノ四拾八月拾九日ヲ支拂ヘルノ四半年度臨時檢
閲前ニ至リ各中隊ノ革具（前盒後盒）ノ錠ヒ非常ノ
多數ニ上リ（前盒七百、後盒三四百アリト記憶ス）到底
銃工卒全部ヲ以テスルモ檢閲ノ間ニ合ハサルヲ以テ秋月
中佐ノ認可ヲ得 各署支廠職工ニ修理セシメタムモノシテ
商人石津代作ニ請買ハシメタリ

其ノ以修理ノ件

喇叭修理ノ為ニ三月ト格方月武格オト二回又井ヒタリ之
 レ喇叭ノ修理ニハ多クノ時間ト巧妙な技術トヲ要
 スルヲ以テ諸規ニ背キ市井ニ熟達セン職工ニ聞キ
 之レニ修理ヲ依頼シタモ、之レヲ秋月中在ノ認可ヲ得レ
 ズ之レヲ發誤ハ下官ヲモシモナリ

十三、彈藥箱金替ペンギ代ノ件

此當時彈藥ノ出納ヲ最重ナラシムヘキ指示ニヨリ金包並
 包狹窄彈ノ各混雜ヲ避ケン為メ各中隊ニ彈藥箱三個
 ヲ備ヘ之レヲ金包ヲ各異ニシ外見ヨリ真ニ其内容
 ノ何種彈藥ナルヤヲ知ラシメタリペンギ代ハ之レヲ為ソ
 ニ費消セシモノニテ彈藥箱ノ鍵ヲ購入シタモ此彈藥

箱ニ用フルモノヲ特ニ新調セシメタル

右ノ所爲ハ目下記憶ニ存スモノニ係ルモ要スニ該
規ニ匪ヒ要員トシテ惠芳ナルヲ既テ発談シタル罪ヲ免レス
軍々恐縮ニ堪ハス此ニ始末書ヲ以テ上申候也

始末書

[印]

第貳號

大正元年九月一日

陸軍告中尉岡本請印

告兵部七十一聯隊長及部監謹啟

一、私金考査因リ携行セシ時ノ情況

渡満ニ降シ下官ハ二度目兵部委員ヲ命セシ候

満出發ノ二、三週間前ヨリ兵部業務ノ必要ヲ申進

メ留守隊兵部委員橋本中尉ヨリ受ケ且梱包其

他手傳ヲナシタリ

此際私金考査因リ橋本中尉ヨリ受領セリ此受領
ニ関シ下官ハ新ニ派遣隊兵部委員首座トシ八キ
奥田中佐ノ認可ヲ得ヌ又橋本中尉モ奥田中佐

ニ云ハスレテ可ナリト云ヒレテ以下官ハ此私金ハ留
 守隊ノ直屬ノモノニシテ奥田中佐ニ關係セラル可
 ナリト思フレシヨリ満洲ニ携行セリ

二下官兵務委員免除ノ際参考内ノ設置

明治四十四年九月下官ハ轉職ノ為メ兵務委員ヲ免
 セラレ後任者石丸中尉ニ專ラ彈藥ノ業務ニ就キ
 申継ラセタリ

此際高野中尉ニモ石丸中尉ニモ私金参考内ノ携
 行シタルヲ申継セス又内地ニ私金見付ト並ニ如何
 ニシテ私金ヲ調製シタル等ノ事ニ就キ一言モ云ハサリ
 ナ初メ留守隊橋本中尉ヨリ兵務委員免除ノ

ナリ先ニ付控撥状ヲ出スト其ニ参考用ノ新金ハ
 下官俸管シ置テ旨附記シテ下官ハ内地ニ帰還セ
 乙際橋本中尉ニ直接手渡ストセリ

右下官ノ願置リ人ヲコレ疑念ヲ起サシテ殊ニ委員
 首座ニ報告セサリシ等ハ軍々若拙不堪ス此ニ始末
 書ヲ以テ上申候也

終リ

第七一號乙卷第三五号

奥田中佐始末書進達ノ件報告

大正元年九月十六日

步兵第七十一聯隊長及部監種

印

第五師團長大谷喜久藏殿

元當聯隊長畧要員首座タリ
奥田中佐ノ始末
書別紙ノ通り及進達候也

陸

軍

始末書



明治四十五年一月十八日 歩兵第七十一聯隊 兵器委員
 石丸歩兵中尉 空薬莖約三十貫ヲ在鉄嶺
 立島力太郎ニ賣却セシ趣 然ルニ當時在庫薬
 莖ハ歩兵第七十一聯隊ニ於テ使用セシモノ、外歩
 兵第四十三聯隊ヨリ引継モ含有仕リ居候間 返納
 期ニ先々該薬莖ノ整理ヲ命シタルニ其数量等
 ハ一月末(日不詳)ニ日記ニハ三十日ニ記入シテリ 報告ヲ受
 領セリ 然ルニ今月十八日 前記空薬莖中ヨリ一部賣却

セレ事情ヲ取調候處從來歩兵第七十一聯隊ニ於
テハ室藝英ヲ賣却セレ所例アリシヲ以テ石丸中尉ハ
独斷賣却セシモノニテ聯隊長ニモ報告スルニ由テハ官
ニ於テ前例モ申繼ク受ケタリナレ又今由ノ事實モ全
ク知ルナリ轉出致候
以上如末書ヲ以テ申述候

大正元年九月十日

元歩兵第七十一聯隊長森重貴人首坐

歩兵中佐奥田爲熊 (印)

歩兵第七十一聯隊及同留守隊各委員首座よりテ

藥莖其他金屬拂下事件ニ関スル始末書

一 聯隊滿洲巡邏前より留守隊編成當時ニ至ル状況

歩兵第七十一聯隊ニ於テハ從前ヨリ各委員ニツキ資金ヲ有セリ

該資金ハ射撃場ニ於ケル發煙彈・藥莖ノ過剩

(消費彈莖數ノ多ク
五ノ兩縣平ノ推察)

數量ヲ過剩セシメテ富澤ノ消耗
率ニ對シ自然過剩ヲ生ゼリ

等ヲ商人ニ拂下ケル金ナリ但シ發煙

彈ノ銘ハ之レヲ狹窄彈ニ鑄造シ「ニッケル」ハ之レヲ拂下ケ其代價ノ政

府ニ納入スヘキヲ正規トシレモ該銘ハ土砂ノ混入多クシテ鑄造

困難ナルヲ以テ之レヲ拂下ケ其代金ヲ以テ純銘ヲ購入シテ狹窄

彈ヲ製造スルヲ例トセリ而シテ該狹窄彈ヲ製造シテ尚舊製

アリトキ之レヲ各委員ニ關スル表外ヨリ購入、諸補修費、各委員

ヲ以テ購入レ能ハサル不足品其他兵器上ノ智識ヲ増進スル
為ノ書籍類ノ購入等ニ資スルノ慣例ナリ

明治四十二年十二月秋月中佐ハ歩兵中佐山田四郎ト委員首
座ヲ交代セル當時約五十日ノ資金アリテ兵器委員歩兵中尉
岡本靖之ヲ保管シヤリ前記申継ニ依リ素ヨリ隊長ヲ認
ノ事ト信シ再來依然其慣例ヲ持續シ来リ明治四十二年六月
歩兵中尉中尉橋本喜和人岡本中尉ト委員交代セル此後橋
本中尉ヲシテ保管官出納ヲナサシメタリ之ニ関係セル金銀ノ出納
簿ハ別紙寫ノ如シ

明治四十二年十一月施行ノ大演習ニ際シ聯隊ノ將校准士官ノ
刀身及刀鞘ノ鍍金剥脱シタルモノ多ク幸ヒ當隊付林鏡之長庵

氣鍍金ノ経験ヲ有スルヲ以テ兵器委員協賛ノ結果該作
 業ヲ兵器委員ノ手ニ實施セリ頗ル廉價ナルヲ以テ
 委員ノ資金ニ多サノ収入ヲ見ルニ見込ニテ同年九月頃より
 該鍍金用材料ヲ用達商人石津代作ヨリ購入シ直々ニ
 之レヲ試驗ニ着セシカ一時成績不良ナリシモ研究結果漸
 ク好成績ヲ得タルヲ以テ特許、准士官ノ刀一振五拾銭ヲ
 渡金ニストナリ約拾七八月ノ収入ヲ見タリ
 同年十二月右鍍金ニ要セシ総費用ヲ計算セシニ収支相續
 ハス又一方ニ翌年四月師團渡滿ノ内達アリタルヲ以テ渡滿
 前後ニ社タル費用及若干金ハ派遣隊執行ノ必要アリ又ニ
 年後帰隊前後ノ費用ヲモ豫想スル上尙金鍍金器具ノ整理

(参考)

此テ派遣隊ニ携行セシ爲ニ多額費用ヲ要スルモ其後
 他ノ収支ノ途ナキヲ以テ今年末ニ於テ藥費ノ表外ト爲スヘ
 キモノアルヲ以テヤレヲ拂下ケ前記鑛金費用ニ充當スル約
 算指貫ツ商人石津代作ニ賣却シ其代金ハ資金ニ組ミ
 入レス鑛金代收入ト共ニ存置シ置キ四十四年四月ニ至リ鑛
 金ニ要セシ額ヲノ費用ノ支弁ニ當テ多少ノ資金アリシハ
 鑛金作業ニ要スル藥品等ヲ購入シテ派遣隊ニシテ携行セリ
 (此ノ藥費拂下代金ハ鑛金材料ニ全部使用
 セシモノナルヲ以テ金銀出納簿ニハ詳記セス) 當時現在セル資金中金
 五圓ハ留守隊兵署委員橋本中尉ノ下ニ保管セリ
 (別冊金銀
 出納簿)

二、留守隊編成後今日に至る間、状況

明治四十四年四月留守隊編成後ハ兵器委員業務ハ主として橋本中尉ト一名ノ銃工長トノミテ擔任セサルヘカラス從テ在庫兵器手入ノ監視困難ナル爲メ装脱自在ナル金鋼製ノ戸扉ヲ兵器庫内ニ設ケ又室内ニ設ケル輕便電話機ノ電池、兵器検査用前掛、兵器庫用目覚時計（兵器手入ノ際作業ノ始終ニ休ム時等ヲ報スル必要上）其他數多ク購入セシヤ恊モ委員ノ手ニ過刺空藥共十數會、目アリレヲ以テ之ヲ拂下ケ前部購入品ノ支拂ヲナサレタリ、然ルニ橋本中尉ハ昨年末ニ飛テ俄然新兵ヲ留守隊ニ入當セシム、ナリシ準備計画等ニ忙殺セラレ遂ニ該出納リ帳簿ニ記入スルコトヲ忘却シタルコト別紙橋本中尉ノ呈出セル始末書等、如

クニテ本職モ亦甚難横ヲ行フニ至ラスニテ今日及リ

右之通相違無之候也

大正元年九月 日 陸軍歩兵中佐秋月 齋 